ISSN 2186-7763

おきなわ薬剤師会報

No.279.　2015(平成27年)　11・12月号

沖縄県薬剤師会

／目／次／

表　　彰	秋の叙勲 瑞宝双光章（浜元朝孝先生）	（1）
	学校保健および学校安全文部科学大臣表彰（佐久間長昭先生）	（1）
	平成27年度沖縄県薬事功労者知事表彰（外間惟夫先生、川満正啓先生）	（2）
	優良公衆衛生事業功労者：沖縄県公衆衛生大会長表彰（佐次田正先生）	（3）
	沖縄県薬物乱用対策推進地方本部長表彰（玉寄睦子先生）	（3）
巻　頭　言	在宅医療支援薬局の普及…荒井　千春	（4）
沖縄学術大会	第29回沖縄県薬剤師会学術大会報告…川平　浩子	（6）
	第29回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム	（8）
	第29回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会報告…大城　喜仁	（14）
	第29回沖縄県薬剤師会学術大会会員発表審査報告…姫野耕一・吉冨弓江	（15）
	第29回沖縄県薬剤師会学術大会奨励賞受賞講演要旨	（16）
薬と健康の週間	薬祖祭・街頭キャンペーン	（18）
	くすりと健康フェア（県民公開講演会）…笠原　大吾	（20）
	平成27年度「薬と健康の週間」行事表	（22）
会務ハイライト	平成27年度第1回地区薬剤師会会長会議報告…山城　英人	（23）
研　修　会	第3回薬剤師のための症例検討入門研修会参加報告…古謝さなえ	（24）
	第1回薬剤師のための在宅医療教育セミナー報告…久手堅奈央	（26）
実務実習	平成27年度Ⅱ期薬学生実務実習報告…我喜屋美香	（27）
	実務実習薬学生 平成27年度Ⅱ期生からの体験記・感想	（28）
	島袋滉也、仲俣桃華、宮平邦子、平良美沙登、粟國朝陽、運天雅、金城秀明、上地美穂、塚本真依、國吉佳央梨、新屋沙織	
部会だより	平成27年度女性薬剤師部会通常総会報告…草壁　瑞恵	（32）
	日本女性薬剤師会 第13回移動セミナー in 京都…与儀和子・草壁瑞恵	（34）
	第16回女性薬剤師部会主催漢方講座報告…喜納みゆき・小野加那恵	（36）
月例相談会	第125回健康とおくすり相談会報告（南部地区薬剤師会）…新垣　秀幸	（38）
	第126回健康とおくすり相談会報告（宮古地区薬剤師会）…下地　睦夫	（39）
	第127回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会）…吉田　洋史	（40）
啓蒙・普及活動	「グッジョブ☆にしはら わくわくワーク」における薬剤師職能の啓蒙活動について…伊差川サヤカ	（42）
	この日が来るのを、楽しみに待っていました！…儀間　千恵	（44）
	くらしのサポート講座開催のご報告…原田　直美	（46）
D　　I	薬事情報おきなわ №236…薬事情報センター	（47）
投　　稿	「うちなぁ がん薬ー薬連携の会」をご存じですか？…神元　繁守	（57）
薬　草　学	身近な薬草を知ろう 第23回ヒハツモドキ…狩俣　イソ	（58）
リレー随筆	旅行って素敵!!（その1）…廣川　直子	（60）
薬連だより	藤井もとゆき薬剤師後援会活動報告	（62）
	国会レポート「患者のための薬局ビジョン」について…藤井もとゆき	（63）
告知ポスター	くすりと健康フェア（県民公開講演会）PRポスター・新聞広告	（64）
転載記事	患者さんのための「薬局ビジョン」とは？　厚労省大臣・日薬会長対談	（66）
	論壇「かかりつけ薬剤師 重要」…川満　直紀	（68）
	論壇「在宅医療推進を支援」…荒井　千春	（69）
	栄養摂取 筋力低下を予防「くすりと健康フェアで吉田医師が講演」	（70）
	薬ざい師の仕事に感心（小学校6年生投稿）	（71）
	厚労省ビジョン「かかりつけ強化、身近な場所に」	（71）
年間目次	おきなわ薬剤師会報　平成27年もくじ（通巻274号～279号）	（72）
会務報告	薬剤師連盟会務報告（平成27年10月～11月末日分）	（82）
一包一話	“新老人とは”…橋　の　下	（88）
会員作品	誌上ギャラリー（裏表紙）について	（90）
編集後記		（90）
お知らせ	平成27年度沖縄県薬事功労受賞者合同祝賀会案内	（5）
	第4回「薬剤師のための症例検討入門」研修会開催日程	（25）
	地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！	（41）
	会報原稿募集のご案内	（45）
	九州厚生局沖縄事務所移転について	（87）
	表紙に掲載の写真「世界の薬局」を大募集！	（89）

・表 紙

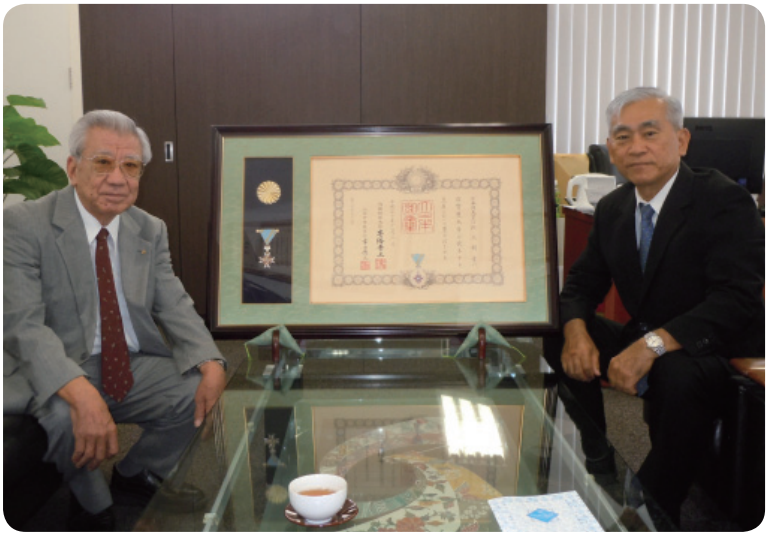
題字：豊平峰雲（とよひらほううん）

「ドイツ・ケルンの薬局」photo by 宮城 敦子（クララ薬局）

ドイツの薬局はショーウィンドウのディスプレイにこだわり、見る者を楽しませてくれます。ここでは、ヘアケア商品のPRに帽子と、オイル（グレープシードオイル）を示唆すると思われるグレープを飾っています。

秋の叙勲　瑞宝双光章

浜元 朝孝先生　おめでとうございます



浜元朝孝氏(左)が亀谷会長へ受章報告のため来会

秋の叙勲3964人

県関係者は51人受章

瑞宝双光章

浜元　朝孝(74)＝はまもと・ちょうこう＝学校保健功労。現学校薬剤師。浦添市安波茶2の15の8

平成27年11月3日(火)
沖縄タイムス・琉球新報

学校保健および学校安全文部科学大臣表彰

佐久間 長昭先生　おめでとうございます

学校保健および学校安全文部科学大臣表彰（10日）＝敬称略

【学校医】上里忠正（県立泊高等学校）

【学校歯科医】大城則安（糸満市立西崎中学校）

【学校薬剤師】佐久間長昭（県立八重山高等学校）

平成27年11月11日(水)　沖縄タイムス・琉球新報

平成 27 年度　沖縄県薬事功労者知事表彰

外間 惟夫先生・川満 正啓先生
おめでとうございます

期日：平成27年10月23日(金)　　会場：沖縄県保健医療部 部長室

表彰された外間惟夫氏

今年度の表彰者は3氏
左より、川満直紀氏（川満正啓氏欠席のため代理）
外間惟夫氏、上里林氏（沖縄県職員）

平成27年10月29日(木)　沖縄タイムス

薬事功労３氏 知事表彰
川満・外間・上里さん

宮古地区薬剤師会の川満正啓会長(54)と琉球大学医学部付属病院の外間惟夫副薬剤部長(56)、県衛生環境研究所の上里林所長(57)が薬事功労者知事表彰に選ばれた。県庁で23日表彰式があり、仲本朝久保健医療部長から賞状を受け取った。

川満さんは1999年に県立宮古病院が医薬分業を始めた際、地区薬剤師会運営実行委員の１人として県立病院との折衝や地域住民への啓発などに尽力。地区薬剤師会長７年11カ月、副会長５年間など役員としての功績も認められた。

外間さんは琉大病院薬剤部に

薬事功労者知事表彰を受けた（左から）川満正啓さんの代理・川満直紀さん、外間惟夫さん、上里林さん＝23日、県庁

30年以上務めており、薬物療法への支援など臨床現場の取り組みが評価された。14年からは県病院薬剤師会長を務め、ことしからは県薬剤師会副会長となり、病院と保険調剤薬局との連携強化にも取り組む。

上里さんは83年に県職員に採用されて以来、麻薬・覚せい剤の監視業務に合計21年間かかわってきた。2010年以降に流通が増えた危険ドラッグ対策では県警など関係機関と連携して県内の取り扱い店舗ゼロ達成に貢献した。

外間さんは受賞に感激していると言い「高齢化社会を迎え、薬剤師は今後も役割が大きくなるので頑張っていきたい」と抱負。上里さんは「長年薬事行政に携わったことが評価されてうれしい」と語った。川満さんは欠席し、おいの川満直紀県薬剤師会常務理事が代理で賞状を受け取った。

平成27年11月27日(金)
琉球新報・沖縄タイムス

◇医学教育等関係業務功労者文部科学大臣賞（26日）
【大学病院関係】崎原正治（琉球大医学部付属病院）＝沖縄市▽外間惟夫（琉球大医学部付属病院）＝中頭郡

外間惟夫先生は、
文部科学大臣賞も
受賞されました。

第 47 回　沖縄県公衆衛生大会長表彰

佐次田 正先生　おめでとうございます

期日：平成27年10月30日(金)　　会場：沖縄産業支援センター

左より、吉田久子氏、佐次田正氏、比嘉真三沖縄県公衆衛生協会副会長

沖縄県薬物乱用対策推進地方本部長表彰

玉寄 睦子先生　おめでとうございます

話　題

薬物乱用防止で４人表彰
島袋・國吉・玉寄・上地さん

薬物乱用防止指導員として長年にわたる功績が認められ、島袋吉徳さん(68)＝本部＝と國吉清春さん(87)＝那覇、玉寄睦子さん(68)＝八重瀬、上地恵永さん(64)＝石垣＝が20日、県庁で県薬物乱用対策推進地方本部長（本部長翁長雄志知事）表彰を受けた。指導員は学校での講演や街頭キャンペーンの参加、普及啓発パンフレットの配布などをボランティアで担う。

國吉さんは25年間、上地さんは20年間、島袋さんと玉寄さんは17年間務めている。４人は仲本朝久保健医療部長から表彰状を受け取った。

感謝状を贈られた島袋吉徳さん（左端）と國吉清春さん（左から2人目）、玉寄睦子さん（同4人目）、上地恵永さん（右端）。中央は仲本朝久保健医療部長＝20日午後、県庁

平成27年11月28日(土)　沖縄タイムス

巻頭言

在宅医療支援薬局の普及

在宅医療担当理事
荒井 千春

在宅医療を担う薬剤師の養成・支援を目的として、沖縄県薬剤師会は平成27年6月に「在宅医療委員会」を発足しました。国は、在宅医療を高齢者に対してのものだけでなく、緩和ケアを目的としたがん患者さん、重度の障害をもつ子供たち、その他にも高カロリー輸液で栄養管理を行う患者さんに対しても目を向けた制度に変えつつあります。

当委員会の主な会員支援事業は以下の3つです。

①在宅医療支援薬局の啓発活動
②在宅医療推進のための講演会
③無菌調製の実践講座

これらの活動を行い、薬剤師の職能と薬局機能の拡充、新しい在宅医療支援制度を構築することで地域医療に貢献することができると考えます。

① 在宅医療支援薬局の啓発活動

県薬剤師会のHPに在宅医療を支援できる54ヶ所の薬局一覧を地区別に掲載しました。在宅担当薬剤師名、受け入れ可能な担当地域、施設（患者宅、介護施設など）、疾病（高齢者、緩和ケア、重度心身障がい児など）、注射薬の無菌調製などと一般の方々にもわかりやすく、細やかな掲載を心がけました。今後は医師会をはじめとした関係団体や病院の地域連携室などへの啓発運動も予定しています。

② 在宅医療支援のための講演会

まず初めに、小児在宅医療の講演会を実施しました。これは、現在の在宅医療支援薬局の約4割が小児の受け入れ不可となっていることからです。また、緩和ケアについても同様に受け入れが困難な薬局が多数みられたため、来年3月に講演会を予定しています。このように在宅医療支援薬局の拡充を図るべく、様々な疾患についても講演を企画したく考えていますので、ご希望のテーマがあればお気軽にご連絡下さい。

③ 無菌調製の実践講座

クリーンベンチの設置及び共同利用の推進を目的として、TPN、医療用麻薬注射剤及び抗がん剤の無菌調製の実践講座を開催しました。

平成24年の調剤報酬改定の際、無菌製剤処理加算の算定要件が緩和され、「無菌製剤処理を行うための専用の部屋」がなくても算定可能になりました。また、無菌調剤室の共同利用に関する省令も改正され、薬局が無菌調剤を行うための環境整備が進められています。現在、県内では7ヶ所の薬局がクリーンベンチを設置しています。その中でも、会営薬局うえはら、北部地区薬剤師会営薬局では共同利用を目的として設置されており、患者さんの要望に応えられるような体制が整いつつあります。

今後もこのような実践講座を継続し、注射薬の無菌調製受け入れ可能な薬局の拡大を図っていきます。

在宅医療の普及により、病気をかかえる患者さんやご家族が住み慣れた街や自宅でいきいきと自分らしい生活を続けることが可能になってきています。これを制度として取っておくのではなく、しっかりと利用して頂けるようにしなければなりません。最も身近な医療施設である薬局が、患者さんのご自宅において安心した医療サービスを提供できるよう、私たち在宅医療委員会は支援していきます。

平成27年度 沖縄県薬事功労受賞者合同祝賀会案内

日時：平成28年1月17日(日) 午後6時～
会場：沖縄都ホテル 綾羽の間（2階）

【瑞　宝　双　光　章】　浜元　朝孝氏

【学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰】　佐久間長昭氏

【日本薬剤師会有功賞】　今井　忠子氏　大城　清吉氏　嘉陽美津子氏
桜川浩太郎氏

【沖縄県薬事功労者知事表彰】　外間　惟夫氏　川満　正啓氏

【沖縄県医薬品登録販売者協会会長表彰】　日高　佳子氏　親泊　康行氏

【沖縄県薬剤師会長表彰】　神山えり子氏　沖山　勝彦氏　普天間公子氏
戸田　澄之氏　城間　盛伸氏　比嘉佳穂子氏
笠原　大吾氏

【沖縄県学校保健会長表彰】　高良　弘子氏　喜舎場綾子氏　伊集　俊雄氏

【沖縄県公衆衛生大会長表彰】　佐次田　正氏

【那覇市政功労賞】　西　登貴世氏

※祝賀会チケットをお求めの方は、沖縄県薬剤師会事務局、または地区薬剤師会までご一報ください。

沖縄学術大会

第29回沖縄県薬剤師会学術大会報告

日時：平成27年11月１日（日）10:00 ～ 17:50
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール（会員発表・ランチョンセミナー・特別講演）
　　沖縄県薬剤師会館 研修室（機器展示・懇親会）

亀谷浩昌大会会長挨拶

大会実行委員
川平 浩子

第29回沖縄県薬剤師会学術大会は、「ちゃーがんじゅー沖縄の実現に向けて～薬剤師の貢献と多職種連携～」という大会テーマのもと澄みきった秋晴れの中、沖縄県薬剤師会館で開催されました。

今年は離島との中継はありませんでしたが、267名（薬学生12名、県薬147名、病薬108名）と多数の参加者がありました。メイン会場には全員入りきらなかったため、会場前にモニターと椅子を用意するなど盛況のうちに無事終了しました。今大会の講演要旨の表紙は17世紀のドイツ皇帝が「薬剤師に薬を調剤する権利証書の交付式」で、その拡大複写画は本会館ホール前に展示されています。

定刻どおり外間惟夫実行委員長の開会の辞に続いて、亀谷浩昌大会会長が挨拶で、今大会のテーマである「ちゃーがんじゅー沖縄の実現に向けて」は急速に進行する少子高齢社会で高齢者をとりまく医療の環境が入院から在宅へ、疾病の治療から未病・予防へと移行し、薬剤師の活躍する場がますます広がりつつあるので、更なる薬剤師のスキルアップが必要との思いが述べられました。

会員発表は病院診療所部門から12演題、保険薬局部門から3演題そして学校薬剤師部会と女性薬剤師部会から各1演題ずつ合計17演題の発表がありました。病診部門からの発表は内服薬の自己管理、持参薬への薬剤師の関わり、妊娠と悪性黒色腫、医療安全、フィジカルアセスメント、TDMや抗菌薬、持続性抗精神病薬関連、HIV診療と広範な内容の発表があり病院薬剤師の業務が多様化していることの現れだと思います。保険薬局部門からは薬剤師が在宅医療に関わった事例と不動在庫備蓄ネットワークの発表がありました。今大

会は保険薬局部門からの発表が昨年の大会の7演題から3演題へと減少しており、来年度は是非、多くの会員に日頃の研鑽の結果を発表していただきたいと思います。

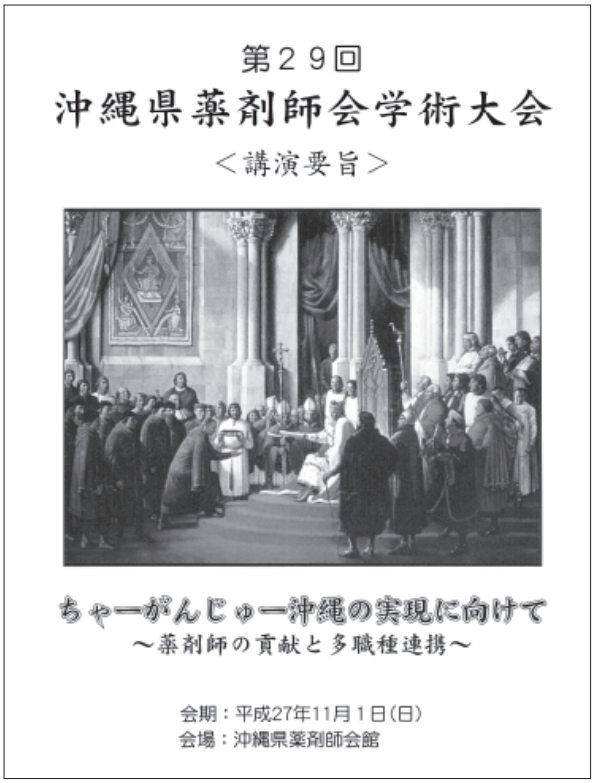
会員発表の合間に前文部科学副大臣の藤井もとゆき参議院議員による「薬剤師業務と政治」について講演がありました。普段の業務と政治との距離はかなり離れているように思われますが、平成18年に薬学教育が6年制となり、また平成26年6月に改正薬剤師法が施行され我々薬剤師と政治は案外近いところにあるのだと感じました。薬剤師法の第25条の2で「薬剤師は、調剤した薬剤の適正使用のため、販売又は授与の目的で調剤したときは、患者又は現にその看護に当たっている者に対し、必要な情報を提供し、及び必要な薬学的知見に基づく指導を行わなければならない。」となり、薬剤師も医師と同様、専門職として重大な責任を負うことになりました。薬歴の中に指導した内容を記録に残すことが一層重要になってきます。

ランチョンセミナーは協和発酵キリン株式会社の共催で医療法人友愛会南部病院の麻酔科診療部長の笹良剛史先生をお招きして「がん患者と何を話すか？ 緩和ケアにおけるチーム医療とコミュニケーション」というタイトルで講演を頂きました。悪い情報を患者に伝える際のコミュニケーション向上のために欧米で開発され、日本人向けに改良されたプロトコールの最新の知見をわかりやすく紹介していただきました。

研修室では機器展示が昨年同様に開催され、8社に最新の薬局設備機器や調剤支援機器やソフト等の出展展示をしていただきました。

特別講演は、ファルメディコ株式会社　代表取締役の狭間研至先生に「薬局・薬剤師が変われば地域医療が変わる」と題して講演して頂きました。医師であり薬局経営者でもある狭間先生からは、地域医療のなかでも薬物治療が医療行為の多くを占めており様々な服薬支援、肝機能・腎機能の低下は処方内容の個別最適化が必要になっている。そのため薬を渡すだけでなく、薬を服用した後の患者さんの薬物治療に医師と協働で関わることへの意義を講演していただきました。

講演要旨集表紙



特別講演後に発表認定証と大会奨励賞の授与式が行われました。今年の大会奨励賞は病院診療所部門ではハートライフ病院の仲原大介先生による「貼付剤の剥がれ易さの検討について」が、保険薬局部門ではすこやか薬局の砂川信子先生の「HIV陽性患者への在宅における服薬支援～多職種連携～」が選ばれました。両氏には、亀谷浩昌会長から賞状と奨励品が授与されました。

その後、普久原隆大会副実行委員長による閉会の辞で第29回学術大会は無事終了しました。

今大会も成功裏に終えることができましたのは、座長や演者の先生方の御協力と、共催や広告、機器展示に出展いただいた協賛企業のご支援、さらに沖縄県薬剤師会事務局ならびに大会運営スタッフの協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

第29回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム

受　付　9:00 ～
開　会　10:00 ～

司会　第29回学術大会委員
佐　藤　雅　美

○ 開会の辞　第29回学術大会・実行委員長　外　間　惟　夫
○ 会長挨拶　第29回学術大会・会長　亀　谷　浩　昌

Ⅰ　会員発表（午前の部）

◎演題番号（1 ～ 6）　10:10 ～ 11:10　　座長　第29回学術大会委員
上原　卓朗

1. 内服薬の自己管理評価を行ってみて
那覇市立病院　薬剤部　○新　垣　　剛

2. 妊娠中に合併した悪性黒色腫の症例と薬剤師の関与
琉球大学医学部附属病院　薬剤部　○伊差川　サヤカ
潮　平　英　郎　　鈴　木　　毅
外　間　惟　夫　　中　村　克　徳

3. 入院支援室における持参薬確認業務の取り組み
中頭病院　薬剤部　○比　嘉　尋　子　　渡慶次　真由美
平　良　　恵　　長　濱　照　美

4. 外科病棟での薬剤師による持参薬鑑別報告から見えてくるもの
沖縄県立八重山病院　薬剤部　○島　田　正　士　　上　地　美奈子
座間味　智　子　　中　村　倫　子
吉　本　尚　志　　比　嘉　正　紀
又　吉　真梨菜　　伊　波　綾　乃

5. 薬剤師の医療安全に対する意識調査

沖縄県立南部医療センター　○長　田　　茂
こども医療センター 薬局

6. “薬剤師のためのフィジカルアセスメント研修会”の受講生習熟度調査報告

薬剤師のためのフィジカルアセスメント研修会ワーキンググループ世話人会
○山　本　紗　織
笠　原　大　吾　　姫　野　耕　一

ブレイクタイム（休憩）
11:10 ～ 11:20

◎演題番号（7 ～ 8）　11:20 ～ 11:40　　座長　第29回学術大会委員
阪本 崇彰

7. 学校プール水の管理に関わった事例報告

学校薬剤師部会　○知　名　博　樹
沖縄県薬剤師会試験検査センター　　小　泉　宝　之

8.「妊婦・乳幼児健診」に薬剤師が貢献できることをめざして
～幼稚園児・保育園児保護者へのアンケート調査から見えてきたこと～

女性薬剤師部会　○村　田　美智子　　狩　俣　イ　ソ
与　儀　和　子　　草　壁　瑞　恵

Ⅱ　講演　『薬剤師業務と政治』　参議院議員・薬学博士　**藤井 基之** 先生　11:40 ～ 12:10

＜プロフィール＞　ふじい もとゆき
岡山県出身。昭和44年東京大学薬学部薬学科卒業、旧厚生省に入省、厚生省薬務局麻薬課長などの要職を歴任、平成9年には厚生省を退官。その後、日本薬剤師連盟副会長、日本薬剤師会常務理事に就任、平成13年に日本薬剤師会、各都道府県薬剤師会からの推薦で、参議院議員選挙に出馬し当選。しかし、6年後の平成19年の参議院議員選挙では、惜しくも自民党への逆風のあおりを受け落選し、私たち薬剤師の声を政界に届ける術を無くしてしまいました。それから3年後の平成22年の参議院議員選挙で薬剤師関係者の強い応援により見事返り咲いた。その後は卓越した手腕を発揮し、数々の要職を歴任し、平成26年9月には文部科学副大臣に就任、その副大臣の任期を全うし、継続して国民・薬剤師ために活躍されている。

参議院議員選挙に向けて　　沖縄県薬剤師連盟 顧問　神村 武之

ブレイクタイム（休憩・機器展示等の閲覧）
12:10 ～ 12:40

Ⅲ　ランチョンセミナー　12:40 ～ 13:40　共催：協和発酵キリン(株)
製品情報提供「**がん突出痛治療薬 アブストラル舌下錠の製品情報提供**」
協和発酵キリン(株) 沖縄営業所　藤本　賢

がん患者と何を話すか？
緩和ケアにおけるチーム医療とコミュニケーション
医療法人友愛会 南部病院 麻酔科診療部長　**笹良 剛史 先生**

＜プロフィール＞　ささら　たけし　昭和63年琉球大学医学部医学科卒業。昭和63年琉球大学医学部麻酔科入局、平成6年関東逓信病院ペインクリニック科、平成10年カルフォルニア大学サンディエゴ校リサーチフェロー、平成11年琉球大学医学部附属病院麻酔科助手・麻酔科外来医長・総合診療センター・緩和ケア部門・緩和ケアチームリーダー兼任、平成19年社会医療法人友愛会南部病院麻酔科医長・緩和ケア・ペインクリニック担当・緩和ケア対応病棟医長、平成25年社会医療法人友愛会南部病院麻酔科診療部長、琉球大学医学部非常勤講師、沖縄県がん診療連携協議会緩和ケア部会長、現在に至る。麻酔指導医認定、ペインクリニック学会認定医、日本緩和医療学会暫定指導医、日本サイコオンコロジー学会代議員。

ブレイクタイム（休憩・機器展示等の閲覧）
13:40 ～ 14:00

Ⅳ　会員発表（午後の部）
◎演題番号（9 ～ 12）　14:00 ～ 14:40　座長　第29回学術大会委員　阪本 崇彰

9. **ダイレクトテレフォン**
ヴァインドラッグ末吉薬局　○盛　本　直　也（都合により発表辞退）

10. **外来と在宅で服薬支援に繋がった事例報告**
こくら虹薬局　○久手堅　奈　央
比　嘉　　仁　　野　村　久　子

11. **不動在庫備蓄ネットワークシステムの活用**
－地域薬局で地域住民のニーズに応えていく－
薬局えぱーわーな～　○大　城　恭　子

12. **HIV陽性患者への在宅における服薬支援　～多職種連携～**
すこやか薬局グループ　○砂　川　信　子　　喜屋武　敦　子
坂　本　政　文　　比　嘉　浩　一
喜屋武　芳　美　　佐　藤　雅　美
沖縄県立中部病院 薬剤部　呉　屋　多恵子　　赤　嶺　一　姫
沖縄県立中部病院 看護部　向　井　三穂子
沖縄県立中部病院 感染症内科　椎　木　創　一
訪問看護ステーションリズム　新　垣　恵美子

ブレイクタイム（休憩・機器展示等の閲覧）
14:40 ～ 14:50

◎演題番号（13 ～ 18）　14:50 ～ 15:50　座長　第29回学術大会委員
潮平 英郎

13. 薬剤師によるTDM検査代行入力システムの取り組み

浦添総合病院 薬剤部　○我喜屋　航　浜元善仁
平田やよい　赤崎瞳
翁長真一郎　比嘉保

14. 貼付剤の剥がれ易さの検討について

ハートライフ病院 薬剤部　○仲原大介
田中健嗣　大関秀和
田中泉　翁長寛人
宮里武行　真地千明
上地美和　仲宗根ちひろ

15. 当院における外科治療を必要とした消化管穿孔患者への抗菌薬の投与状況の報告

豊見城中央病院 薬剤科　○新垣淑大
伊波友理華　安里美奈
小杉卓大　橋本孝夫
腎臓・リウマチ膠原病内科　西平守邦

16. 当院におけるHIV・AIDS診療体制と今後の課題

沖縄県立宮古病院 薬局　○喜友名朝史
垣花真紀子　渡真利国浩
総合内科　杉田周一　露木寛之
看護部　饒平名学
検査科　砂川悟
総務課　浦崎亜衣美

17. 当院におけるカルバペネム系抗菌薬の適正使用の試みと成果

沖縄県立中部病院 薬局　○喜舎場知香
伊波寛史　川平浩子
看護部　富山辰徳　兼島優子
検査科　八幡照幸
感染症内科　椎木創一　高山義浩
成田雅

18. 琉球病院でのアリピプラゾールLAI使用患者の症例報告

独立行政法人 国立病院機構 琉球病院　○雪竹英志

ブレイクタイム（休憩・機器展示等の閲覧）　特別展示1社・機器展示8社　　15:50 ～ 16:20

おきなわ津梁ネットワーク(沖縄県医師会)

(株)ＩＴＳシステム

(株)EMシステムズ

(株)タカゾノ

(株)トーショー

パナソニック ヘルスケア(株)

日立メディカルコンピュータ(株)

(株)ユヤマ

(株)リレーションズ

〈会員発表審査会〉　　16:00 ～ 16:20

病院診療所関連部門審査員

○姫野　耕一　○比嘉　佳穂子　○沖山　尚美
○徳嶺　恵子　○勢理客　成史

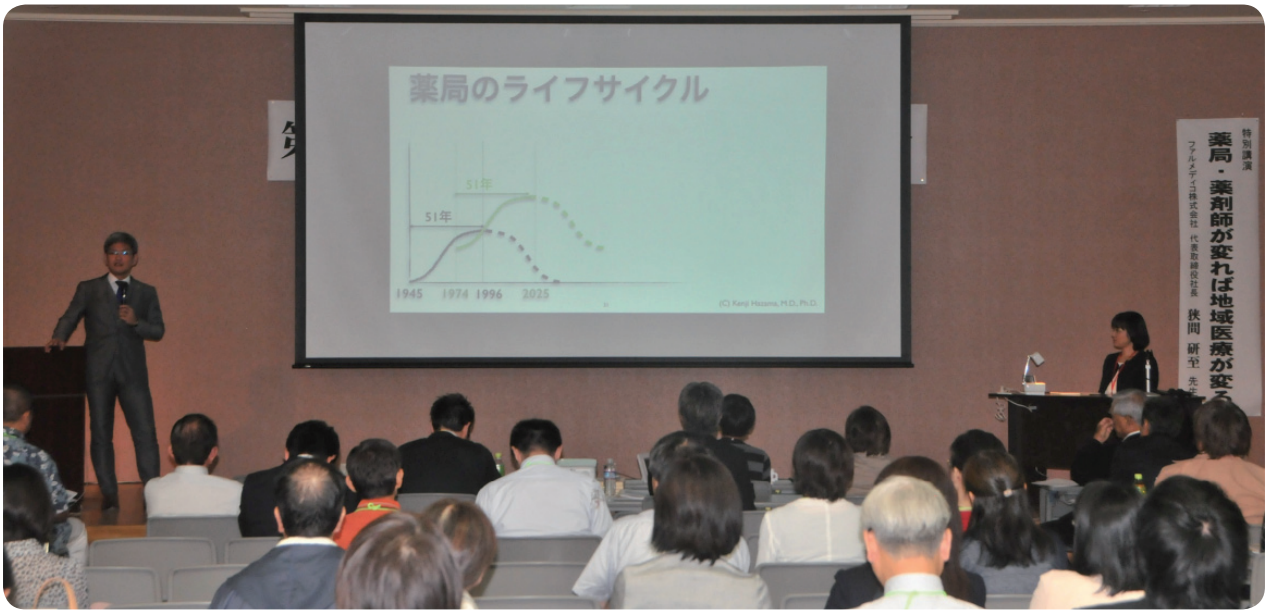
開局・その他部会関連部門審査員

○江夏　京子　○山里　勇　○川満　直紀
○我喜屋　美香　○吉冨　弓江

Ⅴ　特別講演　16:20 ～ 17:50

『薬局・薬剤師が変われば地域医療が変わる』

ファルメディコ株式会社 代表取締役社長　**狭間 研至 先生**



＜プロフィール＞　はざま　けんじ

ファルメディコ株式会社代表取締役社長。医師、医学博士。
平成7年大阪大学医学部卒業後、大阪大学医学部付属病院、大阪府立病院（現大阪府立急性期・総合医療センター）、宝塚市立病院で外科・呼吸器外科診療に従事。平成12年大阪大学大学院医学系研究科臓器制御外科にて異種移植をテーマとした研究および臨床業務に携わる。平成16年同修了後、現職。現在は、医療法人思温会・医療法人大鵬会にて地域医療の現場等で医師として診療も行うとともに、一般社団法人薬剤師あゆみの会・一般社団法人日本在宅薬学会の理事長として薬剤師生涯教育に、近畿大学薬学部・兵庫医療大学薬学部、愛知学院大学薬学部の非常勤講師として薬学教育にも携わっている。
〇著書：薬局マネジメント3.0（評言社）、薬局が変われば地域医療が変わる（じほう）、薬剤師のためのバイタルサイン（南山堂）、薬局3.0（薬事日報社）、外科医薬局に帰る（薬局新聞社）など
〇共著：臨床調剤学（南山堂）、薬物治療学（化学同人）、新IT医療革命（アスキー新書）、ITが医療を変える（アスキー・メディアワークス）など

座長：(株)薬正堂 すこやか薬局グループ
比　嘉　朋　子

○ 閉会の辞　　第29回学術大会・副実行委員長
普久原　隆

大会発表認定賞・奨励賞授与式　18:00 ～ 18:20

発表者17人に外間惟夫大会実行委員長から認定賞が授与された

受章の喜びを述べる奨励賞受賞者
仲原 大介氏　　砂川 信子氏

沖縄学術大会

第29回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会報告

日時：平成27年11月 1 日(日)
18:30 ～ 20:00
会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

会場を下階の研修室に移し、約50名の参加の下、佐藤雅美理事の司会で第29回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会は進行された。

江夏京子副会長の開会の辞で始まり、亀谷浩昌会長が挨拶、その後、大城桂子監事の乾杯のご発声にて歓談となった。

歓談で賑やかな中、沖縄県薬剤師会会長表彰式が執り行われた。普天間公子、戸田澄之、比嘉佳穂子、城間盛伸、神山えり子（代理：徳嶺恵子)、沖山勝彦（代理：沖山尚美)、笠原大吾（代理：村田成夫）の7氏に亀谷会長から表彰状と記念品が授与され、普天間公子氏が代表して謝辞を述べた。

会も半ば、懇親会にも出席いただいた学術大会特別講演講師の狭間研至先生と藤井基之先生からご挨拶をいただき､会場が更に盛り上がった。

楽しい交流を深めた懇親会も瞬く間に時間となり、大会実行委員長の外間惟夫副会長による閉会の辞で終了した。

(報告:第29回大会事務局 大城喜仁)

会長表彰受賞者代表謝辞　普天間 公子氏

普天間 公子氏

戸田 澄之氏

比嘉 佳穂子氏

城間 盛伸氏

乾　杯
大城 桂子 監事

懇親会までご参加くださった
狭間 研至 先生

藤井 基之 先生

第29回沖縄県薬剤師会学術大会会員発表審査報告

＜病院薬剤師関連部門審査報告＞

病院薬剤師関連部門審査委員
姫野 耕一

第29回沖縄県薬剤師会学術大会において、病院薬剤師部門の発表は12演題ありました。発表は、県立中部病院、県立宮古病院、県立南部医療センター・こども医療センター、県立八重山病院、ハートライフ病院、琉球病院、琉大病院、浦添総合病院、那覇市立病院、中頭病院、豊見城中央病院から各1題と県病院薬剤師会フィジカルアセスメントワーキンググループから1題となっています。研究テーマは、薬剤師が患者の安全確保、薬物の適正使用にいかに貢献できるかを模索し、発表に至っていることを伺わせています。今回、演題提出のなかった施設も次回大会に向けて日頃の研鑽の成果を発表してほしいと思います。

大会当日の発表された演題の中から奨励賞を授与する発表演題を選定するのですが、評価の基準は、研究成果を患者や地域に還元できるか、研究の進め方が倫理にかなっているか、発表構成は適切か、発表内容に関して抄録と発表内容との関連性、プレゼンテーション技術、時間配分等について審査し、これを点数化すると共に審査員の意見も加え総合的に評価して選定しました。

5名の審査委員で協議した結果、ハートライフ病院の仲原大介先生による「貼付剤の剥がれ易さの検討について」を奨励賞に決定しました。これまでに無い発表で、患者目線の発想から、試験計画も科学的であります。今後も貼付剤が市場に出てくる事が予想されますが、その選択にも応用が期待できます。さらに対象薬剤の種類を増やして、今後の発表に期待したいと思います。そのことが薬剤の選択の指標にもなり、患者にも大きく貢献すること等が審査において高い評価を得ました。

学術大会への演題数は年々増え、発表の内容も充実しています。今大会のテーマである、「薬剤師の貢献」にふさわしい大会であったと思います。

＜開局・その他関連部門審査報告＞

開局・その他関連部門審査員
吉冨 弓江

開局・その他関連部門では、学校薬剤師部会、女性薬剤師部会から各1題、保険薬局から3題の発表がありました。

5名の審査員で発表テーマ(2項目各3段階)、発表内容･構成（5項目各5段階)、発表方法（3項目各3段階）の観点から、研究発表をよりよいものにできているかを点数化して大会奨励賞1題を選定しました。その結果、(株)薬正堂 すこやか薬局グループの「HIV陽性患者への在宅における服薬支援～多職種連携～」が選ばれました。

発表の「まとめ」にもあるように、沖縄県はHIV陽性患者が全国人口比3位、エイズ患者は1位となっているため、在宅で医療を受けるHIV陽性患者が増加すると考えらます。薬局においてはHIVに限らず他の感染症を患っている患者にも対応できるよう、あらかじめ準備しておくことが必要になるでしょう。このように、これからの在宅医療に薬剤師の介入が100％必要で、今後増えてくるであろう特殊な例を的確に示唆してくれた発表でした。

＜保険薬局・その他部会関連部門奨励賞受賞講演要旨＞

12. HIV陽性患者への在宅における服薬支援 ～多職種連携～

(株)薬正堂 すこやか薬局グループ　○砂川 信子　喜屋武 敦子
坂本 政文　比嘉 浩一
喜屋武 芳美　佐藤 雅美
沖縄県立中部病院 薬剤部　呉屋 多恵子　赤嶺 一姫
沖縄県立中部病院 看護部　向井 三穂子
沖縄県立中部病院 感染症内科　椎木 創一
訪問看護ステーションリズム　新垣 恵美子

【目的】

抗HIV治療薬の進歩で長期生存が可能となったHIV感染領域において、定時の長期服用は今後の高齢社会において重要な課題となってきている。今回当薬局で初めてHIV患者の在宅に於ける服薬支援を他職種と連携して開始したのでその経過を報告する。

【方法】

患者退院時に患者やその家族の同意を得て、主治医、病棟看護師、病棟薬剤師、訪問看護師、訪問薬剤師が、ケアステーション退院時に病院、加えて自宅でもカンファレンスを行った。カンファレンスにて、訪問曜日と確認事項を決め、想定されることへの対策と方法を検討した。

【結果】

症例：50代女性ニューモシスチス肺炎を発症しAIDS診断。ADL自立。HANDに関連した軽度認知症があり内服の自己管理が不十分であった。家族の協力も拒む。DRV/RTV、TDF、ABCで治療行い、20XX年12月ふらつきで入院。HIV-RNA量1.2×10^4コピー/mL、CD4数197個/μL。訪問服薬支援開始後HIV-RNA量は検出度未満を維持しCD4数も300個/μLまで改善した。

【まとめ】

沖縄県はHIV陽性患者が全国人口比3位である。また、エイズ患者は第1位となっている。今後、様々な合併症を抱えた高齢者のHIV患者が増加することが予想され、対応準備が緊急の課題である。

今回は、事前に多職種で連携しカンファレンスから自宅訪問を行い、患者や家族と話し合いを持つ事で在宅への移行が出来た。現在、良好な服薬の維持継続と患者家族の負担軽減に繋がってはいるが、本取組みは始まったばかりであり、今後も良好な患者ケアを行う上で多職種と連携を図ることが重要であることは言うまでもなく、薬剤師としてこの領域の薬剤特性や知識研鑽を図っていきたい。

＜病院診療所関連部門奨励賞受賞講演要旨＞

14. 貼付剤の剥がれ易さの検討について

ハートライフ病院 薬剤部　○仲原 大介
田中 健嗣　大関 秀和
田中 泉　翁長 寛人
宮里 武行　真地 千明
上地 美和　仲宗根 ちひろ

【背景・目的】

貼付剤の粘着力は、日本薬局方に基づく規定値以上で製品化されている。実際には粘着力を規定する試験には、主に4種類の方法があり、それぞれに規定される単位が異なっているため、一目でその粘着力を比較することが困難である。そのため後発品切り替え時に粘着力の強さにより剥がれにくく痛みを訴える患者がいる一方で、粘着力が弱いために剥がれてしまう問題点が生じた。そこで、後発品の使用が推進される昨今、各製品間の粘着力を簡易な方法で測定し、得られた結果から院内基準値を設けることで今後の後発品導入の一助とする。

【方法】

本実験は、硝酸イソソルビドテープの後発品A（5.5cm×5.5cm）、B（5.7cm×7.1cm）先発品（6.3cm×6.3cm）を比較する形式で行った。評価方法は、剥離に要する時間とし、測定方法は、接着面としてアルミ板を準備し、貼付剤の端5mm地点に紙を貼り、そこからさらに5mm先の地点をクリップでつまみ、90度の角度で剥離を開始した。測定開始地点は貼付剤の面積の50％地点に線を引き、その地点の通過を目視にて確認し、100％剥離した時点を終了とした。測定条件は、温度、負荷する重さを200gにして測定した。手順として、温室の中に30℃になるまで温風を入れ、温度計にて温度を確認した。次に、貼付される板を環境クロスにて20回清拭し、乾燥したのち貼付剤を張り付け、ローラーにて貼付剤を5回圧着させてから測定を開始した。

【結果・考察】

上記方法にて、実験を繰り返し（n=4）、それぞれの剥離に要する時間は、平均値で後発品Aでは47.0秒、後発品Bでは40分以上、先発品では9.56秒であり、先発品と比較して有意な差（$p<0.001$）があった。粘着力は接着面積に応じて大きくなる傾向が知られているため、実験開始時の予測では面積の大きい先発品がより大きな粘着力を示すと思われたが、予想とは異なる実験結果となった。

当院採用の後発品では、先発品と比較して粘着力が強いという患者の訴えと一致する結果となり、本実験において粘着力の強度の傾向を評価することが可能であると考えられた。

今後、他の後発品との比較実験を繰り返し、貼付剤選択における院内基準値作成に繋げていきたい。

薬と健康の週間

薬　祖　祭

（波之上宮本殿）

「“薬と健康の週間”行事は、毎年、波之上宮本殿で、朝10時からの薬祖祭を皮切りに行われる。宮司の祝詞の中に薬祖神、少彦名命（スクナヒコナノミコト）に薬の取扱いに間違いがないよう病める人の苦しみの癒えんことを奏上して、薬剤師会、卸協会、小売商組合、薬種商協会等の各団体名を言上されている。朝の澄みきった潮風の流れるさわやかな雰囲気の中で、各団体長はじめ関係業界人で厳修される。医薬の道を天職とする薬業人にとって年一回の薬祖祭には、この一年の無事を感謝し、薬の取り扱いの過ちのないように祈願したいものである。」と、故仲松弥元氏（第六・八・十一代会長）は、薬祖祭雑感を寄稿されている。仲松氏は、昭和37年に製薬会社が軒を並べる大阪市道修町の少彦名神社より御分霊「神農（中国医薬の守護神）」を勧請して、那覇市波之上宮に依頼して奉祀された。道修町で毎年11月22・23日に神農祭が行われることから、波之上宮に神農が奉祀された翌年より、11月23日（勤労感謝の日）に薬祖祭が執り行われるようになった。

参拝者には、病除祈願の張り子の虎を笹に結びつけたお守りが配られる。この風習は、日本で初めてコレラが大流行した年に道修町の医薬商が相議り、疫病除卸薬「虎頭殺鬼雄黄圓（虎の頭骨を配合した丸薬）」を作り、神前で祈祷して庶民に無料で施し、虎と竹を組み合わせたお守りと共に配った。当時、コレラを「虎列刺」と書き、その猛威と怖さを誇示していたので、薬に“虎を殺す鬼”と名づけられた。

神農を祀る神農祭とは別に、東京、京都、名古屋をはじめ、各地で薬剤を祀る祭礼が行われている。祭神は日本の医薬の神として敬われてきた少彦名命と大国主命（オオクニヌシノミコト）。祭日は土地ごとに違っていたが、近年、10月17日に統一され、薬剤師会や薬業界が祭主となって催している。

今年の薬祖祭は、10月19日（月）、晴れわたった朝の澄みきった潮風の流れるさわやかな雰囲気の中で、沖縄県薬業連合会と沖縄県で厳修された。

薬と健康の週間　　街頭キャンペーン

北部地区薬剤師会（イオン名護店前）

平成27年10月21日(水)
宮古毎日新聞

薬、正しく使って

薬剤師会など 冊子配布し呼び掛け

2015年度薬と健康の週間（17～23日）にちなみ、宮古地区薬剤師会（川満正啓会長）と宮古福祉保健所（山川宗貞所長）は18日、市内大型スーパー前で街頭キャンペーンを実施した。買い物客に冊子を配布し、薬の正しい使い方や、薬剤師などの専門家の役割と知識をアピールした。

この週間は、医薬品や薬剤師などの専門家の役割に関する正しい知識を広く県民に浸透させることにより、県民の保健衛生の維持向上に寄与することを目的に毎年実施している。

川満会長は「私たち薬剤師は正しい情報を提供する責務を担っている。医薬品の専門家としての使命感と倫理観を持って、市民の健康づくりの手助けをしていきたい」とあいさつした。

参加者らは、薬の正しい使用方法や、薬のことを分かりやすく解説したミニ冊子を市民に配布した。

買い物客に冊子を配布し薬の正しい使い方などをアピールした街頭キャンペーン＝18日、市内大型スーパー前

平成27年10月19日(月)
八重山毎日新聞

薬の正しい処方をPR

地区薬剤師会がキャンペーン

17日に始まった「薬と健康の週間」（県薬剤師会など主催）にちなみ、八重山地区薬剤師会（山城専会長）と八重山保健所は18日午後、サンエー石垣シティで街頭キャンペーンを行い、同会の薬剤師と保健所職員合わせて6人が薬や医薬品の正しい処方を啓発するパンフレット300部を買い物客らに配布した。同週間は、薬剤師や専門家の役割を紹介し、服薬指導や薬の正しい処方を周知させることが目的。

山城会長は「薬は薬局や薬剤師の説明を受けて購入してほしい」と呼びかけた。

パンフレットを配り、薬剤師の役割や薬の正しい処方について説明する地区薬剤師会の山城専会長（左）＝18日午後、サンエー石垣シティ入り口

薬と健康の週間

くすりと健康フェア
～県民公開講演会「心身ともに健康」～

日時：平成27年10月22日（木）19:00 ～ 20:30
会場：パレット市民劇場（那覇市）
主催：沖縄県・那覇市・沖縄県薬剤師会

亀谷浩昌会長あいさつ

理事　笠原 大吾

「薬と健康の週間」（10月17日～23日）の行事の一環として、今年は10月22日に沖縄県・那覇市・沖縄県薬剤師会の主催で県民公開講演会がパレット市民劇場で開催されました。

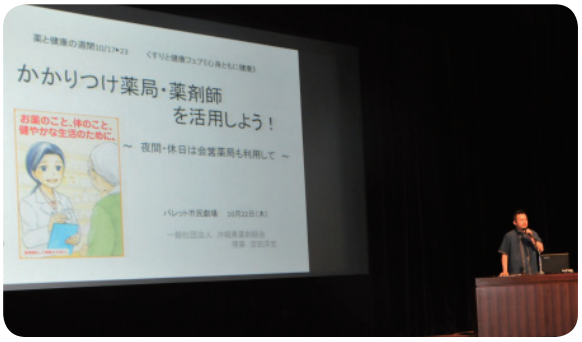
はじめに、主催者として沖縄県保健医療部長の仲本朝久氏、那覇市保健所長の東朝幸氏、そして県薬剤師会亀谷会長の挨拶が行われました。

基調講演は、県薬剤師会の吉田洋史理事により「かかりつけ薬局・薬剤師を活用しよう！～夜間・休日は会営薬局も利用して～」と題し、医薬分業のメリットからかかりつけ薬局を持つことのメリット、“おくすり手帳”の効用について、また、会営薬局の夜間・休日対応について説明がありました。

特別講演は、あがりはまクリニックの吉田貞夫院長により「高齢者のための栄養の工夫～いつまでも生き生きと暮らすために～」の演題で講演していただきました。

吉田院長は、医師でありますが臨床栄養の専門家として著書も多く、栄養の重要性について全国各地で精力的にご講演をされています。一方、県内においても講演やマスコミに

司会を務めた 勝連貴子氏



基調講演「かかりつけ薬局・薬剤師を活用しよう！」　吉田洋史理事

＜プログラム＞　　司会　沖縄県薬剤師会 会営薬局とよみ　勝連　貴子

○開　会

○主催者あいさつ　　沖縄県保健医療部部長　仲本　朝久

那覇市保健所所長　東　朝幸

沖縄県薬剤師会会長　亀谷　浩昌

○基調講演「かかりつけ薬局・薬剤師を活用しよう！

～夜間・休日は会営薬局も利用して～」　沖縄県薬剤師会理事　吉田　洋史

◎特別講演「高齢者のための栄養の工夫 ～いつまでも生き生きと暮らすために～」

講師：あがりはまクリニック院長　**吉田　貞夫**

講師の吉田貞夫氏
会場は終始、笑い声が絶えなかった

＜講師プロフィール＞

吉田 貞夫（よしだ さだお）

沖縄メディカル病院あがりはまクリニック院長、金城大学客員教授筑波大学医学専門学群卒業。筑波大学大学院博士課程医学研究科で「胆道癌の遺伝子変化」を研究。国内のみならず、タイ王立がんセンター、コーンケン大学とも共同研究。米国ハーバード大学「腫瘍微小循環、血管新生と転移」研修コース終了。

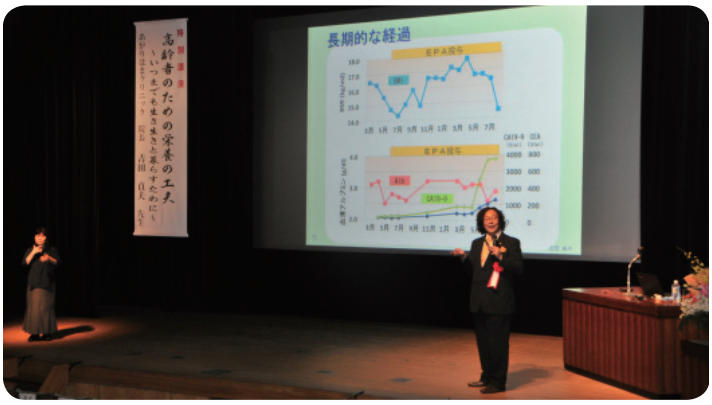
日本外科学会外科専門医、日本静脈経腸栄養学会代議員・指導医、日本病態栄養学会評議員・病態栄養指導医、日本臨床栄養学会臨床栄養医高齢者の低栄養の病態とケアなどに関して、多数執筆、全国各地で講演。

も登場する機会も多く、昨年は沖縄県薬剤師会の“薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業”において講演をしていただきました。1回でも吉田院長の講演を聴いた方は、独特の風貌と高い声のトーンと笑い声、何より分かり易く聴衆をぐいぐい引っ張っていく絶妙な話術の虜になってしまうはずです。今回は、高齢者の食事について、粗食が長寿にはいいと思われているのとしたらそれは間違っており、反対にむしろタンパク質をしっかりとる食事が大切であると説きました。高齢者においては、筋肉が減少する“サルコペニア”という症状の進行が大きな問題になっています。筋肉を増やすのに重要なアミノ酸やビタミンDの摂取の必要性についても話されました。また、大切なのは、高齢者になるほど腎臓の機能が低下している人が多くみられることによる腎臓の負担が大きくなることです。

さらに、高齢者には運動能力低下や転倒・骨折のリスクが高くなる“フレイルティ（脆弱性）”という現象にも注意する必要があるとのことです。これら“サルコペニア”、“フレイルティ”は低栄養と大きな関係があるということで、しっかりと栄養を摂って生き生きとした生活を送っていただきたいと締めくくりました。会場には、高齢者の方のみならず、若い親子の参加者も見られ、講演後に楽屋で記念写真を撮るなど、幅広い世代に人気が及んでいることを垣間見ました。

長命ではなく長寿が大切であるとはよく聞く言葉です。また、健康寿命という言葉も定着してきました。長寿おきなわの回復をめざすのであれば、なにより歳を重ねても生き生きと暮らすためには、まずは食事に関心を持つことだと思いました。われわれ薬剤師が日頃取り扱っている薬についても、食事が摂れなければのめるはずもありません。在宅での服薬支援の際にも薬をのむために食事をしているような高齢者の方も多く見かけます。薬剤師も食事、栄養についてさらに関心を持って臨む必要をあらためて感じさせられた講演でした。

くすりと健康フェア 県民公開講演会 スナップ写真



吉田貞夫氏の独特の風貌と高い声に笑い声、何より分かり易く聴衆を
ぐいぐい引っ張っていく絶妙な話術に虜になってしまった

控室での記念撮影でも笑いが絶えなかった

主催者(左から東朝幸氏、仲本朝久氏氏、亀谷会長、吉田理事)　　司会の勝連貴子氏と手話通訳者(3人)

平成27年度「薬と健康の週間」行事表

月　日	時　間	行 事 名	場　　所	実施団体
10月17日(土)	11:25 ～ 11:30	RBC(琉球放送)「すくすくあかちゃんねる」にて“赤ちゃんの薬ガイド”を放送		薬剤師会、琉球放送
	15:00 ～ 16:00	街頭キャンペーン（北部地区）	イオン名護店前	北部地区薬剤師会 薬物乱用防止協会北部支部 北部保健所（沖縄県）
10月18日(日)	14:00 ～ 15:00	街頭キャンペーン（宮古地区）	サンエーショッピングタウン宮古前	宮古地区薬剤師会 宮古保健所（沖縄県）
	13:30 ～ 14:30	街頭キャンペーン（八重山地区）	サンエー石垣シティ	八重山地区薬剤師会 八重山保健所（沖縄県）
10月19日(月)		パネル展示　　23日(金)まで	那覇市役所1階ロビー	沖縄県、那覇市、薬剤師会
	10:00 ～ 10:30	薬祖祭	波之上本殿	沖縄県薬業連合会、沖縄県
	10:30 ～ 11:00	永年勤続者表彰	波之上本殿	沖縄県医薬品卸業協会
10月20日(火)	13:00 ～ 17:00	全国統一薬事講習会	沖縄県薬剤師会館	沖縄県医薬品登録販売者協会
10月21日(水)	13:30 ～ 16:00	キャリア学習会「薬剤師職について」 講師：野崎真敏氏	南風原町立南風原小学校	薬剤師会 南風原町教育委員会
10月22日(木)	16:00 ～ 18:30	くすりと健康フェア 健康とおくすり相談会	パレット市民劇場　ロビー	南部地区薬剤師会
	19:00 ～ 20:30	くすりと健康フェア　県民公開講演会	パレット市民劇場	沖縄県、那覇市、薬剤師会
10月23日(金)	13:30 ～ 14:00	認可外保育園マスク寄贈式	沖縄県庁子ども生活福祉部長室	沖縄県医薬品卸業協会
	15:00 ～ 15:30	沖縄県薬事功労者知事表彰式(被表彰者) 外間惟夫氏、川満正啓氏、上里林氏	沖縄県庁保健医療部長室	沖縄県
	16:00 ～ 17:00	「麻薬・覚せい剤乱用防止」 街頭キャンペーン	イオン北谷店前	医薬品登録販売者協会 中部地区薬剤師会

会務ハイライト

平成27年度第１回地区薬剤師会会長会議報告

日時：平成27年９月26日（土）19:00 ～ 20:30
場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

沖縄県薬剤師会事務局
課長　山城 英人

去る9月26日（土）に台風21号が先島付近に近づいていることで心配であったが、予定通り今年度第１回地区薬剤師会会長会議が開催された。

江夏京子副会長が司会進行を務めた。

始めに亀谷会長より､会長就任挨拶があり、この地区薬剤師会会長会議を県薬そして各地区薬剤師会の情報共有の場として大いに利用し、充実した活動と発展につなげてほしいと述べた。

報告事項として事務局より、例年10月17日～ 23日の薬と健康の週間、11月1日の第29回沖縄県薬剤師会学術大会について現況の説明があった。

次に地区薬剤師会の会費及び入会促進活動に対して日薬よりアンケート調査依頼がきていることの説明があり、締切日までの回答をお願いした。

全国民に関係しているマイナンバー制度について、事務局職員がセミナー等に参加した上で、制度や国民へのマイナンバー通知方法等の説明があり、それらのことを踏まえた県薬剤師会の対応として、役員、職員にマイナンバーを求める際の情報漏洩を防ぐための手立てや保管またパソコンセキュリティー等の取り組み案を説明した。

今年度、北部地区に浅沼健一先生、中部地区に伊佐常隆先生、那覇地区に川満直紀先生の新会長が就任したことで、あいさつを兼ねての各地区薬剤師会からの現況報告では、地区薬剤師会の運営で赤字に陥っているためFAXコーナー及び事業の精査等をし、健全運営を取り戻したいこと、また在宅訪問業務において、薬局で医療材料を扱ってほしいとの要望があり、医療材料が小分けで仕入れたとしても、1人薬剤師の薬局が多い地域においては、実際に薬局を空けて配達ができるのかどうか不安であること等を報告した。

最後に、亀谷会長より、来年7月に予定されている参議院議員選挙に藤井もとゆき氏の再選を期するために後援会入会活動を行っていく。沖縄県の後援会入会目標が8,720名となっており、今回は各地区の会員数より目標値を設定し、それに向かって各地区単位で取り組んでほしい旨を強くお願いし､閉会した。

その後、場所を移しての懇親会では、地区薬剤師会の壁をなくしてざっくばらんに有意義な時間を過ごした。

＜平成27年度第1回地区薬剤師会長会議出席者＞

（敬称略）

○亀谷　浩昌（沖縄県薬剤師会会長）
○浅沼　健一（北部地区薬剤師会会長）
○伊佐　常隆（中部地区薬剤師会会長）
○鈴木　一徳（那覇地区薬剤師会副会長）
○川満　正啓（宮古地区薬剤師会会長）
○江夏　京子（沖縄県薬剤師会副会長）
○成川　賢一（北部地区薬剤師会副会長）
○川満　直紀（那覇地区薬剤師会会長）
○新垣　秀幸（南部地区薬剤師会会長）
○山城　　専（八重山地区薬剤師会会長）

研修会

第3回薬剤師のための症例検討入門研修会参加報告

日時：平成27年11月 7 日(土) 19:00 ～ 21:00
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

＜式次第＞　　司会進行：学術研修委員会　潮平 英郎

『臨床力をつけよう 心不全 入門編』

講師：**大澤 友二** 先生

(福岡薬物治療研究会会長、九州大学薬学部非常勤臨床教授、元昭和薬科大学教授)

○症例経験と質疑応答

琉球大学医学部附属病院
薬剤部　古謝 さなえ

去る11月7日、薬剤師会館で症例検討会に向けた講演会が開催された。前回に引き続き、講師に九州大学薬学部非常勤臨床教授、大澤友二先生をお招きした。テーマは心不全。高血圧と同じく、薬局窓口で出会うことも多い症例であろう。心不全では併用薬も多く、また、抗血小板薬や抗凝固薬といったアドヒアランスが重要な薬剤を服用しており、薬剤師として介入が必須である。多くの先生方が熱心に耳を傾けていた。私なりに、今回の講義内容をまとめてみた。

心不全では、基礎疾患に起因する心機能の低下がみられる。そのため、心臓の負荷軽減を目的とした薬剤に加え、心不全悪化の原因となる基礎疾患の治療も重要となる。

先生方は、慢性心不全の患者へどのような生活指導をしているだろうか。ご存知の通り、前負荷の軽減とうっ血改善のため、塩分・水分制限はもちろん必要である。運動についてはいかがだろうか？以前は心臓への負担軽減を過度に重視した運動制限がおこなわれていた。しかし、それでは心不全の悪化とQOLの低下を招く。現在ではリハビリとしての運動の重要性が報告されており、息苦しくなる手前の負荷で動くことも必要である。

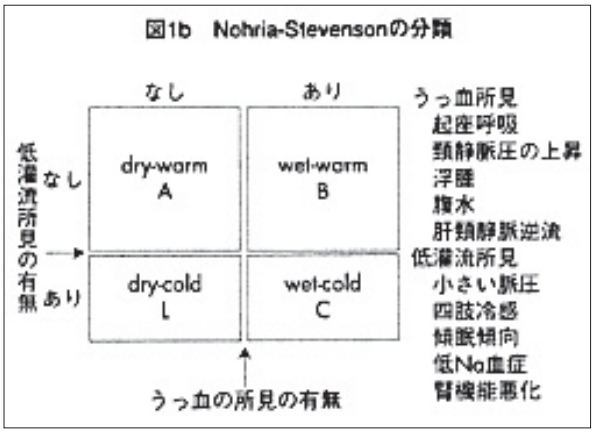
心不全の重症度分類には、現在4つ程分類方法が存在する。患者の自覚症状から判断するNYHA分類、他覚所見に基づくkillip分類、心係数と肺動脈楔入圧によるForresterの分類、そして末梢循環を指標とするNohria-Stevensonの分類である。検査値が必要なく、重症度の程度がわかりやすいNYHA分類ではあるが、治療により大きく変化するものではない。そのため、臨床ではForrester分類を使用することが多いようだが、これでは検査値を簡単に入手できない薬局ではフォローが難しいだろう。では、何を使えばいいのか？

講師　大澤 友二 先生

司会進行　潮平 英郎 先生

在宅でも可能なチェック方法がある。患者の手を握ってみよう。湿っているだろうか？それとも乾燥しているだろうか？そして、冷えているか、温かいか？これら4つの指標を使用し、患者のうっ血、血流状況を判断できるのが、Nohria-Stevensonの分類である。うっ血がなく、血流状態が良好であればdry-warm、一方症状が悪化し、うっ血があり、血流状態が不良であればwet-coldとなる。この方法の良い点は、触れ合うことで患者との距離が縮まることである。これをきっかけに、心を開き、不安等を話してくれるかもしれない。

今回の講義で、次回、実際にグループで症例検討を行うための種をまいてくれた。病態から始まり、治療方法、使用薬剤の特色、そして最後に症例。これらの種に水を与え、自身に根付かせ、活発な意見交換につなげていきたい。



心不全は治らない。予後改善のために、急性イベントを抑え、心不全の進行を緩徐にすることが重要であるという大澤先生の言葉が強く耳に残った。薬剤師として、私たちにできることは何だろうか。

次回は平成28年2月6日。症例検討会で皆さんと一緒に考えることができることを楽しみにしている。

お知らせ

第4回「薬剤師のための症例検討入門」研修会開催日程

平成28年２月6日(土）19時～21時（心不全　応用編　症例を経験しよう）

症例検討の仕方、高血圧症例講義45分、症例提示、検討40分、そのあと発表と質疑応答

研修会

第1回 薬剤師のための在宅医療教育セミナー報告

日時：平成27年10月25日（日）13:00 ～ 15:00
会場：沖縄県薬剤師会館ホール

＜プログラム＞　座長：在宅医療委員会副委員長　玉城　武範
○委員会報告『在宅医療委員会の事業計画について』 在宅医療委員会委員長　荒井　千春
○一般演題『こくら虹薬局での在宅医療』　こくら虹薬局 在宅医療担当　久手堅奈央
○特別講演『小児在宅医療について』
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 小児総合診療科　松 岡　孝

10月25日（日）に沖縄県薬剤師会館ホールにて、薬剤師のための在宅医療教育セミナーが開催されました。

一般演題として、私が「こくら虹薬局での在宅医療」について発表させていただきました。こくら虹薬局では開局当初（平成21年）より在宅医療に取り組んでおります。私たちが普段行っている在宅医療や服薬支援に繋がった症例をご紹介させていただきました。皆様の「在宅を始めたい！」と思うきっかけになってもらえたら、嬉しい限りです。

特別講演では、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児科の松岡孝先生に「小児在宅医療」について講演していただきました。小児在宅の現状や今後の有り方など、症例を交えながら分かりやすく説明して頂きました。障害を抱えた子を育てるという特殊な環境の中、ご家族の問題や、看取りなど直面することは様々あります。小児在宅で一番大事なことは、患者、家族に誇りを持たせることが大事だとのことでした。

小児在宅は私たちも取り組み始めたところです。高齢者の在宅と違って、病名が多岐にわたり、吸引や胃瘻、TPNなど医療的ケアが必要な方が多くおられます。また、介護者がほぼ母親であることが多く、負担は相当なものになっています。

特別講演講師
松岡　孝 先生

こくら虹薬局
久手堅 奈央

その方たちと関わっていく中で、どのように接していけばよいのか、薬剤師として何を必要とされているのか悩むところがありました。

今回の松岡先生の講演で、障害があっても子どもがご家族と同じ生活をすることが、日々の変化を与えることができ、その子の成長を感じることで母親の喜びにも繋がるということを聞き、小児在宅の目指すところが見えたような気がしました。子どもとご家族に寄り添い、少しでもご家族の負担軽減に繋げることが出来るように私たちも力になりたいと、小児在宅に対してとても前向きになれました。

沖縄県薬剤師会では、11月19日より在宅医療支援薬局限定ではありますが、3回シリーズで無菌調製の実践講座としてTPN・麻薬・抗がん剤についての講習会を行います。この講習会では一人一人にミキシングを体験してもらうことで、技術を習得してもらうことを目的としております。ターミナルや小児在宅が増えると、薬局でのミキシングの機会も増えてくると思われます。この講習会で、私たちの自信に繋がる機会になればと思っております。

高齢化社会を迎えた昨今、薬剤師の在宅医療への関わりは必須となっております。多くの在宅医療に取り組む仲間が増えることを期待しております。

実務実習

平成27年度Ⅱ期薬学生実務実習報告

薬学生実務実習受入委員会
委員長　我喜屋 美香

薬学生実務実習6年目の第Ⅱ期（平成27年9月7日～11月21日）が終了しました。Ⅱ期は6大学11名でした。初めて受け入れをする大学は1大学（星薬科大学）、初めての指導薬剤師は3名。南部地区薬剤師会ならびに那覇地区薬剤師会の健康とおくすり相談会など、地域と関わる薬剤師の姿にも触れてもらいました。皆様のおかげで一人の中断者も出すことなく、無事11週間の実習を終えることができました。

実習生もさながら実習受け入れ薬局は実習を受けるたびに充実し、スキルアップしてきてます。さて、平成31年から始まる新コアカリキュラムは、薬局・病院・大学が連携して実習を行います。それを十分に遂行するためのガイドラインも出来上がっています。実習薬局のますますの発展を希望します。なお、来年度の実務実習ワークショップからは新コアに水準を合わせた対応がなされます。例年通り、各地区推薦、個人レベル等での公募を行います。参加希望の方は県薬事務局（担当・松堂）か地区の薬学生実務実習受入委員会委員にご連絡ください。

また、今回の実習受け入れに関しまして、薬局の先生、他スタッフの皆様。協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

以下に、実習薬学生の感想文と実習薬局、実習協力機関を掲載致します。

実習薬局（11薬局）　　順不同・敬称略

○たいせい堂薬局 首里店　○つくし薬局　○アシスト薬局　○ミドリ薬局 美里店
○あかみち薬局 江洲店　○がじまる薬局　○あにも調剤薬局　○宜野湾薬局 広栄店
○薬志堂薬局 小禄店　○会営薬局うえはら　○レモン薬局 美里店

協力施設・委員会・団体

○ぼたん薬局　○すこやか薬局 具志川店　○がじまる薬局　○ドラッグイレブン新都心店
○福寿薬局　○すこやか薬局 新川店　○こくら虹薬局　○ドラッグイレブン佐敷店
○仲真薬局　○会営薬局医療センター前　○(株)薬正堂　○ミドリ薬局 美里店
○(株)琉薬　○(株)アトル　○学校薬剤師部会　○学校薬剤師の先生方
○那覇地区薬剤師会　○南部地区薬剤師会

平成27年度Ⅱ期実務実習薬学生記念撮影

後列（指導者）左より　大塚成一郎氏、具志堅興也氏、仲宗根辰弥氏、玉城武範氏、佐藤雅美氏、鈴木直志氏、照屋林一郎氏
我喜屋美香氏、亀谷浩昌会長、仲真良重氏、菊池怜奈氏、上間秀子氏、松堂恵美氏（事務局）
前列（薬学生）左より　島袋滉也さん、宮平邦子さん、運天雅さん、新屋沙織さん、上地美穂さん、國吉佳央梨さん、仲俣桃華さん
粟國朝陽さん、塚本真依さん、金城秀明さん、平良美沙登さん

実務実習薬学生　平成27年度Ⅱ期生からの体験記・感想

九州保健福祉大学薬学部5年　島袋 滉也
（たいせい堂薬局 首里店 実習
指導薬剤師 大塚 成一郎）

実務実習が始まって2ヶ月半が経ちました。薬局での実習を無事に終えることができました。実務実習の始めは県薬剤師会館での集まりからでした。私は、薬局の中だけで実習を終えるのかと思っていましたが、いざ実習を始まると外部での実習も多く計画されており、充実した実習を送ることができたと思います。薬局内の実習では、投薬を早い時期からさせてもらうことができ、患者の反応を直に感じることができました。患者から質問があるときは隣についてくれた薬剤師に助けをもらうこともありました。私が薬剤師になった時には迷いなく患者の質問に答えられるようにならなければいけないと感じました。外部の実習では、薬剤師が活躍する場が多くあることを感じることができ、医療用医薬品のことだけでなく、健康食品やサプリメント、OTC薬や漢方のことの他にも公衆衛生に関わることなども知っておかなければならず、幅広い知識が必要だと思いました。この2ヶ月半で多くのことを学ぶことができてためになりました。実務実習でお世話になった皆様ありがとうございました。

第一薬科大学5年　仲俣 桃華
（がじまる薬局 実習
指導薬剤師 照屋 林一郎）

二ヶ月半の調剤薬局での実務実習を終えて、実際の現場で多くの事を学ぶ事が出来ました。今まで調剤薬局での仕事について、あまり分かっていませんでしたが、ただ調剤して薬を渡すだけでなく、患者さんが安心して薬を飲めるように丁寧に説明をしたり、生活習慣についての指導をしたり、調剤薬局での仕事は様々でした。私が実習させて頂いたがじまる薬局では、患者さんが多くとてもお忙しい中、私の実習のために資料を準備してくださったり、服薬指導をする際も毎回アドバイスをしてくださったり、薬剤師の先生方や事務の皆さんのお陰で最後まで充実した実習をさせて頂く事が出来ました。

また、学校薬剤師の体験や漢方実習、薬局製剤の調製、卸売業者さんの見学、在宅訪問など外部実習も多く体験させていただきました。薬剤師の活躍する場は多く、どの現場もとてもやりがいのある仕事だと思いました。

実習で学んだ事を活かし、立派な薬剤師になりたいと思います。ご指導頂いた先生方、本当にありがとうございました。

九州保健福祉大学5年　宮平 邦子
（つくし薬局 実習　指導薬剤師 具志堅 興也）

11週間の薬局実習を終えて身に付いたと思うことは、薬剤師としての心構えはもちろんですが、仕事をする上で優先順位は何かを考えながら行動すること、周りを見て状況を把握し、周りの動きに合わせて行動すること、仕事が速く進むため、ミスを防ぐための工夫を自分で考えて実践すること、などである。服薬指導においては患者さんが分かりやすい言葉を使用すること、身振り手振りを使って説明することで患者さんがより印象に残りやすくなること、セルフメディケーションに関連した声かけをすることなどを学ぶことができました。実習期間中は、調剤業務、服薬指導をたくさん行わせて頂き、経験を積むことが出来てとても良かったです。

今回の薬局実習では多いに社会勉強が出来、人間的にも成長することが出来たし働く時に参考になることばかりだったので、つくし薬局で充実した実習が出来て本当に良かったです。11週間ありがとうございました。

神戸学院大学5年　平良 美沙登
（あかみち薬局 江洲店 実習　指導薬剤師 上間 秀子）

私は11週間、あかみち薬局にて実習をさせていただきました。不安と緊張がありましたが、それが吹き飛ぶほど、上間先生をはじめ、あかみち薬局の皆様、関係者の皆様が温かく迎えてくださり、そして充実した実習となりました。今回の実習で学んだことは、薬剤師であるとともにいかに人として接することができるかという事です。

いろいろな患者さんがいる中、服薬指導にマニュアルはなく、一人ひとりに合った対応をしなければならないことが一番難しかったです。そして、私自身の知識不十分さ、コミュニケーション力の低さを実際に感じることができました。在宅医療についても、現場を見て体感することで、薬剤師の重要性は非常に高く、常に地域に発信していかなければならないと感じました。実習期間で、新たな自分を見つけることができ、改善点も生まれてきました。

今後、学んだことを更に活かし、ユーモアのある薬剤師になりたいと思います。

第一薬科大学5年　粟國 朝陽
（レモン薬局 美里店 実習　指導薬剤師 谷澤 大輔）

私は2か月半薬局実習を行いましたが、服薬指導はとても重要だと実感しました。服薬指導は知識と経験が大切だと感じ、似たような薬剤でも患者様によって用途が違う場合があり、そこを見逃さないように、処方解析と患者様をよく見るということを学びました。服薬指導では患者様の言葉をヒントに答えを導いていくことを知り、また言葉を引き出すためにはコミュニケーション能力が大切だと改めて感じました。

他にも色々な事を学びました。病院では忙しくてあまり意識していなかった、患者様に対する態度です。より多くの服薬指導や調剤業務を行う中で、ミスをより無くす為にはどうするべきかと考えた結果、患者様を家族のように考えることだと思いました。大切な人には間違った事は出来ないと思い、患者様一人ひとりに常にそういった意識で臨む事の大切さを学びました。

レモン薬局の皆様、より多くの患者様と接する機会を与えて下さり、とても感謝しています。本当にありがとうございました。

福岡大学5年　運天　雅
（アシスト薬局 実習　指導薬剤師 仲宗根 辰弥）

私はアシスト薬局で実習をさせて頂き様々な処方箋を目にすることで、それぞれに合った対応や服薬指導を学びました。薬局では病院と違いカルテなどの患者さんの病状を知る手段がないため患者さんが持ってくる処方箋やお薬手帳、また今までの薬歴などが患者さんの病状を推測し、薬の適正を判断する上でとても重要な手段になることを学びました。また服薬指導では、これらの情報より推測した内容や副作用の確認が大切だと学びました。特に、抗癌剤の治療を受けている患者さんに対しては患者さんの気持ちをくみとれるように話し方に工夫することで患者さんとの信頼関係が生まれてくる事を体験することができコミュニケーション力の大切さを実感しました。

外部実習では薬局製剤や漢方製剤、OTC、また実際に小学校に行き学校薬剤師の仕事も体験させて頂き、薬剤師としての仕事の幅が広がりました。

今回の実習で学んだことを活かせるようにこれからも頑張って行きたいと思います。様々な体験をさせて頂きありがとうございました。

名城大学薬学部5年　金城 秀明
（薬志堂薬局 小禄店 実習
指導薬剤師 菊池 怜奈）

薬局実習では薬局内での業務の他にも漢方実習、OTC実習、薬局製剤実習、学校薬剤師、在宅実習などを通して薬局薬剤師の仕事内容を理解する事ができ、とても勉強になりました。

実習中に印象に残っているのは、調剤から投薬までの流れです。実習前は、処方箋の内容から症状や注意すべき事を想像し、投薬では患者さんとのインタビューにより患者さんが何を必要としているか判断するといったことをイメージしていましたが、実際に患者さんを前にすると難しく、自分の知識不足やコミュニケーション能力不足を改めて感じました。この実習を通して自分に足りないものが明確になったので、改善できるように努力していきたいと思います。

最後に、薬志堂薬局の皆様をはじめ、実習に関わった多くの先生方､スタッフの皆さん､業務で忙しい中時間を割いていただき、ありがとうございました。将来はこの実習を通して学んだ事を活かして勉強していこうと思います。

第一薬科大学5年　上地 美穂
（あにも調剤薬局 実習
指導薬剤師 荒井 千春）

私は実務実習のⅠ期に病院、今回Ⅱ期で薬局実習をさせてもらいました。Ⅰ期では実務実習にたいして、マイナスな先入観をもったまま挑んだため、実習自体は充実していたが不完全燃焼のような形で終わってしまいました。

そこで今回の薬局実習では、“先入観は持たずに学べることを沢山学ぼう”と決めて挑みました。実際、薬局実習ではたくさんの薬剤師の先生方にお世話になり、思っていた以上に充実した実習になりました。特に服薬指導でたくさんの患者さんと接することが出来たのはとても良い経験になりました。薬剤師の先生から、患者さんに対して“怖そうな人だな”などの先入観をもたないこと、伝えるべきことをしっかり伝えることや患者さんの話を聞いて適切な指導をすることが大切であることを学びました。私が先入観をもち実習に挑んだ時、視野が狭くなり出来たはずのことが出来なかったように、先入観を持つと患者さんに対して適切な行動が出来なくなると身をもって気付くことが出来ました。

今後これらの経験を活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

星薬科大学5年　塚本 真依
（会営薬局うえはら 実習　指導薬剤師 仲真 良重）

二か月半の薬局での実務実習の中で様々なことを学ぶことができました。特に興味深かったのは、在宅医療の現場を見学させていただいたことです。薬剤師が患者様の役に立つことのできる可能性について、熱い情熱を以って教えていただきました。

普段の調剤の現場でも様々なことを学びました。指導薬剤師の仲真先生には、薬剤師が知っておくべき法規について、学校の授業では知ることのできないことまでとても詳しく教えていただきました。また、薬剤師業務を関連法規に則って行うことの重要性も学ぶことができました。患者様にどのような言葉で薬効を説明すればいいのか、コンプライアンスを下げずに副作用説明・確認を行うにはどうすればいいのかについては、短い実習期間では学びきれませんでした。調剤の方法についても、法規を遵守することは勿論ですが、自分の良心に従って、患者様のために何ができるのか、何がベストなのかを常に考えながら誠実に業務に取り込むことの重要性を改めて考えさせられました。

指導薬剤師の仲真先生をはじめ、薬局や外部実習でお世話になった薬剤師の先生方、医療事務の方々、たくさんのことを教えてくださった全ての方に心から感謝いたします。薬局実習で学んだことを三期からの病院実習に生かして頑張りたいと思います。

第一薬科大学5年　國吉 佳央梨
（宜野湾薬局 広栄店 実習
指導薬剤師 鈴木 直志）

まず始めに、今回11週間お世話になりました担当薬剤師の先生、古謝薬局のみなさん、そして沖縄県薬剤師会の先生方に感謝申し上げます。11週間という長さは、始まった当初はまだ2か月以上もあるのかと感じさせられましたが、終わってみればあっという間の長さでした。

私の薬局実習は、急遽実習先が変更になるというハプニングから始まりました。そのため、最初の1週間は大学の先生や薬剤師会の先生とお話しをし、このまま続行していいのかどうか考えさせられました。けれど、担当薬剤師の先生の送迎の支援や、古謝薬局のみなさんの優しさから、そのまま続行していくことになりました。古謝薬局は外来と在宅を両立している薬局です。そのうえ、担当の先生は学校薬剤師も兼任されており、薬局は薬局内で調剤するだけ、というイメージが大きく変わり、これが現在求められている薬局の姿なのだと知ることができました。調剤や投薬など、色々とミスをしてきましたが、その度に周りのみなさんからのフォローと優しいご指導がありました。実習を終えて今の率直な感想は、「あのまま沖縄に残って薬剤師として働けたらいいのに」です。それほど、とても楽しい実習でした。

現在、大学に戻って国家試験の対策をしていると、この薬はあの棚にあったな、など思い出すことがあります。何度も分包機にセットしないといけなかったマグミット、出すのに指が痛くなったリパクレオンカプセル、先発や後発にOD錠、製薬会社違いと種類の多かったアムロジピンなど、実習で見たことや感じた事を試験に生かしていけるよう、これから全力を尽くしていきます。

福岡大学5年　新屋 沙織
（ミドリ薬局 美里店 実習
指導薬剤師 玉城 武範）

ミドリ薬局での実務実習を通して、薬局業務はもちろんのこと地域に根付いた薬剤師の役割を実際に感じることが出来ました。大学では教科書との向かい合わせでしたが、現場では夕方の忙しさや、在宅医療の患者との向き合い方など座学では感じることが出来ない実務実習期間だったと思います。麻薬取締官の監査の立ち会いや地域ケア会議への傍聴など実習生の域を超えた体験や薬局の経営の話なども聞かせて頂きました。

最初の服薬指導でははとても緊張して頭が真っ白になった事をよく覚えています。その後のロールプレイングでの反省点を生かし、次回からどう聞いたら話しやすい雰囲気を作れるか考え、「傾聴」「共感」の二つを軸に指導を何回も行っていきました。将来は完璧な服薬指導は機械的になるので、私は玉城先生のように時間をかけて患者さんに対して親身になり、「この薬局をかかりつけ薬局にしたい！」と患者さんが感じる事が出来るような服薬指導を行えるようになりたいと思います。

２ヵ月半のミドリ薬局での実習は毎日多くの事を吸収できとても充実していました。薬剤師の先生、事務の方々も優しく仲良く時には冗談を言い合った事、患者さんからの励ましがあった事を忘れずに研究、卒試、国試と乗り越えて立派な薬剤師になりたいと思います。県内で実習生の仲間と働ける日がとても楽しみです。

オリエンテーション

部会だより

平成27年度 女性薬剤師部会通常総会報告

日時：平成27年８月23日（日）14:45 ～ 16:00
会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

女性薬剤師部会
会計　草壁 瑞恵

司会の与儀和子先生により会は進行されました。今年は例年と違い、講演会を先にしたため参加人数は9名でした。議事の進行を村田美智子部会長より進めていきました。

1．平成26年度事業報告
（狩俣イソ副部会長より報告）

① 女性薬剤師部会総会
平成26年7月13日（日）
沖縄県薬剤師会館ホール　参加者27名

② 講演会
「健康長寿復活　MEC食・噛むだけダイエット」　参加者38名
講師：医療法人沖縄徳洲会こくらクリニック 院長　渡辺 信幸先生
平成26年7月13日（日）
沖縄県薬剤師会館ホール

③ 漢方講座
講師：佐賀県清水医院
院長 清水 正彦先生　参加者96名
平成27年1月18日（日）
沖縄県薬剤師会館ホール

④ 健康とおくすり相談会
平成26年8月17日（日）
宜野湾コンベンションセンター

⑤ 薬剤師継続学習通信教育講座スクーリング　参加者52名
平成27年2月22日（日）
沖縄県薬剤師会館ホール
講師：Naoko女性クリニック
院長 高宮城 直子先生
講師：よしかわ整形クリニック
院長　吉川 朝昭先生
講師：田仲クリニック
院長　田仲 秀明先生
講師：名嘉村クリニック
院長　名嘉村 博先生

⑥ 役員会　年17回

⑦ 薬草園の手入れ　隔週土曜日午前

⑧ 勉強会「妊婦・授乳婦とくすり」3回

⑨ その他
日本女性薬剤師会　定期社員総会
参加：村田美智子
平成26年6月28日（土）
日本女性薬剤師会　学術大会
参加：村田美智子
平成26年6月29日（日）
九州山口学術大会　女性薬剤師会講演会
参加：村田美智子
平成26年11月23日（日）
日本女性薬剤師会　会長会議
参加：村田美智子
平成27年2月1日（日）

「沖縄県女性の翼の会」研修旅行参加報告を前濱朋子県薬副会長にしていただきました。シンガポールの素敵な写真を交えたくさんの内容で、特に興味深かった話は、小学校入学と同時に各家庭にインターネットの通信設備が整えられ、休んだ時の授業を受けられること、医療においてもネットを通して受診できるといったことでした。先生は研修後もいろいろな場所でボランティアとして活動されており、女性薬剤師の存在感をアピールして下さっています。

＜会次第＞	司会	副部会長　与儀　和子
○開会のことば		副部会長　狩俣　イソ
○あいさつ		部 会 長　村田美智子
議事	進行	部 会 長　村田美智子
1. 平成26年度事業報告		副部会長　狩俣　イソ
「沖縄県女性の翼の会」研修旅行参加報告		沖縄県薬剤師会副会長　前濱　朋子
2. 平成26年度会計報告		会　　計　草壁　瑞恵
3. 平成27年度事業計画案		副部会長　狩俣　イソ
4. 平成27年度予算案		会　　計　草壁　瑞恵
5. 沖縄県女性薬剤師部会規定検討・承認		部 会 長　村田美智子
（新副部会長承認も含めて）		
6. 平成27年度日本女性薬剤師会定期社員総会報告		部 会 長　村田美智子
7. 日本女性薬剤師会学術講演会報告		部 会 長　村田美智子
○閉会のことば		副部会長　与儀　和子

2. 会計報告

平成26年度の会計報告が詳細に報告されました。平成27年度は、県薬より45万円と繰越金を合わせて約47万円の予算で活動していきます。

3. 平成27年度事業計画案

⑩　一般社団法人日本女性薬剤師会研修講座
　平成27年度薬剤師継続学習通信教育講座の斡旋とスクーリングの実施

⑪　漢方講座の定期的継続開催　年2回
　他、ツムラ主催の漢方講座12月予定

⑫　沖縄の薬草への知識を深める活動
　県薬会報誌連載「くらしの中の薬草学」の継続
　ミニ薬草園の充実

⑬　「妊娠・授乳と薬」についての知識を深める
　薬局窓口で役立つ情報の収集
　勉強会の開催
　病院薬剤師会「妊娠・授乳と薬」分科会との連携

⑭　「健康とおくすり相談会」への参加
　保健福祉委員会との協働、なごみ会主催活動への参加

⑮　その他
　「沖縄県女性の翼の会」活動への参加
　研修先はマレーシアで村田部会長が参加する予定です。

4. 沖縄県女性薬剤師部会規定検討・承認

今回、部会規定を作成し承認していただきました。本規定は平成27年8月24日より実施します。新規定に則り、今季途中ではありますが、与儀和子先生を副部会長に推薦し承認されました。

5. 平成27年度日本女性薬剤師会定期社員総会報告

6. 日本女性薬剤師会学術講演会報告

5、6について村田部会長より詳細に報告がありました。

講演していただいた江口直美先生も総会に参加され、総会の後も会員の質問などに快く答えて下さいました。クワン草の花摘みや薬膳料理ツアーなど、計画を立てて女性薬剤師部会を盛り上げていくといいですねという意見も頂き、少ない参加人数でしたが充実した総会となりました。

当日、ミニ薬草園で育ったハママーチを会員に配りました。

部会だより

日本女性薬剤師会 第13回 移動セミナー in 京都

「保健・医療・福祉の架け橋になろう、そして在宅医療・在宅介護への対応」
～地域の多職種との連携による地域包括ケア体制の中で地域医療提供施設としての役割～
ジャンプ！　理論から実践へ

日時：平成27年９月27日（日）9:30 ～ 16:00
会場：キャンパスプラザ京都

女性薬剤師部会
副部会長　与儀 和子
会計　草壁 瑞恵

第1部 地域包括ケアでの多職種連携

「地域包括ケアシステム～
薬局に求められる役割とは？」

山本保健薬局 社長　**山本 新一郎**

「地域包括ケアシステム」

近年地域包括ケアシステムに関して各地で様々な取り組みが始まっている。例えば、大阪岸和田に於いては「柏プロジェクト」、山形県では「庄内プロジェクト」、富山県では「新川医療懇話会」…等などである。その内容はそれぞれの地域性や利用者個々の状況によって、工夫が凝らされており柔軟な対応ができる環境が大切だと思われる。

「入院から在宅へ」

入院と在宅の大きな違いは何でしょうか？

入院ー治療が優先される医療の提供

在宅～「生活」に主体を置いた中での医療の提供

限られた時間、スタッフの中での医療の提供

在宅に於いては､病院と同じように100パーセント応えるのは無理がある事を十分に認識した上で可能な限り入院時の医療レベルを確保する努力をしていく事も重要である。

「在宅医療における具体的な薬剤師の役割」

1.服薬管理　2.疼痛管理　3.食事・栄養管理　4.メンタルケア　5.誤嚥予防　6.褥瘡対策　7.排便コントロール…などなど

薬剤師はどのような分野にも絡んでいけ、ニーズは高い。

「在宅ケアの中での薬剤師が考えるべき課題と問題点」

1. 高度医療機器への対応
2. 栄養管理、副作用防止などにおける処方提案
3. 鎮痛補助剤など保険適用における問題点の克服
4. 早期退院に向けての働きかけ…などが考えられる。

○○が無いから在宅は出来ない、○○が出たらお手上げだ。…ということではなく、地域包括ケアシステムの中で多職種と連携を取りながら利用者のニーズに応えていく姿勢が求められている。

「認知症の医療とケア
～地域ケアの取り組みから～」

京都桂病院 精神科部長　**岸 信之**

厚生労働省の研究班が、平成24年時点で認知症の高齢者が462万人でその予備軍といわれる軽度認知障害（MCI）の高齢者も400万人いると推計しました。団塊の世代が後期高齢者の75歳以上になる2025年までには認知症の高齢者の数がさらに増えていきます。京都市西京区では平成19年4月から西京区認知症地域ケア協議会を発足させて、認知症になっても安心して暮らせる街づくりをするために、①認知症のことを正しく理解するための啓発活動、②医療機関同士の連携と医療とケ

アの連携のネットワークの構築、③医師や介護職の認知症への対応力向上のための研修会を毎年続けて行っているようです。認知症への対応のポイントは、認知症は怖い病気だという理解を変えていくことから始める必要があり、軽度認知障害のような早期から必要な医療とケアを提供することにより、認知症が徐々に進行していっても地域で生活したり、身体疾患で病院に入院しても支障をきたさずに入院生活を送ることができるように家族や関わる人が認知症を正しく理解し医療や介護の職員が連携しながら適切に対応していくことを目標にしているとのことです。高齢者になると多種類の薬を複数の医療機関から処方されていることが多く服薬管理は高度の実行機能を要する行動であるために服薬管理ができないことで糖尿病や高血圧症のような生活習慣病が悪化することもあるために、認知症に対する医療とケアを包括的に提供する枠組み作りにおいて、今後、薬剤師の果たす役割はますます大きくなってくるとのことです。現在、老老介護から認認介護を娘が支えている状態で10年後までに厚労省は入院ベッド数を30％減らす方針です。認知症は6ヶ月であっという間に悪化する病気です。何ができて何ができないかをしっかり把握することが大切で認知症の初期にサポートするシステムが必要とのことです。「明日は我が身です」と先生はおっしゃっていました。認知症の治療に当たり、薬を服用することでどのように変化していくかの予測を家族に教えてあげることもとても大切な指導だと思いました。

ランチョンセミナー

在宅医療における嚥下障害と誤嚥性肺炎
～高齢者の嚥下・栄養に関する地域包括ケアについての研究調査から～

京都府立医科大学大学院 在宅チーム医療推進学 教授　**山脇 正永**

「がん化学療法を受けられている患者さんのサポーティブケア」

同志社女子大学薬学部 特任教授　**阿南 節子**

第2部 実技学習

在宅における安心安全な薬物療法
（＊実技AかBかを選択）
～あなたも明日から在宅ができる薬剤師になれる！～

実技A：簡易懸濁法とクリーンベンチでの調剤

(有)ケイコ・ファーマシー
代表取締役　**伊良知 景子**

実技B：中心静脈栄養法と経腸栄養法

ニプロ(株)

簡易懸濁法とは？
錠剤の粉砕
　脱カプセルをしない～ 55℃の温湯に溶かす
　お湯の温度を55℃にするのは、カプセルを溶かすため
55℃の温湯の作り方
　ポットのお湯：水　2:1で約55℃になる。
実習
1. 55℃の温湯を作ろう
2. チューブへ水を注入してみよう
3. ラシックス　マグミット錠　セルベックスの崩壊、懸濁
4. パナルジン錠とパナルジン細粒の崩壊の観察
5. マグミット錠とメネシット錠で色調の変化を確認
6. タケプロン錠の崩壊
7. フロモックスの崩壊
8. アルロイドGを注入器に吸い取ってみよう

　4人1組で実技学習を体験しました。実習の途中で簡易懸濁法の考案者であられる倉田先生が会場に来られるというサプライズがありました。薬剤師は製剤学を学んだことを強味に、患者さんにより良い医療を提供出来るという話でした。改めて学び直す思いを強くしました。

　尚、簡易懸濁法には認定制度があるということです。

部会だより

第16回女性薬剤師部会主催漢方講座報告

「かぜの漢方　なぜ治り、なぜ治らないのか」を受講して

日時：平成27年11月 8 日（日）12:00 ～ 14:10
会場：沖縄県薬剤師会館 研修室
講師：清水正彦先生（清水医院院長・佐賀県）

＜漢方講座報告１＞

沖映通り薬局
喜納 みゆき

表題のタイトルに惹かれ今回の講座を受講した。

漢方の視点による診察時のコツ、病態認識の数々や直面する症状からの漢方薬の選択について、漢方の基本的な考えを教えていただいた。とても分かりやすく楽しく、正に「目から鱗」といった感じで、あっという間の二時間であった。

一例を紹介すると、かぜの症状は同じでも体質の違いにより漢方薬の選び方が異なる。例えば、体力があり、基礎代謝の高い人、ガッチリタイプ、脈のしっかりとれる人は葛根湯服用で汗や尿を出させて発散させると良い。一方、基礎代謝や体力が落ちている人、高齢者、脈の取りにくい人などが葛根湯を使うと汗や尿が出過ぎて低体温症になり易いため、麻黄附子細辛湯の使用の方が望ましい。葛根湯が効果的な場合は、温めることにより発熱、悪寒、頭痛、関節痛を緩和する場合である。服用後は休養し、免疫力をアップさせる。食事はたんぱく質・脂質・糖質をバランス良く摂取する。発熱時は食材として白ねぎ、おかゆ、鰹節、梅干を食べ、熱が下がったら赤肉（ヒレやモモ）、にんにく、長ねぎ、にらを食べると良い。バラ肉などの油分はアラキドン酸が上昇し、プラスタグランジンを上昇させるため、痛みが出ることから避けたい。

また、解熱鎮痛剤使用のタイミングであるが、寒気や熱のある時に無理に熱を下げても、再び熱が上昇する場合があることから、先ず、漢方薬服用により寒気を取り除き、体が温まった後に解熱剤を服用した方が効果的である。

他にも腸内環境の大切さについて興味深いお話しがあった。何とセロトニン（脳内ホルモン）の80%が腸にあり、20%が血小板と脳に存在するという驚くべき事実である。脳内ホルモンは脳内で完結しているものと信じていた私には衝撃的であった。腸は「第二の脳」とも言われるが、その機能の良し悪しにより、私達の身心の健康が左右される重要な器官なのである。腸内環境改善のためには、食生活や生活習慣に配慮し、極力腸管に負荷をかけないようにしなければならないのである。

＜漢方講座報告２＞

スマイル薬局 古島店
小野 加那恵

演題にひかれ、平成27年11月8日、佐賀県の清水医院院長の清水正彦先生のお話を初めて拝聴させて頂きました。

先生は産婦人科医でいらっしゃいますが、講座はもう16回目！二部構成の前半基礎講座で学んだように、後半では会員が持ち寄った三症例について、陽と陰・実と虚（証）に分け検討して下さいました。

＜症例1＞　56歳　女性　体重61kg　身長150cm
血圧120/90　脈拍100/分
お腹の調子が悪く下痢と便秘を繰り返している。精神科通院中。舌裂(+)
Rp.）ポリフル、タンナルビン、アキリデン、ラックビー（毎食後）
ジプレキサ、ブロチゾラム、フルニトラゼパム（寝る前）

よくある処方ですが、先生は、「舌裂は、栄養状態が悪く、気の異常あり。血球数↓、血虚、陰虚で血漿↓」。さらに舌辺縁の歯圧痕(+)から、“胃液、腸液がたまっている”、舌先端の赤味→“ストレス、中枢神経のオーバーヒート”、舌辺縁の赤味→“ストレス、交感神経の過剰緊張”、「熱いものが好き」という食の嗜好→“体内の冷え(+)”、足のむくみは水毒で、【陽タイプの虚】と診断。腸管のむくみをとり負担をかけない治療を選択し、「ツムラ116番　茯苓飲料半夏厚朴湯」を推奨されました。さらに体力がなく寝汗(+)、皮膚免疫を高めるために「桂枝加黄耆湯」を加えるといいそうです。

＜症例2＞　65歳　男性　体重58kg　身長161cm
血圧120/80　脈拍62/分

ペインクリニックでリリカ75mgを1日2回服用。半年前より右手中指、薬指、小指あたりに軽いしびれ、3週間前より強い痛みへ。握力低下し整形外科で「脊椎性頚椎症」と診断された。62歳時、突発性心房細動、低血圧、失神にてICUに2日入室。現在は心房細動の服薬(−)

腕神経叢ブロックを週1回行い、ブロック後3～4回はリリカなしで過ごせている。3回施行後当初の痛みは10→2or3に軽減。漢方医から葛根湯と桃核承気湯を勧められたが服用していない。

ここで上記漢方は「身体の中から熱を奪いつくす処方で、心房細動の既往があるのに麻黄はよくない」ため服用しなくてよかった、と先生。舌の色は薄紅色→“熱はこもっていない状態”、舌先端と辺縁の赤味(−)→“交感神経の過緊張無し”。舌表面の乾燥(−)→“お腹の中に熱はこもっていない”、汗かきではないため虚の体質で、肌もカサカサではない。めまい(−)から水毒無し、胃は丈夫なほう、尿の色は濃く、夜間尿(−)不眠(+)は瘀血からで、【陰タイプで虚】。便通はいいので、＜桃核承気湯から下剤成分を引いた＞ツムラ25番 桂枝茯苓丸を推奨された。

＜症例3＞　63歳　女性　体重53kg　身長156cm
血圧120/75　脈拍65/分

左手中指がバネ指、軽い痛みあり。高血圧、脊椎管狭窄症の既往あり。アムロジピンを服用していたが、退職後血圧は下がり現在家庭血圧は基準値内。病院で140/90程だが服薬はしていない。

舌に薄い白苔(+)だが、舌磨きをしているため元の状態は不明。舌辺縁の歯圧痕(+)→“胃腸の動きが弱っていて身体の中に水が溜まっている”、歯ぎしりの可能性もある。舌の先端と辺縁の赤味(−)→“交感神経の過緊張無し”、体力はあるほうで汗かき、冷え(−)、「冷たいものが好き」→“身体に熱がこもっている”。 胃は丈夫でむくみは靴下のあとがつく程度。これらの所見から、体内に熱がこもり水はけが悪く、汗をかき代謝が高まっている「陽タイプの実」と診断。バネ指は血流の悪さとストレスからくるので、胃腸のむくみがとれ血流が良くなれば治ると判断し、＜ツムラ25番　桂枝茯苓丸＋79番　平胃散＞を推奨された。

早食いや過食の方は、胃腸の動きが悪く体内に水が多く熱がたまるタイプなので、同処方で改善が見込めるようです。99番小建中湯は消化管のリンスと捉えられ、粘膜を保護しストレスをとるようです。

今回教えて頂いた見方をもとに、疾患の本質を見落とさない投薬ができたらと思うようになりました。

月例相談会

第125回健康とおくすり相談会報告

日時：平成27年10月22日（木）16:30 ～ 18:30
会場：パレット市民劇場ロビー
担当：南部地区薬剤師会

南部地区薬剤師会
会長　新垣 秀幸

去る10月22日（木）にパレット市民劇場で、薬と健康の週間「くすりと健康フェア」が開催されました。同フェアは“県民公開講演会”と“健康とおくすり相談会”で構成されており、南部地区薬剤師会は毎年、“健康とおくすり相談会”を担当し開催しています。

平日にも関わらず、5名の先生方が相談員としてご参加下さいました。また、薬学生実務実習期間中とあり、7名の薬学生も参加し協力して下さいました。午後4時30分からの相談会でしたが、既に開催前の午後4時には相談に訪れた方が多くいました。薬学生には機器測定、案内、誘導と積極的にしてもらい、そのおかげで相談員の先生方は相談に集中でき大変助かりました。今年は、相談者の多くに笑みも見られました。相談会場の誘導、相談ともに先生方と実習生の連携のおかげで無事に終えることができました。

平日の開催は、参加される先生方の負担も年々重くなってきており、地区では、かなりの負担となっているのが現状です。

✪健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

○新垣　秀幸	○高良　武和	○玉寄　睦子	○照屋　秀子	○松本　圭五
（実習生）	○上地　美穂	○運天　雅	○金城　秀明	○島袋　滉也
	○平良　美沙登	○塚本　真依	○宮平　邦子	

月例相談会

第126回健康とおくすり相談会報告

日時：平成27年11月 8 日(日)
場所：宮古島市民球場屋内練習場
　　(第38回宮古の産業まつり会場内)
担当：宮古地区薬剤師会

むつみ薬局　下地 睦夫

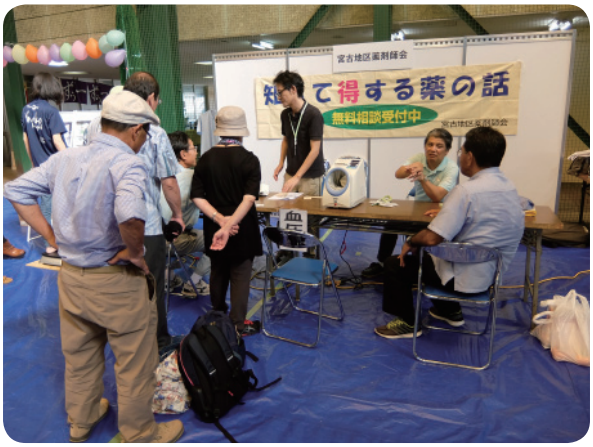
地区として2年ぶりのおくすり相談会。宮古病院薬局から4名の薬剤師の応援を受け、今回も「産業まつり」イベント会場内で行いました。

午前10時のオープンを前に体成分測定機、血管硬化度測定機、血圧計などを設置している間も興味を示した来場者が列を作り結果相談会終了までに約90名の方がコーナーを訪れて下さいました。

これまでの相談会では測定結果に一喜一憂するといった「おくすり相談会」というよりは「健康測定会」といった雰囲気が強かったので、今回は何とかお薬の相談まで漕ぎ着けることは出来ないかと考えていました。が、特に対策も考えずに臨んだのですが、今回はオープン前から測定希望者が多く、そのため前回までの、測定を担当した薬剤師が訪問者の測定結果をその場で解説するという流れが、今回は訪問者の測定結果をテーブルの端の相談コーナーで別の薬剤師が受け測定結果データを見ながら別席で話をするという流れが自然にできました。その結果意外に訪問者とじっくり話が出来、測定結果のデータを解説しながら訪問者の生活習慣や特定検診の検査内容、現在服用している薬の効果の具合、将来の健康に対する不安や治療内容の疑問など前回より詳しい話が聞き出せ、その中で出来る限りのアドバイスをさせて貰う事が出来ました。訪問者の中には保健所や病院で受けるアドバイスより分かり易かったと言って頂ける方もいて、前回より少し踏み込んだ相談会になった様に感じました。

薬局を離れてこういうイベント会場で行う相談会では初めて出会う方と普段と違う会話を交わす事ができ、それだけでも参加する価値があるように思います。

こういう相談会を通して薬剤師をより身近な健康アドバイザーと感じてくれるといいですね。



◘健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

○大浦 宏巳　○吉田 益奈子　○盛島 明隆　○川満 正啓　○下地 仁
○山崎 今日太　○上里 雅江　○渡真利 国浩

月例相談会

第127回健康とおくすり相談会報告

日時：平成27年11月15日（日）10:00 ～ 15:00
場所：沖縄セルラーパーク那覇
担当：那覇地区薬剤師会

吉田薬局 はんたがわ店
吉田 洋史

平成27年11月15日（日）10時～ 15時　沖縄セルラーパーク那覇において「ひやみかちなはウォーク2015」が開催されました。～うまんちゅ　するてぃ　あっちみそーち　ちゃーがんじゅう～（みんな　揃って　歩いて　いつも健康）を大会スローガンに、「市民一人ひとりの健康意識を高め、日頃から歩くことを習慣化していき、誰もが健康で、心豊かな「いい暮らしより楽しい暮らしを」が実感できる健康都市を目指す。という目的で開催されました。今回の「ひやみかち　なはウォーク　2015」は4千人近くの参加者が、晴れ渡る秋空の下、奥武山公園を発着点に爽やかな汗を流しました。

第2回となる今大会の特徴は、ラムサール条約に登録された漫湖の湿地帯を望み自然を満喫できる「マングローブまーい」。2つ目が2本のポールを使って歩くノルデックウォークを体験してもらう「ノルデックウォークコース」を追加し7コースとなったことです。他にも、世界遺産の識名園や首里城を巡る20kmのコースや、高層ビルが立ち並ぶ新都心地区と昔ながらの面影が残る壺屋やマチグヮーを歩くコースなどがありました。

コース
①御城上り（うぐしくぬぶい）20km
②今昔（なまんかし）マチグヮーまーい13km
③マングローブまーい 5km
④大門（うふじょう）まーい 7.8km
⑤うるくまーい 7.8km
⑥奥武山まーい 3km
⑦ノルディックウォーク体験コース 5km

沖縄セルラースタジアム那覇隣のゴール地点である沖縄セルラーパーク那覇（多目的屋内運動場）では、ウォーキングを終えた参加者たちが楽しめる特設ステージでのラジオ特番や、各種ステージイベントで大盛り上がりでした。その「ひやみかちなはウォーク

2015」と同時に沖縄セルラーパーク那覇で開催された“なは健康フェア”に那覇地区薬剤師会も「健康とおくすり相談会」のブースを出しました。他にも日本健康運動指導士会沖縄県支部、那覇市食生活改善推進員協議会、健康増進課、沖縄県栄養士会、那覇市健康づくり推進員協議会、那覇市母子保健推進員協議会、全国健康保険協会沖縄支部、沖縄県社会保険協会、アルケア株式会社、沖縄県立看護大学、沖縄県看護協会、日本赤十字沖縄県支部といった団体がブースを出していました。県栄養士会とは、薬剤師会の体成分分析の結果を利用しての栄養指導を行うという連携もできました。また、薬剤師会の機器が多くて狭いブースであるため仕切りを取り払い、スペースも提供していただきました。ありがとうございました。

内容はいつもの相談会と同じで、健康チェック（血圧、体成分分析、血管年齢）、ジェネリック・おくすり手帳・お薬整理バッグの説明、おくすり相談です。那覇市は昨年の反省を活かし、ウォーキング参加者のゴール時間帯をずらしました。その成果もあって健康チェックを受ける方やおくすり相談者が途切れること無く続きました。報告書が残っている相談者だけでも115名分ありましたので実際は軽く150名は超えていたと思われます。今回は市民に周知されていたこともあってか、おくすり手帳持参で相談に来られる方も何名かおられました。学生実習の金城くんも測定のお手伝いや健康相談をしてもらって大活躍、助かりました。

毎回、おくすり相談会には人員不足で悩んでいます。呼びかけのFAXも2,3度流しますが、後から協力できますと言っていただける方はほとんどいません。来年も開催されると思いますが、交代要員も必要ですので、協力していただける薬剤師さんが増えれば助かります。職場の方も誘ってのウォーキング参加だけでも大歓迎です。でも帰りにはぜひ、ブースに顔を出して応援の声掛けをよろしくお願いします。

◘健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

○川満 直紀　○渡具知 一枝　○吉田 洋史　○鈴木 一徳　○平良 栄子　○國吉 直子
○大塚 成一郎　○山道 峻也　○照屋 勇人　○金城 秀明（実務実習薬学生）

お知らせ

地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！

年々、地区（支部）、部会の活動が活発化しております。
是非“おきなわ薬剤師会報”へ活動・状況報告等を投稿して下さい。活動報告以外の情報も歓迎します！

啓蒙普及活動

「グッジョブ☆にしはら　わくわくワーク」における薬剤師職能の啓蒙活動について

日時：平成27年９月23日（水・祝日）13:00 ～ 14:00・14:30 ～ 15:30
会場：西原町町民交流センター

広報委員会
伊差川 サヤカ

上記日程で、小中学生対象お仕事体験イベント「グッジョブ☆にしはら　わくわくワーク」が開催されました。本来は8月中に開催される予定のイベントでしたが、台風のため敢え無く延期になっておりましたが、無事に9月に同イベントにて薬剤師職能の啓蒙活動を行うことができましたので、ここに報告したいと思います。

本取組は、西原町の企業や産業団体、教育機関、行政、PTA等地域の大人たちが連携し、地域の子ども達の就業意識の向上や地域活性を目的に開催されています。当日会場では、「お仕事・ものづくり体験」など23もの体験が用意され、地域の小中学生を中心に約1,000名の方々がご来場されたようです。（沖縄県産業・雇用拡大県民運動推進本部　HPより）

一昨年からこれまでに開催されたグッジョブサマースクールと同様に、参加の小学生には白衣を着てもらい、保護者も一緒に参加させる方法をとりました。大人用の白衣の袖を折り曲げて裾を引き摺りながら歩き、薬剤師の話に耳を傾ける子供たちは、見ていてとても微笑ましいものでした。

午後1時開始の授業と午後2時30分開始の2コマで、約40名が参加してくれました。このイベント自体は小学生が対象なのですが、「薬剤師になりたいから、どうしても参加させてほしい」と来ていた中学生もいました。

まず、広報委員である私（伊差川）による紙芝居での薬剤師の仕事紹介を行いました。その後、小学生は5人ずつ4つのグループに分かれ、1グループずつ、教室の角に設置した4つの体験コーナーを時計回りにまわっていくという流れにしました。

地元放送局(RBC)の取材も受けました

体験コーナーは次のとおりです。

①　液剤の色の変化、カプセル

鉄剤シロップとお茶を混ぜ、色が変わるのを見て驚いていました。カプセルが少量の水で指にくっつくことを初めて知った様子でした。2つの実験を通して、薬は一定量の水で飲むことが大切だと学んでいました。

②　粉薬の混合

実際にはフレーバーを使用していたので、会場は甘い香りに包まれていました。重めの乳鉢・乳棒で一生懸命に混合していました。

③　一包化

模擬処方箋とカラーコーティングのミルクチョコレートを用いて一包化を体験してもらいました。色の異なるチョコレートを、模擬処方箋通りに朝・昼・夕と分けて分包しました。一包化は、（株）タカゾノさんが分包機を準備してくださったお蔭で、かなり本格的な作業となりました。帰り道にお土産として分包されたチョコレートを持って帰る子供たちがとても嬉しそうでした。（もちろん、食べないようにお伝えしました）

④　薬の種類と薬の効き方

薬が体の中を旅するルートや効くしくみを説明。薬のサンプルを実際に手に取ってみたり、吸入器を利用しての吸入体験をしたりと楽しそうでした。

最初は紙芝居で薬剤師の仕事紹介
（担当：伊差川サヤカ）
その後は4つの体験コーナーを実施

〔4つの体験コーナー〕

液剤の色の変化、カプセル
（担当：伊差川サヤカ・大城なつき）

粉薬の混合（担当：神谷朝斗志）

一包化（担当：宮城幸枝）

薬の種類と薬の効き方
（担当：上里美矢子・宮本桂子）

小学生と普段話すことがなかったので、一体どんな風に話せばいいだろうと緊張しっぱなしでしたが、目を輝かせて話しかけてくる子供たちを前にすると、つい腕まくりして話す自分がいました。驚いたのは、保護者の方の中にも、薬剤師ってかっこいいから自分の子供にも薬剤師になってほしい、とお話しされる方が結構いらしたこと。ますます私たちの職業が注目されてきたことを感じました。かっこ悪いところは見せられないですね。「これからも頑張って働くぞー!!」

記念撮影

◘薬剤師になろう講座”啓発活動員

○伊差川　サヤカ　　○上　里　美矢子
○大　城　なつき　　○神　谷　朝斗志
○宮　城　幸　枝　　○宮　本　桂　子

啓蒙・普及活動

この日が来るのを、楽しみに待っていました！

南風原町教育委員会 生涯学習文化課
学校支援地域コーディネーター　儀間 千恵

10月21日に行われた、南風原小学校5年生総合的な学習の時間「キャリア教育進路学習会」での、子どもの言葉です。この授業は、保護者や地域の様々な職業の方々が講師となり、対話をとおして子供たちが職種を知り、働く意義を考えることをねらいとした学習会です。

5年生（118名）が「将来なりたい職業・話しを聞きたい職業」をアンケートと話し合いで16種類の職業に決め、その中に「薬剤師になりたい」という子供たちがいました。薬剤師を目指す理由をみると、「人の役に立つ仕事に就きたい」「みんなの病気を治したい」「みんなを守りたい」とあり、5年生の彼等の思いに私は感激しました。

そこで、沖縄県薬剤師会事務局の大城氏から学校薬剤師である野崎真敏先生をご紹介頂き、授業にご協力頂く事になりました。

学習会には、消防士、グラフィックデザイナー、理学療法士、バスケット選手、スポーツ関係者、パティシエ、設計士、警察官、自動車整備士、美容師、アナウンサー、漫画家、木工職人、パイロット、薬剤師の16業種、総勢23名のプロの方々が集まって下さいました。体育館に設けられた職業ブースでは、それぞれが工夫を凝らし、写真やパネル、実物を用意し、仕事に就く方法ややりがい、苦労などを話し、実演を行うブースもあり、子供たちは瞳を輝かせて熱心に講師の話を聴いていました。

薬剤師ブースの野崎さんは、子供たちが理解しやすい様にと資料を示しながら、膝を交え「薬剤師の仕事」について丁寧に話して下さいました。そんな野崎さんの姿に担任教師は、「質問もし易かったのだろうと思います。子供たちが集中し一生懸命にメモを取る姿に、吸収したい！との思いを感じ、涙ウルウルしました。」と授業後、話していました。そして、子供たちからも、「女性に合っている仕事だ！という言葉に、ますます興味を持った」とか、「医師と同じくらい勉強をしないといけないとわかった」「病院や薬局以外にも働く場所がたくさんあることを初めて知った」「薬剤師にしか出来ない大切な役割

16業種の講師陣が紹介された

薬剤師の仕事紹介をする野崎真敏氏

がある事がわかった」などの感想がありました。さらに、「野崎さんから聞いた事をこれから活かしていきたい。勉強を頑張りたい」と綴っています。

他にも、「体調管理や笑顔、あいさつ、返事、チームワーク、感謝、好奇心、チャレンジ、あきらめない心、失敗を失敗のままにしない、勉強を続けることが大事、相手に喜んでもらうことや役に立つことにやりがいを感じている」など、たくさんのキーワードがあり、とても実りの多い授業となりました。担任教師も校長先生も頷きながら、各ブースの話を聴いていました。

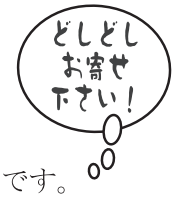
講師からの感想では、「仕事に興味を持ってもらい嬉しかった」とか「子供の質問が勉強になり、自身の良い経験になった」との感想を頂き、感謝の思いでいっぱいです。

さて、現代の子供たちは昔に比べ、親や教師以外の大人と接する機会が少なくなっているのではないでしょうか。自分の身近に「憧れの職業人モデル」となる大人の存在や繋がりが乏しいのかもしれません。

これからも夢を持った子供たちが、第二・第三の「薬剤師の野崎さん」に出会えることを願っています。

たくさんのプロと出会った彼等が、将来どんな沖縄や世界をつくっていくのか。地域の皆さんも共に見守って頂ければ幸いです。もしかしたら20年後、皆さんの後輩になっているかもしれません。その時は、どうぞよろしくお願いしますね。

会報原稿募集のご案内



広報委員会

おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。

広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します（薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です）。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

・誌上匿名は可能です。
・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております（手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します）。

☆原稿送付先（会報に関する問い合わせ）

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで　〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 218-10
TEL 098-963-8930　FAX 098-963-8932　e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

啓蒙・普及活動

くらしのサポート講座開催のご報告

沖縄県消費生活センター
所長　原田 直美

沖縄県薬剤師会及び会員の皆様におかれましては、日頃から沖縄県の各種施策の推進にご協力いただき、感謝申し上げます。

沖縄県消費生活センターでは、県民の皆様が安心・安全で豊かな生活を営む一助とするために、毎年様々のテーマで「くらしのサポート講座」を開催しております。今年も9月から2月にかけて、全9回の講座を予定しております。その第2回目として、去る10月8日「薬の基礎知識」というテーマで、貴会会員の神谷朝斗志様に講師を務めていただきました。

このテーマを選んだ理由は、高齢化が進む中で一人一人の薬の量や種類が増え、服用期間も長くなる傾向にあることから、薬の服用に関しては処方された薬を正しく服用できていないために薬の効果が不十分であること、複数の病院で同じような薬が処方されていて飲まずに捨てている事例がある等の課題が指摘されており、薬を正しく服用するための基礎知識を身につけていただくことにより、健康を維持すると共に、適切な薬の処方により保健医療費の節減に役立てていただこうという趣旨でした。

神谷様には、パワーポイントを使ってわかりやすく説明いただくと共に、受講者からの質問にも丁寧にお答えいただきました。おかげさまで、大変わかりやすく有益な講座になったと思います。受講者からも「例え話があって分かり易かった」「ゆっくり、かみ砕くように話されていたので良かった」「とても参考になった」等の感想がありました。

神谷様にはこの紙面をお借りして改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今回、このようなかたちでご協力をいただきましたが、沖縄県薬剤師会、会員の皆様には、今後とも当センター事業へのご協力、県の施策推進へのご協力をよろしくお願い致します。また、沖縄県消費生活センターでは今回のような講座の他、消費者トラブルについての無料の出前講座も行っています。高齢者自身の意識啓発や高齢者を見守る立場の方の知識習得に役立つものと思います。会員の皆様の関係機関で、高齢者や職員の皆様を対象に消費者トラブルの現状と対応方法等について講座を開催していただけるなら、無料で講師を派遣いたします。どうぞ、ご検討のうえ、是非ご利用下さい。

結びに、沖縄県薬剤師会の益々のご発展と、会員皆様のご健康と今後のご活躍を祈念し、講座のご報告とさせていただきます。

講師　神谷 朝斗志 氏

薬事情報おきなわ No.236
2015年 11・12月号 ： Vol.30 No.6
薬事情報センター TEL：098-963-8931
FAX：098-963-8937

薬価基準追補収載品目

●新医薬品　平成27年11月26日付

区分	販売名 （　）内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名：適応症・効能効果
内用薬	イフェクサーSRカプセル37.5mg (W 37.5)	37.5mg1カプセル	160.80	ファイザー	**ベンラファキシン塩酸塩：**セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤（うつ病・うつ状態）（新有効成分）
	イフェクサーSRカプセル75mg (W 75)	75mg1カプセル	270.70		
	トラクリア小児用分散錠32mg (32)	32mg1錠	4,577.00	アクテリオン ファーマシューティカルズジャパン	**ボセンタン水和物：**受容体拮抗薬（乳児、幼児又は小児における肺動脈性肺高血圧症）（新剤形・新用量）
	ピートルチュアブル錠250mg (KISSEI PA250)	250mg1錠	214.20	キッセイ薬品	**スクロオキシ水酸化鉄：**高リン血症剤（透析中の慢性腎臓病患者における高リン血症の改善）（新有効成分）
	ピートルチュアブル錠500mg (KISSEI PA500)	500mg1錠	314.30		
	ムルプレタ錠3mg (@551：3)	3mg1錠	16,107.60	塩野義製薬	**ルストロンボパグ：**経口血小板産生促進剤／トロンボポエチン受容体作動薬（待機的な観血的手技を予定している慢性肝疾患患者における血小板減少症の改善）（新有効成分）
	マリゼブ錠12.5mg (@781)	12.5mg1錠	559.20	MSD	**オマリグリプチン：**持続性選択的DPP-4阻害剤［経口糖尿病用薬］（2型糖尿病）（新有効成分）
	マリゼブ錠25mg (@782)	25mg1錠	1,045.10		
	エクメット配合錠LD (NVR：CCC)	1錠	87.70	ノバルティス ファーマ	**ビルダグリプチン／メトホルミン塩酸塩：**選択的DPP-4阻害薬／ビグアナイド系薬配合剤［2型糖尿病治療薬］（2型糖尿病。ただし、ビルダグリプチン及びメトホルミン塩酸塩の併用による治療が適切と判断される場合に限る）（新医療用配合剤）
	エクメット配合錠HD (NVR：LLO)	1錠	87.70		
	カプレルサ錠100mg (Z100)	100mg1錠	7,836.40	アストラゼネカ	**バンデタニブ：**抗悪性腫瘍剤／チロシンキナーゼ阻害剤（根治切除不能な甲状腺髄様癌）（新有効成分）
	ミティキュアダニ舌下錠3,300JAU	3,300JAU1錠	66.40	鳥居薬品	**コナヒョウヒダニ抽出エキス及びヤケヒョウヒダニ抽出エキス錠）：**ダニアレルギーの減感作療法（アレルゲン免疫療法）薬（ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎に対する減感作療法）（新有効成分）
	ミティキュアダニ舌下錠10,000JAU	10,000JAU1錠	201.20		
	ヴィキラックス配合錠 (AV1)	1錠	26,801.20	アッヴィ	**オムビタスビル水和物／パリタプレビル水和物／リトナビル：**抗ウイルス化学療法剤（セログループ1（ジェノタイプ1）のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善）（新有効成分・新医療用配合剤）
注射薬	イーケプラ点滴静注500mg	500mg5mL1瓶	1,978.00	ユーシービージャパン	**レベチラセタム：**抗てんかん剤（一時的に経口投与ができない患者における、てんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）の治療に対するレベチラセタム経口製剤の代替療法。（新投与経路医薬品）
	ライゾデグ配合注 ペンフィル	300単位1筒	1,551.00	ノボノルディスクファーマ	**インスリン デグルデク（遺伝子組換え）／インスリン アスパルト（遺伝子組換え）：**インスリン デグルデク／インスリン アスパルト配合 溶解インスリンアナログ注射液（インスリン療法が適応となる糖尿病）（新医療用配合剤）
	ライゾデグ配合注 フレックスタッチ	300単位1キット	2,322.00		
	リューブリンPRO注射用キット22.5mg	22.5mg1筒	105,039.00	武田薬品	**リュープロレリン酢酸塩：**LH-RH誘導体／マイクロカプセル型徐放性製剤（前立腺癌、閉経前乳癌）（新剤形）
	コパキソン皮下注20mgシリンジ	20mg1mL1筒	5,617.00	武田薬品	**グラチラマー酢酸塩：**多発性硬化症治療剤（多発性硬化症の再発予防）（新有効成分）

区分	販売名 （　）内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名：適応症・効能効果
注射薬	ヨンデリス点滴静注用0.25mg	0.25mg1瓶	49,307.00	大鵬薬品	**トラベクテジン：**抗悪性腫瘍剤（悪性軟部腫瘍）（新有効成分）
	ヨンデリス点滴静注用1mg	1mg1瓶	197,698.00		
	オクトレオスキャン静注用セット	1セット	115,464.00	富士フイルムRIファーマ	**ペンテトレオチド、塩化インジウム：**放射性医薬品・神経内分泌腫瘍診断薬（神経内分泌腫瘍の診断におけるソマトスタチン受容体シンチグラフィ）（新有効成分）
	アレルゲンスクラッチエキス陽性対照液「トリイ」ヒスタミン二塩酸塩	2mL1瓶	7,966.00	日本たばこ産業	**ヒスタミン二塩酸塩：**アレルゲン検査陽性対照薬（アレルゲンによる皮膚反応の陽性対照）（新剤型・新用量）
	テムセルHS注	10.8mL1袋	868,680.00	JCRファーマ	**ヒト（同種）骨髄由来間葉系幹細胞：**ヒト体性幹細胞加工製品／ヒト（同種）骨髄由来間葉系幹細胞（造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病）（新再生医療等製品）
外用薬	ゼビアックスローション2％	2％1g	82.20	マルホ	**オゼノキサシン：**キノロン系外用抗菌剤（＜適応菌種＞オゼノキサシンに感性のブドウ球菌属、アクネ菌、＜適応症＞表在性皮膚感染症、ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの））（新有効成分）
	ロコアテープ	10cm×14cm1枚	45.90	大正製薬	**エスフルルビプロフェン／ハッカ油：**経皮吸収型鎮痛消炎剤（変形性関節症における鎮痛・消炎）（新有効成分・新医療用配合剤）

●報告品目・新キット製品一覧　平成27年11月28日付

区分	販売名 （　）内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名：適応症・効能効果
内服薬	ジプレキサザイディス錠2.5mg （Z）	2.5mg1錠	138.30	日本イーライリリー	**オランザピン：**抗精神病薬・双極性障害治療薬（統合失調症。双極性障害における躁症状及びうつ症状の改善）（規格追加）
	イグザレルト細粒分包10mg	10mg1包	413.00	バイエル薬品	**リバーロキサバン：**選択的直接作用型第Xa因子阻害剤（非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制。深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症の治療及び再発抑制）（剤型追加）
	イグザレルト細粒分包15mg	15mg1包	588.40		
	エフィエント錠2.5mg （エフィエント 2.5）	2.5mg1錠	201.20	第一三共	**プラスグレル塩酸塩：**抗血小板剤（経皮的冠動脈形成術（PCI）が適用される下記の虚血性心疾患急性冠症候群（不安定狭心症、非ST上昇心筋梗塞、ST上昇心筋梗塞）、安定狭心症、陳旧性心筋梗塞）（規格追加）
	アレセンサカプセル150mg （ALE/150mg）	150mg1カプセル	6,614.60	中外製薬	**アレクチニブ塩酸塩：**抗悪性腫瘍剤／ALK阻害剤（ALK融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌）（規格追加）
	レブラミドカプセル2.5mg （REV 2.5mg）	2.5mg1カプセル	7,647.10	セルジーン	**レナリドミド水和物：**抗造血器悪性腫瘍剤（再発又は難治性の多発性骨髄腫。5番染色体長腕部欠失を伴う骨髄異形成症候群）（規格追加）
外用薬	シプロキサン注400mg	400mg200mL1袋	2,404.00	バイエル薬品	**シプロフロキサシン：**ニューキノロン系注射用抗菌剤（成人＜適応菌種＞本剤に感性のブドウ球菌属、腸球菌属、炭疽菌、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、緑膿菌、レジオネラ属　＜適応症＞敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、炭疽）（小児＜適応菌種＞本剤に感性の炭疽菌、大腸菌、緑膿菌　＜適応症＞複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、炭疽）（新剤形・新用量）

＊識別記号の「@」は製薬会社のマークの代用としています。

●後発医薬品　平成27年12月11日付

薬価収載の対象となったのは、今年8月17日までに薬事承認された医薬品、56社の74成分144規格318品目。（内用薬41成分77規格206品目、注射薬29成分59規格103品目、外用薬6成分8規格9品目）初の後発品収載は、抗うつ剤「塩酸セルトラリン」（ジェイゾロフト＝ファイザー）など12成分164品目。後発の収載品目数が多かったのは「塩酸セルトラリン」の18社43品目、次いで血圧降下剤「バルサルタン／アムロジピンベシル酸塩」（エックスフォージ＝ノバルティスファーマ）の10社40品目。

2015年12月11日

リゾチーム塩酸塩製剤「アクディーム®」「ノイチーム®」「レフトーゼ®」の慢性副鼻腔炎に係る効能・効果削除の承認について

リゾチーム塩酸塩製剤は 2012 年 1 月に再評価指定を受け同製剤を取り扱う、エーザイおよびサンノーバ、あすか製薬、日本新薬、シオエ製薬は共同で、「慢性副鼻腔炎」、「気管支炎」、「気管支喘息」、「気管支拡張症」に係る適応を対象とした本剤の有効性を検証するための製造販売後臨床試験（プラセボ対照二重盲検群間比較試験）を実施しました。

これらの試験のうち、「慢性副鼻腔炎」に係る適応を対象とする試験では、現在の標準治療に対するリゾチーム塩酸塩の上乗せ効果が認められなかったため、2015 年 5 月 29 日に本効能・効果削除の一変申請を行いました。

なお、「気管支炎」、「気管支喘息」、「気管支拡張症」に係る適応を対象とした試験では、慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者における標準治療に対するリゾチーム塩酸塩の上乗せ効果を検討し、その試験結果に基づき、同日に再評価申請を行い、現在規制当局による審査中です。

12 月 11 日以降は、「慢性副鼻腔炎」の効能・効果は下記のとおり削除され、本製剤を「慢性副鼻腔炎」の適応で保険請求できなくなりますので、ご留意ください。

変更前	変更後
【効能・効果】 次の疾患の腫脹の緩解 　慢性副鼻腔炎 痰の切れが悪く、喀出回数の多い下記疾患の喀痰喀出困難 　気管支炎、気管支喘息、気管支拡張症	効能・効果】 痰の切れが悪く、喀出回数の多い下記疾患の喀痰喀出困難 　気管支炎、気管支喘息、気管支拡張症

「ケアラム®錠 25mg」/「コルベット®錠 25mg」前例調査終了のお知らせならびに適正使用に関するご協力継続のお願い

2015 年 12 月
富山化学工業株式会社
大正富山医薬品株式会社
エーザイ株式会社

1.　承認条件の解除に伴い、全例調査及び流通管理を終了いたしました。
2.　引き続き、本剤をワルファリン投与中の患者様に投与しないようお願いします。

・本剤を調剤される際は、患者様のワルファリン服用の有無を必ずご確認ください。
・本剤を処方された患者様に、他の医療機関を受診される際は、本剤を服用中であることをお伝えいただくようご指導をお願いいたします。

適正使用に関する資材として患者指導箋、コルベット／ケアラムカード（患者様用資材）及び本剤投与前の確認事項（医療関係者様資材）を用意しています。各社医薬情報担当者（ＭＲ）までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

コルベット錠	ケアラム錠
大正富山医薬品株式会社 メディカルインフォメーションセンター 電話番号：0120-591-818 受付時間：月～金　9：00～17：30 （土・日・祝日・当社休日を除く）	エーザイ株式会社　hhc ホットライン 電話番号：0120-419-497 受付時間：平日　9：00～18：00 土・日・祝日　9：00～17：00

Medical News

●合格判断で相対基準導入－薬剤師国試（薬事日報 10月14日）

厚生労働省は、来年2月の第101回薬剤師国家試験から新たな合格基準を適用する。合格者の基準を、これまでの「得点率65%以上」から「平均点と標準偏差を用いた相対基準」に変更し、試験ごとに合格基準を決めるようにする。また、必須問題を構成する各科目の足切りを現行の50%から30%に引き下げるほか、35%に設定されていた薬学理論・実践の各科目の足切りは廃止する。ただ、仮に合格基準が70%に上昇した場合でも、教育現場や受験生の混乱を避けるため、当分の間、65%を維持した受験生は合格とする。“当分の間”について厚労省は、「良質の過去問が多数蓄積され、出題問題のレベルと受験者の学修レベルが合致し、安定した状況になるまで」としている。

●疑義照会に薬剤師が代行回答（薬事日報 11月12日）

高知市の細木病院（317床）は、院内で策定したプロトコルに基づき、薬局薬剤師からの疑義照会に対して病院薬剤師が医師に代わって回答する運用を今年4月から開始した。9項目の疑義内容について、外来の担当医師の事前合意のもと、疑義照会の約半数に対して病院薬剤師が代行で回答するようになり、医師の負担軽減、患者の待ち時間短縮につながった。対象とした疑義照会は、[1]入力誤りなどの不適切な用法用量[2]入力誤りなどの不適切な処方日数[3]残薬調整等による処方日数の短縮[4]処方日数の延長[5]調剤方法の変更[6]外用薬の使用部位[7]院外処方箋の使用期間[8]不要と思われるコメントの削除[9]その他－の9項目。

●化血研問題、血液製剤ワクチン供給に影響も（読売新聞 12月3日）

厚生労働省は、今年6月に化血研の血液製剤の出荷を差し止め、9月にはワクチンの出荷自粛を要請した。このうち、代替品のない製品や、供給不足に陥る危険のある製品については、措置を解除するなどしているが、供給体制や安全性への不安が広がっている。ワクチンは10種類。このうち流行期を迎えたインフルエンザ（占有率29%）と、小児の需要が高いポリオなどの4種混合（同64%）は同省が安全性を確認した上で出荷を再開した。残るＡ型肝炎（同100%）、Ｂ型肝炎（同80%）などは、出荷が差し止められている。

●調剤情報を会員薬局間で一元管理（薬事日報 11月30日）

香川県薬剤師会は、高齢者など電子お薬手帳を利用していない患者の調剤情報を電子化して一元管理し、県内の会員薬局間で共有するシステムを構築する。同意を得た患者にカードを発行、個別の番号を使って、クラウド上のデータセンターを介して薬局薬剤師が調剤情報を登録、閲覧する。「日薬eお薬手帳」の機能を基盤に、香川県の補助金を得て今年度からシステム開発に着手した。来年1月以降に試行を開始し、3月末までに本格的な運用に踏み切る計画。会員薬局の半数がこの事業に参加する見通し。会員薬局間で共有する調剤情報は、[1]患者の氏名[2]病院名[3]医師名[4]薬局名[5]薬剤師名[6]調剤実施日[7]処方内容－の7種類。

●診療所と薬局がPBPM-貼付剤の使用継続率が向上（共同通信 12月9日）

浜松市のながえ前立腺ケアクリニックと近隣13薬局は連携し、「プロトコルに基づく薬物治療管理」（PBPM）の一環として、過活動膀胱治療用の貼付剤「ネオキシテープ」を患者が使い続けられるように支援している。接触性皮膚炎による使用中断を減らすため、スキンケア方法や皮膚症状出現時の対応を標準化し、プロトコルを策定した。初回処方時の説明に加え薬局薬剤師は開始後3日目、7日目に電話をかけてモニタリングを行う。プロトコルの運用によって、同剤の継続率は向上しており、地域の医療機関と薬局が連携してPBPMを導入する一つのモデルとなりそうだ。

●新薬メーカー危機感　後発医薬品、普及8割へ（毎日新聞 12月9日）

政府が医療費抑制に向けて安価な後発医薬品の普及率を2020年度までに8割以上にする方針を打ち出したことを受け、大手製薬各社が対応を急いでいる。後発薬メーカーは増産体制の構築を図る一方、後発薬の利用拡大でシェア低下が必至な先発薬メーカーは特許が切れた新薬の事業をリストラし、経営資源を新薬の研究・開発に集中しようとしている。ジェネリック普及の波は業界再編につながる可能性もある。

●健康食品「本当に必要か考えて」～食品安全委（朝日新聞 12月10日）

内閣府の食品安全委員会は、健康食品の利用が広がっていることを受けて、健康食品について知っておくとよいことを8日付で公表。科学的研究が少なく「安全性や有効性が確立しているとはいえない」と指摘し、「今の自分に本当に必要か考えて」と注意を促している。健康被害のリスクはあらゆる食品にあり、健康食品でも被害が報告されている。そして「現在の日本人が通常の食事をしていて欠乏症を起こすビタミンやミネラルはあまりない」「自己判断でサプリメントからミネラルを大量に補給することは過剰摂取につながる可能性がある」と指摘。さらに、健康食品は品質管理の規制の対象になっていないことや、医薬品と併用すると薬の効果が弱まったり強くなりすぎたりする可能性もあることなどを注意点として挙げている。

●喫煙率は20%弱で微増　3割が「たばこやめたい」（共同通信 12月10日）

厚生労働省が実施した2014年国民健康・栄養調査で、喫煙率は19.6%で前年から0.3ポイントの微増だった。喫煙者のうち「やめたい」と考える人が3割に上っていることも判明。厚労省は飲食店や百貨店など「公共の場での原則全面禁煙」を打ち出しており、禁煙対策の一層の取り組みが注目される。喫煙に関する質問には男女計約7600人が回答。その結果、男性（3560人）の喫煙率は前年と同じ32.2%。女性（約4千人）は8.5%で前年比0.3ポイント増だった。20年の東京五輪・パラリンピックを見据え、受動喫煙規制の強化を求める動きもある。

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

＊薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

○医薬ジャーナル　51巻10号

＊記念特集：医薬品開発における産官学連携の展望

＊特集：インフルエンザの最新事情とその対策～ One Healthの観点から～

・薬局におけるインフルエンザ感染対策と抗インフルエンザ適正使用～調剤薬局を含めて～（p.129）

・注目論文を読み解く（43）（p.190）

1.メトホルミンによる脳症

2.清上防風湯はCYP1A2活性を阻害する

3.レンバチニブの血漿中濃度がリファンピシン単回投与で上昇、反復投与で低下

4.グリベンクラミドとフェノフィブラートの併用で重篤な低血糖リスクが上昇

5.リネゾリドの血漿中濃度が低値を示したレボチロキシン服用患者

6.カルバマゼピンによる爪甲脱落症

○医薬ジャーナル　51巻11号

＊特集：ウイルス感染症との新たな戦い～グローバル化する脅威の克服を目指して～

・血液疾患における深在性真菌感染症予防（p.121）

・注目論文を読み解く（44）（p.168）

1.クロピドグレルによる後腹膜血腫

2.パロキセチン併用でチモロール点眼後の血漿中濃度が上昇

3.デキサメタゾン軟膏の局所投与による糖尿病

4.第二世代抗精神病薬により若年患者で糖尿病リスクが上昇

5.パゾパニブ併用でドセタキセルの血漿中濃度が上昇

6.カルシウム拮抗薬とクラリスロマイシンの相互作用で骨折リスクは上昇しない

○医薬ジャーナル　51巻12号

＊特集：専門職連携教育（IPE）の現状と展望

・連載　実務実習をより良くするために(15) 未来を担う薬剤師の育成 ～ポートフォリオのさらなる活用～ (p.134)

・注目論文を読み解く（45）（p.152）

1.イストラデフィンの夕投与による睡眠障害

2.オキシコドンでオピオイド中毒を呈した透析患者

3.エスシタロプラムによる横紋筋融解症

4.オメプラゾール、エソメプラゾール併用でエスシタロプラムの血清中濃度が上昇

5.リファンピシン併用でフェキソフェナジンの血漿中濃度が上昇

6.スニチニブで重度の毒性を呈したABCG2遺伝子変異をもつ日本人患者

○医薬品情報学　17巻3号

・[資料] 点眼補助器具の使用性に関する検討（p.140）

・[資料] 医薬品服用中における自動車運転等の注意喚起徹底に関する院内統一（第二報）ー名古屋市立東部医療センターの事例ー（p.164）

・[ニュースレター] Infor-view：医薬品情報を適切に伝える（N1）

○エキスパートナース　31巻10月号

＊特集：検査値の“ここ見て！”「9項目」

＊特集2：看護師の「特定行為研修」が始まった！

○月刊薬事　57巻11号

＊特集：まるごと解説！ 認知症の薬物療法

・患者支援に向けた薬剤師の実践～認知症患者支援における多職種チームの要として（p.77）

・深読み添付文書［7］医薬品のベネフィットの最大化のための用量（p.141）

・適応外使用の処方せんの読み方（64）片頭痛（p.147）

○月刊薬事　57巻12号

＊特集：非がん・高齢者疾患の緩和ケア

・深読み添付文書［8］投薬後の有害事象を未然に防ぐ慎重投与・重要な基本的注意（p.145）

・適応外使用の処方せんの読み方（65）　マクロライド系抗菌薬による下痢の予防（p.153）

○月刊薬事　57巻13号

＊特集：妊娠・授乳と薬物療法の最新知識

・適応拡大クローズアップ　ラモセトロン塩酸塩錠 (p.94)

・深読み添付文書［9］薬剤師への期待と医薬品相互作用（p.111）

・適応外使用の処方せんの読み方 [66] 鼻茸（p.147）

○産科と婦人科　82巻11号

＊特集：婦人科腹腔鏡手術の最前線

○産科と婦人科　82巻12号

＊特集：分娩管理の新機軸

○総合診療　25巻11号

＊特集：レアだけど重要な「痛み」の原因ーシステム1診断学

○総合診療　25巻12号

＊特集：外来で「複数の疾患」をもつ患者を診るーマルチモビディティの時代のプライマリ・ケア

○調剤と情報　21巻12号

＊特集：がん患者でみられる副作用

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

・処方監査や疑義照会で検査値を使いこなす（13）薬剤性腎障害を早期に発見するために必要な検査（p.75）
・医薬品適正使用のための 処方せんからみたファーマシューティカルアセスメント 5　めまい（目の前が暗くなる）－前編－（p.87）
・新薬くろーずあっぷ：タケキャブ錠10mg, 20mg（p.115）
・気になる薬のQ&A：ブリンゾラミド懸濁性点眼液（p.123）

○調剤と情報　21巻13号

＊特集：薬剤師ならできる! 薬剤師だからできた!! 残薬対策
・新薬くろーずあっぷ：ワントラム錠100mg（p.37）
・処方監査や疑義照会で検査値を使いこなす（14）双極性障害で処方される薬剤に関連する臨床検査値（p.59）
・医薬品適正使用のための 処方せんからみたファーマシューティカルアセスメント めまい（目の前が暗くなる）－後編－（p.67）
・薬局ヒヤリ・ハットなくし隊がゆく（62）調剤過誤防止システムの過信でミス発生！（p.77）
・気になる薬のQ&A：カルシポトリオール水和物/ベタメタゾンジプロピオン酸エステル配合剤（p.107）

○調剤と情報　21巻14号

＊特集：緩和ケア はじめの一歩
・新薬くろーずあっぷ：ソバルディ錠400mg（p.47）
・処方監査や疑義照会で検査値を使いこなす（15）加齢による腎機能低下を考えよう！（p.67）
・医薬品適正使用のための 処方せんからみたファーマシューティカルアセスメント（7）呼吸困難（息苦しい）－前編－（p.73）
・薬局ヒヤリ・ハットなくし隊がゆく（63）1日量を1回量と思い込み、一包化調剤でミス！（p.83）
・気になる薬のQ&A：テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤（p.97）

○治療　97巻10号

＊特集：がんサバイバーシップ

○治療　97巻11号

＊特集：CRPology

○治療　97巻12号

＊特集：ライフキャリア・サバイバルー女性医師が生きやすい社会を目指してー

○日経ドラッグインフォメーション　216号

＊特集：「薬歴が書けないっ！」を一挙解決
・服薬指導　ウルソは１日１回でもよい理由（p.31）
・服薬指導　抗癌剤治療中に処方された牛車腎気丸（p.PE003）
・魚介類のタウリンでコレステロールの代謝促進（p.PE016）
・「生物学的半減期」は何に使う？ 薬が効き始めるまでの時間の予測に有用（p.PE023p）

○日経ドラッグインフォメーション　217号

＊特集：後発品をどう選ぶ　2015
・服薬指導　妊娠時に経口ステロイドを変更する理由（p.35）
・医薬連携　抜歯時の感染症予防に使う抗菌薬（p. PE001）
・医師が語る処方箋の裏側　胃炎でない患者にＨ2受容体拮抗薬を使う理由（p.PE007）
・中性脂肪高値は動脈硬化を促進　果糖を控え、大豆の摂取を心掛けて（p.PE016）
・トラムセットが処方された患者にパーキンソン病の現病歴他（p.PE017）

○日経ドラッグインフォメーション　218号

＊特集：検査値を活かす
・服薬指導　クロピドグレルとプラスグレルの違い（p.51）
・服薬指導　ＰＥＴ検査時に中止が必要な薬（p.53）
・服薬指導　甲状腺機能低下症を来す抗不整脈薬とは（p.PE005）
・医師が語る処方箋の裏側　緊張型頭痛の患者にアーテンを頓用処方（PE007）
・ダニ舌下錠のアシテアと　ミティキュアは何が違う？（p.57）

○日経メディカル　575号

＊特集：「心不全パンデミック」の脅威

○日経メディカル　576号

＊特集：かぜの顔した重大疾患を見逃すな

○日経メディカル　577号

＊特集：早わかり！今冬のインフルエンザ

○日本医事新報　4766号

・質疑応答～内科：低血糖の治療法（p.61）
・質疑応答～眼科：アレルギー性結膜炎におけるコンタクトレンズ使用時の点眼薬使用不可の理由（p.64）

○日本医事新報　4769号

＊特集：認知症を診ていくための制度活用法
・質疑応答～内科：潰瘍性大腸炎の寛解維持療法における投薬と休薬（p.67）
・質疑応答～栄養・食品：脂肪酸の種類と臨床栄養学的意義（p.70）

○日本医事新報　4771号

＊特集：医療事故調査制度の7つのステップ
・質疑応答～内科：高コレステロール血症患者に対する脳梗塞予防としての抗血小板薬投与の有用性（p.63）
・質疑応答～病理学：インスリンと認知症改善（p.66）

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

○日本医事新報　4772号
＊特集：向精神薬がもたらす身体合併症
・質疑応答～小児科：肥満症の小児に対する投薬量はどのように決めればよいですか？（p.59）
・質疑応答～歯科・口腔外科：歯肉増殖の副作用が少ないCa拮抗薬はありますか？（p.59）

○日本医事新報　4776号
・質疑応答～東洋医学：漢方薬による低カリウム血症を補正するにはどうすればいいですか？（p.67）

○日本医事新報　4779号
・質疑応答～産科：絶対過渡期の妊婦への投薬は？（p.64）
・質疑応答～薬品：貼付剤の薬剤吸収率は？（p.65）

○薬局　66巻10号
＊特集：急性薬物中毒
・フロセミドの吸入は急性気管支喘息発作の症状を緩和する？（p.121）

○薬局　66巻11号
＊特集：Bz受容体アゴニスト
・デノスマブは骨粗鬆症とがん患者の骨関連合併症に有用！あらためて重複投与には注意しよう！（p.102）

○薬局　66巻12号
＊特集：C型肝炎　薬物治療の最前線と求められる多角的視点

○The Medical Letter　31巻 8号
・酒さ治療薬イベルメクチンクリーム（Soolantra）（p.51）

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

アルツハイマー病における漢方薬 人参養栄湯の作用機序

新薬と臨牀　64巻10号

近年、アルツハイマー病（AD）の発症機構として、「可溶性Aβオリゴマー仮説」が主流となってきているが、我々は新たに「ADとミエリン仮説」を提唱している。可溶性Aβオリゴマーの産生と凝集塊の形成には、再ミエリン化に必要なミエリン塩基性タンパク質が中心的な役割を担っており、早期のミエリンの修復という予防的処置は、AD処置において重要な役割を果たすと考えられる。我々はミエリン形成不全と脱随の回復に人参養栄湯が有効であり、その活性本体は陳皮のナリルチンゃヘスペリジンであることを、明らかにした。よってミエリン修復機能に関与し脳機能を守る人参養栄湯は、AD患者の脳における白質構造や機能に影響を与える新規の薬物治療の発展に寄与しうると考えられる。なお、人参養栄湯の他、抑肝散加陳皮半夏にも陳皮が配合されており、認知症患者の20-80%でみられる興奮・精神不穏などのBehavioral and Psychological Symptoms of Dementia（BPSD）の改善のみならず、ミエリン変性の回復によるAD治療効果が期待できる。

慶応義塾大学医学部　漢方医学センター
工藤　千秋

緑内障患者への抗コリン薬使用

日本医事新報　4770号

結論から言えば、開放隅角緑内障はもちろんのこと、閉塞隅角緑内障を含め、殆どの緑内障症例に対して抗コリン薬を使用することは問題になりません。問題になるのは、閉塞隅角緑内障および原発閉塞隅角症（緑内障性視神経障害を起こしていない原発閉塞隅角緑内障の前駆状態）の症例で、白内障手術をまだ受けておらず、さらにレーザー虹彩切開術などの治療も受けていない症例と、一部の特殊な重症例のみです。緑内障は、特徴的な視神経萎縮により視野障害、視力障害をきたす疾患ですが、高眼圧がその原因および悪化要因として最も重要です。特に眼内の水分（房水）の排出経路である隅角が閉塞した場合、非常に強い眼圧上昇を起こし、急性緑内障発作の状態になります。急性発作を起こすのは、解剖学的に隅角の狭い症例で、抗コリン薬を使用した場合、散瞳によって隅角閉塞が起きて発作を引き起こすことになります。白内障手術により隅角は開放されるため、抗コリン薬による隅角閉塞の可能性は基本的になくなります。

東海大学大学院医学研究科眼科学教授
鈴木　康之

Book Information

日薬斡旋図書のご注文は事務局（代表：098-963-8930）までお願いします。
※日薬斡旋図書は会員価格で購入できます。
※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

【日薬斡旋図書】錠剤・カプセル剤粉砕ハンドブック

【監修】佐川 賢一、木村 利美　【発行】じほう　【発行日】2015 年 11 月
【版型/頁】B6 判/1,440 頁【定価】6,264 円（税込）【会員価格】5,640 円（税込）

疾病による嚥下障害や嚥下能力の弱い高齢者・小児、処方量が規格に合わないなどの臨床上の理由により、錠剤・カプセル剤を粉砕・開封しなければ調剤できない処方例が増加している。そのためには、錠剤・カプセル剤を粉砕・開封することによる、医薬品の安定性や予想される有効性の変化や副作用の発現、味覚などの使用性に関しても正確な情報の把握と提供が必要。汎用されている先発品およびジェネリック医薬品薬 6,800 品目の粉砕可否およびその理由を、製薬企業より提供されたデータと著者による様々な臨床的判断・コメントを加え、一覧表にした。今版より原薬の水に対する溶解性情報と錠剤・カプセル剤の形状を追加掲載、さらに使いやすい調剤業務必須の 1冊。

【日薬斡旋図書】軟膏・クリーム配合変化ハンドブック

【監修】江藤 隆史、大谷 道輝、内野 克善【発行】じほう　【発行日】2015 年 11 月
【版型/頁】B6 判/718 頁　【定価】4,536 円（税込）　【会員定価】4,060 円（税込）

軟膏・クリームなど皮膚外用剤の交合調剤・混合後の変化などに関する情報を、新薬、ジェネリック医薬品などの新たなデータを大幅追加してまとめた、皮膚外用剤混合処方・調剤の適正使用に欠かせないハンドブック。前版では、新たに収載された新薬、ジェネリック医薬品に関する情報を大幅に追加しただけでなく、全般までに掲載された混合情報も、最新の混合情報・臨床評価にもとづき見直した。また、ミキサーを使用した混合調剤に関しても大幅に情報を追加。

【日薬斡旋図書】新版　健康食品の基礎知識

【編著】芝 紀代子　【発行】じほう　【発行日】2015 年 9 月
【版型/頁】B5 判/248 頁【定価】3,240 円（税込）【会員定価】2,920 円（税込）

2015 年 4 月から新たに機能性表示食品制度がスタートし、健康食品市場は活況を呈している。健康食品は日常にありふれていますが、摂取を間違えると人体に被害を及ぼす。食品や栄養に関する知識、疾患と栄養、食品と医薬品との相互作用、食品衛生など、多方面からアプローチしながら健康食品を正しく理解するための正統派テキスト。

【日薬斡旋図書】治療薬ハンドブック 2016

【監修】高久 史麿　【発行】じほう　【発行日】2016 年 1 月
【版型/頁】B6 変形判/1,500 頁【定価】4,752 円（税込）【会員定価】4,280 円（税込）

書籍とアプリで 24 時間対応！在宅、かかりつけ薬局に役立つ！
【Point1】 処方変更に役立つ！同効薬比較表が大リニューアル
【Point2】 ひと目でわかるマーク表記
【Point3】 医師からの“処方 Point”、作用や特徴がわかる“薬剤 Point”、臨床情報に基づく“適応外使用例”

Book Information

日薬斡旋図書のご注文は事務局（代表：098-963-8930）までお願いします。
※日薬斡旋図書は会員価格で購入できます。
※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

【日薬斡旋図書】臨床力 UP エクササイズ②内分泌・代謝領域

【監修】勝見　章男、三浦 崇則　【発行】じほう　【発行日】2015 年 9 月
【版型/頁】A5 判/224 頁【定価】2,592 円（税込）【会員価格】2,330 円（税込）

Step1.2：内分泌・代謝領域における解剖生理や検査、病態、薬物治療など、臨床で必要な知識の復習と拡充を目的としたステップ。解説を読み、問題を解いて、知識を確かなものに。
Step3.4：実際の症例をもとにした問題にチャレンジ。カルテから情報収集をするとき、他職種と情報を共有するとき、患者面談から問題点を発見したとき・・・など、さまざまな状況を想定した問題を解くうちに、臨床現場で薬剤師として判断し行動する力が自然と身につく。

病院感染対策ガイドライン　改訂第 2 版

【編集】国立大学付属病院感染対策協議会　【発行】じほう　【発行日】2015 年 11 月
【版型/頁】B5 判/272 頁【定価】3,888 円（税込）

病院の信頼度の指標となる医療機能評価において、感染対策に多職種で取り組む ICT の関わりが一つの大きな項目となっている。国立大学附属病院感染対策協議会が、わが国の感染対策を取り巻く環境の変化や諸外国のガイドライン見直しを背景に改訂作業を積み重ねた最新版。ICT に関わる全スタッフにおすすめ。

腎臓病薬物療法トレーニングブック

【監修】平田 純生　【発行】じほう　【発行日】2015 年 9 月
【版型/頁】B5 判/224 頁【定価】3,888 円（税込）

「腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師」が腎機能低下患者や透析患者の何に着目し、どのような思考プロセスで適切な薬学的介入を行っていくのかについて、症例を通して学ぶことができる。適切な薬物療法を提供するための基本的な知識を解説しながら、複雑・多岐にわたる症例へのアプローチ法をトレーニングでき、“アドバンスト”な薬剤師を目指す方に最適な 1 冊。日本腎臓病薬物療法学会腎臓病認定薬剤師の申請に必要な「自験例（症例サマリー）」の記載例も掲載。

小児感染対策マニュアル

【編著】五十嵐 隆　【発行】じほう　【発行日】2015 年 12 月
【版型/頁】B5 判/316 頁【定価】4,536 円（税込）

子どもは保護者の助けを必要とし、病気についての理解も不十分であることから、その感染対策は成人と比べより難しくなり、成人と同じ方法で対応でないケースも数多く起こる。また、「子どもの権利条約」などを参考に子どもの人権に配慮した対応が求められる。こうした現状をもとに、日本全国の子ども感染対策の専門家が、子どもの感染対策のために必要な体制づくり、子どもの感染症対策に関する基礎知識、小児感染症のアウトブレイク対策、各施設・部門ごとの具体的な対応など、個々の現場で必要な内容を多く図表を用いてわかりやすく具体的にまとめた、初の書籍。医療施設に限らず、子どもと関係する施設にとって、感染症対策は常に大きな位置を占めている問題です。最新かつ適切な感染対策を実施するために実務書として活用できる 1 冊。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1)医薬品情報の提供　(2)「薬事情報おきなわ」の編集・発行　(3)医薬品に関するお問い合わせ　(4)県薬ホームページの制作・管理　(5)消費者薬相談業務「おくすり相談室」　(6)医薬品 PL センター窓口業務　(7)ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象)　平日　午前：8時30分～12時　午後：1時～5時30分　（土・日・祝日休業）
(一般対象)　「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」
平日（月～金）午前：9時～12時　午後：1時～5時

※おくすり相談室・ドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。
お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の閲覧、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL：098-963-8931　　FAX：098-963-8937
沖縄県薬剤師会　薬事情報センター

＊　＊　海外文献から（JAPIC 医薬情報より）＊　＊

●Aspirin,Dipyrone,Paracetamol および NSAIDs の即放性経口製剤の薬物動態に及ぼす食事の影響（Br. J. Clin. Pharmacol. 80(3)381-（2015.9））
システマティックレビューにより,食後と空腹時における NSAIDs の最高血漿中濃度の程度とタイミングに関する単回投与薬物動態研究からエビデンスを検証した。PubMed,Google Scholar,Clinicaltrials.gov 等を用いて,2014 年 10 月までの文献 38 報,被検者 874 例,食後/空腹時 46 比較(33 比較は無作為化 クロスオーバー法)研究についてレビューした。結果、食事は,空腹時 tmax が 4hr 未満の薬剤全ての吸収を遅延させた。一般的な鎮痛剤(aspirin,diclofenac,ibuprofen,paracetamol)の食後 tmax は,空腹時より 1.30-2.80 倍延長した。Cmax は典型的に低下,吸収が早いほど低下が大きく,aspirin,diclofenac,ibprofen および paracetamol の食後 Cmax は空腹時の 44-85%であった。
●パーキンソン病の入院患者における抗コリン作用薬の負荷量:スペインのヘルスケアデータベースを用いた解析（Eur. J. Clin. Pharmacol. 71(10)1271-（2015.10））
スペイン バスク州のヘルスケア DB を用いて,2011 年-2012 年の PD 入院患者のデータを解析した。Duran リストを用いて抗コリン作用を有する薬剤の負荷量について検討した。次に,Anticholinergic Drug Scale,Anticholinergic Risk Score,Anticholinergic Burden Scale を用いて,抗コリン作用の総量について評価を行い,抗コリン薬使用の予測因子について,ロジスティック回帰モデルにて検討した。その結果、PD 患者の多くが抗コリン薬の処方を受けており,処方のうち 53.6%は Duran リストの薬剤を 1 種類以上含み,10%は 1 種類以上の「高リスク」薬剤を含んでいた。非運動症状に使用する薬剤や PD とは別の合併症に対する薬剤,特に抗うつ薬,抗精神病薬,泌尿器系薬,鎮痛薬,抗ヒスタミン薬などの薬剤が,抗コリン作用薬の総投与量に有意に影響していた。投与薬剤の総数とコリンエステラーゼ阻害薬の投与は,独立して抗コリン薬使用と関連していた。
●サプリメントに関連する有害事象による救急部受診:サーベイランスデータ解析　(N. Engl. J. Med. 373(16)1531-(2015.10.15))
ハーブ系製品や栄養補助製品,微量栄養素(vitamin,mineral)等のサプリメントに関連する有害事象を原因とする,米国内の救急部受診の状況を明らかにした。2004 年-2013 年に 63 の救急部から得た全米を代表するサーベイランスデータを利用した。症例 3667 例が同定され,1 年あたり 23005 件(95%信頼区間[CI]18611-27398)の救急部受診が,サプリメントに関連する有害事象に起因し,この内年間 2154 件(1342-2967)が入院に至ったと推定された。このような受診の頻度は,20 歳-34 歳の若年成人と 4 歳以下の小児で高かった。監督下にない状況で小児がサプリメントを摂取した場合を除くと,1 種類のサプリメントに関連する有害事象による救急部受診の 65.9%(95%CI:63.2-68.5)は,ハーブ系製品または栄養補助製品に関連するものであり,31.8%(29.2-34.3)は微量栄養素(マルチビタミン,iron,calcium,potassium など)に関連していた。動悸,胸痛,頻脈といった有害事象に起因する救急部受診は,若年成人では減量用製品または体力増強用製品を原因とする心血管症状,高齢成人では嚥下障害によるものが多く,嚥下障害は微量栄養素の摂取に関連していることが多い。

投稿

「うちなぁ がん薬－薬連携の会」をご存じですか？

あかみち薬局
神元 繁守

皆さん「うちなぁ　がん薬－薬連携の会」をご存じですか？

この会は2013年に特定非営利活動法人「よりよい地域医療を応援する会」によって発足され、「沖縄県におけるがん患者の診断・治療等に関し意見交換を行い、病院と調剤薬局の地域医療の連携を深め、がんに関するがん薬物治療の推進を図ることを目的とする」というコンセプトで活動をおこなっている会です。世話人の7名が定期的に集まり、次回行う講演会の日程や内容について意見交換しています。私も世話人の一人として務めています。

皆さん、日頃の業務の中で、がん患者さんと接する時に、色々と不明なことや、どのような服薬指導をしていいかわからない不安な気持ちで接することはないですか？　本会はそういった、病院側からの不安の声と調剤薬局側からの不安の声を聞き取り、年3回を目標として、テーマごとの勉強会を行っています。この勉強会で、がんの薬物治療に関しての知識を深め、病院と開局の薬剤師の交流の場にもなることで、日常業務に大きく活かしていける会となっています！

現在まで、5回の講演会を行いました。第一回は「抗がん剤処方の安全で安心な服薬指導の向上と医療情報の共有化」、第二回は「胃がんの薬物治療と服薬指導」、第三回は「血液がんと肺がんの化学療法」、第四回は「大腸がんの診断と治療」と「高額療養費」、第五回は「緩和医療の服薬指導」についてでした。ロールプレイやディスカッションも盛り込まれた勉強会もあり、薬－薬連携という観点からも近隣の病院、調剤薬局の薬剤師同士の交流もとれる非常に有意義な勉強会でした。第五回は過去最高の62名の出席者にきていただき大盛況でしたよ。アンケート結果も好評で、ほぼ全ての先生が「次回も参加したい」と回答していただきました。専門・認定の単位も取得できますよ！

次回の講演会は来年の2月中旬頃を予定しています。テーマは「乳がん」についてです。お時間に都合がつけば参加のほど宜しくお願いします。

第23回　暮らしの中の薬草学
身近な薬草を知ろう

女性薬剤師部会　狩俣 イソ

ヒハツモドキ

学　　名　Piper retrofractum
科　　名　コショウ科 Piperaceae
属　　名　コショウ属 Piper
使用部位　果実、果穂、葉
有効成分　カプサイシン、ピペリン
　　Piperlonguminine, guineesine

ヒハツモドキの特徴

ヒハツモドキは、コショウ科のつる性常緑低木である。別名はジャワナガコショウ、ヒハツ、サキシマフウトウカズラ。和名はヒハツとされる場合もあるが、同属別種のPiper longumもヒハツとされる。属名はギリシャ語のペプトー（柔らかくする、消化する）を語源とする。

東南アジア（インドネシア、マレーシア、タイ等）原産で、日本では沖縄の本島や八重山地区に見受けられる。離島ではやや希であり、大東諸島からは発見されていない。集落地等の人為的に改変された環境のみに認められ、山林等の自然植生における分布は確認されていない。茎が付着している物質としては、コンクリートが最も多く、続いて石灰岩、樹木の順に多い。表面が平滑な基質は生育に不適である可能性がある。海外では雌雄異株であるとされているが、雄穂を有する株は調査では発見されていないため、沖縄には雄株が分布しないか、あるいは出穂しない可能性がある。

つる性で長さ4m程、全株無毛。葉身は長楕円形～卵状楕円形で先鋭。基部は左右不対称になることがある。葉身は膜質、やや硬くて、葉脈が両側に少し突出する。葉身は長さ7～15cm、葉柄は7cm以下。雌花序は葉と対生して、長さ2cmほどになる。果実は円筒形で長さ3cm程、赤く熟す。結実期は6～10月。本州南部以南に分布するフウトウカズラによく似ているが、ヒハツモドキは葉が薄くてつやがあり無毛、羽状脈で、フウトウカズラは5行脈で、葉の裏面に毛がある。

沖縄では、種子を粉末にしたものを「ヒハチコ」と呼び、コショウの代用として用いられている。琉球料理には欠かせない香辛料で、特に山羊料理や豚料理の調味料として重要である。また、沖縄そばに振りかけたりする。発汗作用があるため、新陳代謝を促す働きもある。健胃整腸や食欲増進に用いられる。

中国では、ヒハツモドキの茎葉を生薬「山蒟（サンク）」と呼び、風邪や、リウマチによる痛み、腰や膝の機能不全、筋肉萎縮、咳による呼吸困難、打撲傷や毒蛇による咬傷を治すのに用いられる。

参考　wikipedia、ハーブの館「日本新薬株式会社」、農業研究センター石垣支所、gkz植物事典

コショー（黒・白混合粉）可食部100ｇ当たり　第五訂日本食品標準成分表　（参考にコショーを記載）

エネルギー	蛋白質	炭水化物	脂質	灰分	カルシウム	マグネシウム	カリウム
371ｋｃｌ	10.5ｇ	68.3ｇ	6.2ｇ	2.4ｇ	330mg	120mg	680mg
ナトリウム	マグネシウム	亜鉛	鉄	リン	銅	βカロテン	ビタミンC
35mg	120mg	1.0mg	13,7mg	150mg	1,1mg	84μg	1,0mg

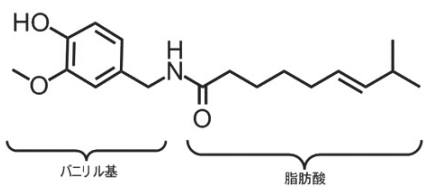
ヒハツモドキに含まれる有効成分

ヒハツモドキは、ピペリンやカプサイシンの辛み成分のほか、抗酸化剤、抗菌剤および殺虫活性などの様々な活性成分として知られているレトロフラクタミドA、B、C、ギネシン、ピペリン酸メチル、ペリトリン、およびパイパーロングミニーを含有することが判明している。　参考：Asta.muse

ヒハツモドキの抗糖尿病効果

ヒハツモドキの果実は、長期的に摂取すると肥満誘発動物の体重や脂肪を著しく減少させ、血中グルコースレベル及び血中インスリンレベルを低減し、抗糖尿病効果を示すことが見いだされている。　参考：Asta.muse

カプサイシン（*Capsaicin*、*C18H27NO3*）



カプサイシンは、バニリルアミンと脂肪酸がアミド結合したカプサイシノイドと呼ばれるアルカロイドの一種で、眼、鼻の粘膜や皮膚に触れると局所的な刺激作用により、流涙、鼻漏、疼痛などが生じる。ごく微量のカプサイシン、発痛物質であるブラジキニン（BK）よりも低濃度で痛みを起こす。また動物への大量投与により、ある種の痛みを抑える効果と神経由来の炎症反応、いわゆる軸索反射を強く抑制する脱感作効果（desensitization effect）があり、痛みを和らげる効果の根拠が示されている。大量の場合、投与直後は興奮させるものの、経時的に興奮が収まり一時的あるいは恒久的に神経を構造的に変性もしくは破壊して、脱感作効果を示す。

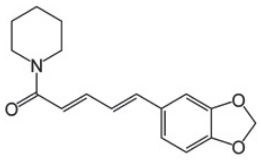
カプサイシンのバニリル基が、全身に分布する感覚神経終末で細胞膜のバニロイド受容体TRPV1（カプサイシン、酸、熱などの侵害刺激を受容するイオンチャネル型受容体）に結合して、神経細胞が脱分極し活動電位を発生することで、灼熱感（焼け付く痛み）を引き起こす。

カプサイシンを摂取すると、感覚神経を介して胃酸の分泌が抑制される。動物試験では、少量のカプサイシンの摂取によって、胃粘膜を保護する作用が働いて胃潰瘍が発生しにくくなることが知られている。一方、大量のカプサイシンの摂取によって、感覚神経のTRPV1が機能不全を起こすと、胃粘膜の保護作用がなくなるとの報告がある。

カプサイシンの刺激が繰り返されると、感覚神経細胞のTRPV1を介して細胞内に流入したカルシウムイオンによって、TRPV1が脱感作され、感覚神経が麻痺して辛みと痛みを感じにくくなる。この作用を利用し鎮痛外用薬として、カプサイシンを含む温湿布やクリームがある。

参考：東北薬科大学実験動物センター、農林水産省

ピペリン（*C17H19NO3*）



ピペリンは生体異物や代謝産物の代謝・輸送をつかさどるヒトのCYP3A4やP−糖蛋白の働きを阻害する。ピペリンが薬物代謝に重要な他の酵素をも阻害した動物実験の結果が報告されている。ヒトでクルクミンの生物学的利用能を2000%まで向上させたという報告がある。

ピペリンとコエンザイムQ10を摂取させたところ、COQ10単体摂取時より、COQ10の血中濃度が増加したことから、ピペリンは栄養素の吸収を促進させると考えられている。

高脂血症ラットを対象に、ピペリンを摂取させたところ、LDLコレステロールの低下、HDLコレステロールの増加、アポタンパク質ならびに甲状腺ホルモン、テストステロン値の低下が緩和されたことから、高脂血症、動脈硬化予防効果、甲状腺疾患予防効果が期待されている。

高脂肪食摂取ラットを対象に、ピペリン0.02g/kgの量で10週間摂取させたところ、SODやグルタチオンなどの抗酸化酵素の減少が緩和されたことから、生活習慣病による酸化ストレス緩和効果が期待されている。

ピペリンはコクゾウムシ、ココクゾウムシ及びコクヌストモドキ（貯蔵穀物害虫）の発育を阻害する。精製されたピペリンは 50 ppm （0.05㎎/1g）の濃度でコクゾウムシ類の羽化率を概ね半減させる。

参考：若さの秘密、国際農林水産業研究センター

旅行って素敵！！

（その1）

ハイジア薬局
廣川 直子

薬剤師の仕事を辞めて、コンピューターのシステムエンジニアをしていた時期があったり、ボールルームダンス（社交ダンス）のプロ競技選手とドラッグストアの薬剤師の2足の草鞋を履いていた時期があったり、イタリアに惚れ込んでイタリアに語学留学してみたりと、薬剤師としては、私は少し人と違う経歴を持っていて、ネタが沢山ありそうとのことで、この随筆のバトンが回ってきたようであるが、子供の頃から作文は大の苦手。期待外れになる可能性大で、できればお断りしたかった。しかし､『皆で作り上げるもの』を「私はできません」とお断りするのも信条に反するのでお引き受けした。稚拙な文章はご容赦頂きたい。

私は東京生まれの東京育ち。約2年半前に沖縄に移住してきた。何故かと言うと、30年以内に起こる確率が70%以上という、巨大地震から逃れたいが為である。日本中どこにいても、地震から逃れるすべはないが、人口密度や建物の密集度が東京23区内は半端なく、人ごみの中逃げ惑い焼死するのは嫌だし、福島第一原発も今の状態ではどうなるか知れたものではない。何処かに引越したいと思ったのだ。ものすごく寒がりの私は、気温が氷点下になるところには住めないし、第一東京以北はもっと地震の回数が多い。関西も危険区域。一説によると東京よりも危ないらしい。九州？知り合いもいないし､冬は意外と寒く、東京よりも雪が降るところもある。私の母方はもともと沖縄の出身で、何度か訪れたこともあるし、頼りになる従兄もいるし、暖かい沖縄にしよう!!ということになった次第である。

さて、先ほど述べた“イタリア”の話に移ろう。なぜ、そんなにイタリアが好きになったのかであるが、恐らくは、生まれて初めて訪れたヨーロッパがイタリアだったからでなはいかとも思う。これが、フランスであればフランスに夢中になったのだろうし、ドイツであったならばドイツ語を「学生時代にもっとちゃんとやっておくのだった」と反省しながら一からやり直していたのだと思う。

そもそもは、友人に無理矢理誘われてのイタリア旅行だった。12 ～ 3年前になるだろうか？ある日、突然、友人からの電話で、「一緒にイタリア旅行に行く予定をしていた〇子が株で大損して､旅行どころではなくなった。でも、とてもリーズナブルで〇〇だけの特典旅行で、どうしても行きたいの。一緒に行こうよ!!」と言うのである。その頃、私は余り体調が良くなくて､毎日朝から「気持ち悪い」と言い、食欲は無く、食事は少量しか摂れない状態で、とても海外旅行の気分ではなかった。なんとか断りたかったが、彼女の勢いからつい話を聞いてしまった。「実は、私、今余り体調よくなくてさあ･･･」と切り出したものの、遅かった。「大丈夫、大丈夫。旅行は〇ヶ月先だから、それまでに整えておけば･･･荷物は私が持ってあげる。（実際は私が持たされるはめになるのだが･･･）お土産もつけるから。（これも付かなかった）ご主人には私からお願いする。ちょっと、電話かわってぇ」と言われ、電話を変わり、横で「断って～」とジェスチャーしているにもかかわらず、「ああ、そうですか。ふむふむ。わかりました。よろしくお願いします。」とか言ってくれちゃった。えーっ !?イタリア旅行!? 何で私が･･･主人がどういうつもりで『GO』にしたのかは未だにわからないが、私の友人の前でいいところを見せたかったのかも知れない。とにかく､行くことになってしまった。

当時の私は、ヨーロッパ旅行なんて、時間とお金に大いに余裕のある人がするものと思い込んでいた。事実、私の子供の頃はそうだった。まさか15万円代で行けるとは夢にも思っていなかった。なので、いつかは行きたいと思いつつも自分とは当分無縁のものと思っていたので、ヨーロッパと言えばフランス、ベルばらのヴェルサイユ宮殿、ルーヴル美術館、ドイツの古城くらいしか思いつかなかった。一体イタリアに何しに行くんだろう？イタリアって何があるの？取り敢えずガイドブックを買ってみた。ミラノにはドゥオーモというのがあるらしい。何それ??

今ひとつイメージが湧かないうちに、出発となった。体調の方は相変わらず。少し良くなっていたのに、旅行が近づくとまた元に戻っていて、「気持ち悪い〜」とやっていた。恐らく、無意識に緊張していたのだろう。行きの成田エクスプレスの中で、最早吐き気。朝も早く、血圧が低いせいもあり余計に具合が悪い。機中でも同じ。機内食なんかが配られた時には、その臭いで「勘弁してくれ！みんな早く食べ終わって!!」と祈るばかり。唯一食べられたのが塩味しかついていないクラッカー。それと、ウーロン茶を少しずつ飲んだら、気分が少しスッとした。とにかく時間が長く感じた。寝ても寝ても着かない。ずっと広大なシベリアのど真ん中。何ということをしてしまったのだろうと後悔。ヘルシンキ乗り換えで、ミラノに着いたのは夜半。疲れ果てて具合が悪い。気持ちが悪くて夜中じゅうトイレの近くにしゃがみ込んでいた。「どうしてこんな所に来てしまったんだろう･･･」と悔やんでも悔やみきれない感じだ。そう、そこは日本じゃない!!

翌朝、朝食に友人にくっついて行ったものの紅茶しか飲めなかった。味のついていないパンとりんごを持って出た。歩きながら、お腹が空いてきたら齧るのである。食事がまともにできない時はこれが一番良い。この後、体調が良くなるまでの数年間、旅行の度にそうするようになった。

一日目はミラノ見物。どこに連れて行かれるのか？細い裏道のような所を通って、突然、大きな石造りの建物が現れた。「な、なんだこれは？」余りの壮大さにびっくり仰天。そして、感動。す、すごい!!どうやってこれを造ったの??ガイドさんの説明で造られた時代を知り、更にびっくり。「これがドゥオーモ!?」続いて建物内に入って更に驚き。日本では考えられない広さと天井の高さ。ステンドガラスの見事なこと。一枚一枚が聖書のお話しになっているなんて、なんてすごいものを作るんだろう!!と、感動。言葉も出ない。涙さえ出てくる。あの時の感動を思い出すと、今でも涙が出てくる。そして、外に出て初めてわかったのだが、最初に見た外観はなんと裏側からだった。「ひえっ！こっちが正面だ!!」気付くと、吐き気はどこかにすっ飛んでいた。昼食もリゾットアラミラネーゼ（サフランのリゾット）のせいか、残しはしたが食べられて、少しずつ元気になっていった。その後も、見るもの見るもの、素敵なものばかり。感動の連続。

「イタリア ミラノのドゥオーモ」 photo by 廣川直子

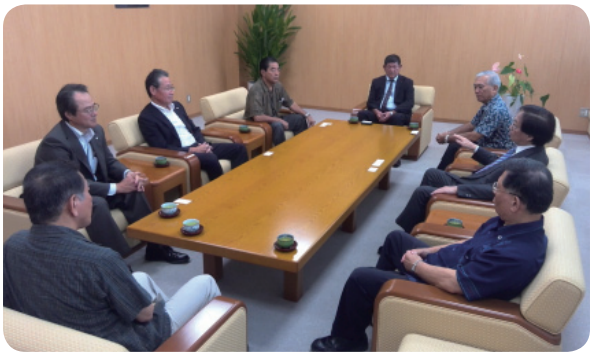
次号には、引き続き廣川 直子先生の「旅行って素敵!!」を掲載します。

薬連だより

平成28年7月（予定）に行われる参議院議員選挙において、「**藤井もとゆき氏**」の再選を期するために、各医薬品卸業者や各地区薬剤師会理事会、沖縄県医薬品登録販売者協会研修会等に訪問し、薬業界および薬剤師の政治の必要性を伝え、藤井もとゆき薬剤師後援会への入会をお願いした。

今後もあらゆる団体、会議、研修会等を訪問する予定である。

(株)琉薬



(株)ダイコー沖縄

(株)スズケン沖縄薬品

(株)アトル沖縄営業部

沖縄東邦(株)

沖縄県医薬品登録販売者協会研修会にて

薬連だより

国会レポート
「患者のための薬局ビジョン」について

前文部科学副大臣・参議院議員
藤井 もとゆき

立冬を過ぎ都心でも朝晩の冷え込みが日増しに厳しくなり、国会周辺の銀杏並木も色づき始めています。

イングランドで開催されたラグビーワールドカップは、ニュージーランドが史上初の2連覇で3回目の優勝を飾り、一月半にわたる大会の幕を閉じました。日本代表チームが強豪南アフリカを破るなど初めて3勝を挙げ、国内ラグビーブームの火付けとなった同大会、11月13日に開幕するトップリーグには、五郎丸選手をはじめ代表チームメンバーのプレーを一目見ようと、大勢の観客がスタンドを埋めるものと思われます。2019年の次回ワールドカップ開催を控える日本ラグビー界にとって、開催に弾みをつける絶好の機会となりました。

さて、厚生労働省は10月23日、前月の「健康サポート薬局のあり方について」に続いて、「患者のための薬局ビジョン」を公表しました。

医薬分業が進み、処方箋を持って薬局で調剤してもらうのが当たり前のようになった一方、受診した医療機関近くの薬局で調剤を受けるなど、医薬分業における薬局の役割が十分に発揮されていないとの指摘も受けるところとなりました。政府の規制改革会議においても医薬分業を議題に取り上げ、かかりつけ薬局の要件の明確化など薬局全体の改革の方向性について検討すること、調剤報酬のあり方について門前薬局の評価の見直しなど、努力した薬局、薬剤師が評価される仕組みとすることなどが示されました。こうした状況を受け、厚生労働大臣は、医薬分業の原点に立ち返り、57,000の薬局を患者本位のかかりつけ薬局に再編するため、「患者のための薬局ビジョン」を策定すると表明、今回の公表へとつながりました。

今回のビジョンでは患者本位の医薬分業を実現するため、「立地から機能へ」、「対物業務から対人業務へ」、「バラバラから一つへ」を一貫した基本的考えのもと、立地に依存して便利さだけで選択される存在から、薬剤師としての専門性や患者・住民のニーズに対応できる機能を発揮することにより選択される薬局となること、薬剤の調整など対物中心の業務から、薬剤師の専門性・コミュニケーション能力を活かした対人業務にシフトすること、患者の服薬情報を一元管理して、飲み合わせの確認や残薬管理など安心できる薬物療法を提供することなど、地域包括ケアの一員として、かかりつけ医をはじめ多職種・他機関と連携し、その重要な役割を果たすことを求めています。

厚生労働省は、団塊の世代が75歳を迎える2025年までに、全ての薬局をかかりつけ薬局にすることを目指すとしています。また、日本薬剤師会も本ビジョンの公表を受け、全国いずれの地域においても患者本位の医薬分業が実施され、患者・住民から評価されるよう、覚悟を持って真摯に取り組むことを表明したところであります。

私も患者のための医薬分業の実現に向け、先生方と力を合わせて取り組んで参りたいと思います。

藤井もとゆきホームページ　**http://mfujii.gr.jp/**

告知ポスター

薬と健康の週間 10/17(土)▶23(金)

くすりと健康フェア《心身ともに健康》

入場無料

県民公開講演会

平成27年10月22日(木) 午後7時～8時30分

パレット市民劇場

那覇市久茂地1-1-1（パレットくもじ9F）

※ご来場の際は、バス、タクシー、モノレール等をご利用下さい。
※会場の都合により、定員を超えた場合はご入場をお断りすることがありますので、あらかじめご了承ください。

手話通訳あります。

演題

高齢者のための栄養の工夫

～いつまでも生き生きと暮らすために～

講師

吉田 貞夫（よしだ さだお）

沖縄メディカル病院あがりはまクリニック院長、金城大学客員教授
筑波大学医学専門学群卒業。筑波大学大学院博士課程医学研究科で「胆道癌の遺伝子変化」を研究。国内のみならず、タイ王立がんセンター、コーンケン大学とも共同研究。米国ハーバード大学「腫瘍微小循環、血管新生と転移」研修コース終了。日本外科学会外科専門医、日本静脈経腸栄養学会代議員・指導医、日本病態栄養学会評議員・病態栄養指導医、日本臨床栄養学会臨床栄養医高齢者の低栄養の病態とケアなどに関して、多数執筆、全国各地で講演

お薬と健康相談会

日時 平成27年10月22日(木) 午後4時30分～6時30分

場所 パレット市民劇場ロビー

講演会前に薬剤師がお薬と健康の相談を致します。

病院薬、ジェネリック医薬品、大衆薬、漢方薬、健康食品、禁煙、メタボリックシンドローム、薬物乱用など

相談無料 お気軽にご相談ください

主催：薬剤師会

お薬手帳 5つのいいこと

お薬手帳はどの薬局でももらえます。

- い 医療機関にかかる時は必ず持っていきましょう
- い 言いたい事や伝えたい事を書いておきましょう
- い 一般用医薬品（OTC医薬品・大衆薬）・健康食品も記録して
- い いつも携帯・いつも同じ場所に保管して
- い 一冊にまとめましょう

かかりつけ薬局・薬剤師をもちましょう。お薬と健康については、お気軽にかかりつけ薬局・薬剤師にご相談下さい。

主催：沖縄県・那覇市・沖縄県薬剤師会

お問い合わせ：沖縄県保健医療部薬務疾病対策課 ☎098-866-2215　那覇市健康部保健所生活衛生課 ☎098-853-7963　沖縄県薬剤師会事務局 ☎098-963-8930

「薬と健康の週間」（10月17日～ 23日）関連記事

平成27年10月18日(日) 琉球新報・沖縄タイムス

転載記事

11月29日(日) 朝刊　　読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞、産経新聞、毎日新聞、東京新聞

広告

医療と介護の2025年問題克服のために

山本　2025年には団塊の世代が75歳以上となり、急激に高齢化が進むことになります。そのため、都市部においては2010年比較で高齢者がほぼ2倍になる地域もあるなど、地域医療の対策が喫緊の課題となっております。そこで本日は、高齢化社会を迎える中で、薬局、薬剤師が担う役割について意見交換をしたいと思います。

厚生労働省では、2025年までに「地域包括ケアシステム」を整備し、高齢化社会に備える取り組みを進めておられますが。

塩崎　地域包括ケアシステムは、地域で暮らしながら医療と介護を一貫して受けられる体制を本格的に作るという考えに立って、整備が進められています。このシステムでは、要介護状態となっても、慣れ親しんだ地域で、人生の最後まで自分らしく住み続けられるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援それぞれのサービスが一体的に受けられることを目指しています。

地域包括ケアシステムと薬剤師

山本　地域包括ケアシステムの中での薬局、薬剤師が担う役割とはどのようにお考えでしょうか?

塩崎　地域包括ケアシステムが機能して、地域の皆さんが納得できる暮らしを続けられるようにするためには、地域の中で医療や福祉に関わるいろいろな職種の方が協力し合わなければなりません。その中で薬剤師は、処方箋を受け付けた際に疑問点などを医師に確認するとともに薬の専門家としての立場から監査する、患者さんが薬を飲み残していないか確かめる、患者さんの相談に乗るなどして、地域の医療体制を支えることになります。そしてここで大切なことは、これらを通じて一元的・継続的に一人ひとりの服薬情報を管理していただくことだと思います。

「かかりつけ薬局」の推進に向けて

山本　今のお話は、地域包括ケアシステムという国全体の大きなビジョンの中で、薬局、薬剤師の役割がますます高まってくるということだと思います。

さて、昭和49年にスタートした医薬分業がほぼ7割まで進み、数字の上では一定の水準に達しましたが、薬局の質や費用対効果について議論も起こっています。現在の薬局、薬剤師の課題とは何であるとお考えでしょうか。

塩崎　政府の規制改革会議では、医療機関の周辺にいわゆる「門前薬局」が乱立し、患者さんの服薬情報の一元的・継続的な把握が必ずしもできていないのではないか、効果的な「患者本位の医薬分業」が行われていないのではないかという議論がありました。これが当面の大きな課題でしょう。しかし、この指摘を逆の視点から見ると、本来の医薬分業の精神をしっかりと行動に移してほしいという、期待の表れとも受け取れます。

山本　国民の皆さんの期待を真摯に受け止め、役割をきちんと果たしていきたいと思います。厚生労働省では今年10月に「患者のための薬局ビジョン」をまとめ、現在の薬局を「かかりつけ薬局」に再編し、より一層地域の

患者さんのための「薬局ビジョン」とは?

医療と介護の2025年問題とその克服のために

皆さんの健康増進のお手伝いをするという方向性を示しました。これはまさに、私たちが考えてきた今後の薬局、薬剤師の姿と重なるものだと感じました。

塩崎　私の薬局、薬剤師像として、医薬分業への理解の原点となった体験をお話しします。高校時代のことですが、米国に1年間留学しました。当時私にはアトピー性皮膚炎の持病があり、留学途中で悪化してしまいました。クリニックを受診すると、医師は簡単な処置と処方箋を発行してくれました。その処方箋を当時住んでいた地域の薬局に持って行ったところ、塗り薬を渡されるとともに、的確なアドバイスもしてくれて、たちどころに良くなりました。その後も幸い皮膚炎の再発はありませんが、医師と地域の薬局との連携ですばらしい医療が受けられたという体験が、現在、私が推進しようとする薬局、薬剤師像のイメージにつながっています。

「患者のための薬局ビジョン」では、薬剤師に地域包括ケアシステムの重要な一翼を担っていただくため、患者さんの医療機関や服用薬の一元的・継続的な管理、「かかりつけ薬局ネットワーク」による24時間365日の対応、医療機関との連携を三本柱とし、現在の薬局を「かかりつけ薬局」に再編していく道筋がつけられたと思います。私の具体的なイメージは、患者さんを薬局で待つというこれまでの姿から、白衣を着て地域を飛び回るという新しい薬剤師に変身し、薬や医療の専門家として地域で身近な健康の相談相手になっていただくものです。

患者本位の医薬分業の実現に向けて

山本　現在、医薬分業が進んだ結果、業務が調剤にかたよってしまった薬局も見られます。医薬品の一元的管理を実現するためには、調剤だけではなく一般用医薬品も含めた医薬品すべてを管理することが大切だと思います。さらに、介護に必要になる衛生材料や医療材料などとも提供できることが、地域の薬局としての役割になると考えています。

塩崎大臣は、薬局という施設を拠点とした薬剤師の活動をどのようにお考えでしょうか。

塩崎　平成28年度から、「健康サポート薬局」の表示が可能になります。これは、「かかりつけ薬局」の基本的な機能に加えて、地域住民の主体的な健康維持や増進について積極的に支援する薬局という位置づけです。つまり、セルフメディケーションの相談相手として、医療用や一般用の医薬品に加えて、サプリメントや健康食品について、アドバイスできる薬剤師が求められます。地域の中で信頼を得るためにも、丁寧な対応をお願いしたいですね。

先日ベルリンで開かれた保健大臣会合では、薬剤耐性菌の問題が議題になりました。耐性菌は患者さんが「よくなった」と自己判断して、薬を決められた日数服用しないことによっても発生します。このような場面でも、薬剤師による適切な服薬指導が一層期待されます。

山本　調剤から一般用医薬品までの一元的管理を目指して、薬剤師が薬剤師としての気概を持って地域を飛び回り、相談しやすい環境を作り、地域の皆様から信頼を得ていくというのがこれからの薬局、薬剤師のあり方だと改めて認識しました。今後は、国民の皆さんからのご期待に応えられるよう、いち早くこうした体制作りに邁進してまいりたいと考えています。

本日はありがとうございました。

日本薬剤師会会長

山本信夫

1973年　東京薬科大学卒業
2005年　厚生労働省 中央社会保険医療協議会委員
2006年　アジア薬剤師会連合（FAPA）副会長
2007年　厚生労働省 社会保障審議会臨時委員（医療保険部会／医療部会）
　　FIP西太平洋地域薬学フォーラム運営委員会委員
2009年　厚生労働省 チーム医療の推進に関する検討会委員
2014年　厚生労働省 医道審議会委員／国際薬剤師・薬学連合（FIP）副会長
2014年　公益社団法人日本薬剤師会会長（第25代）

厚生労働大臣

塩崎恭久

1975年　東京大学教養学部卒業
1982年　米ハーバード大学行政学大学院修了
1993年　衆議院議員初当選。
　　その後大蔵政務次官、外務副大臣を経て
2006年　第一次安倍内閣にて内閣官房長官拉致問題担当大臣
2014年　第二次第三次安倍内閣にて厚生労働大臣

日本薬剤師会 Japan Pharmaceutical Association　〒160-8389 東京都新宿区四谷3-3-1 富士・国保連ビル7F　http://www.nichiyaku.or.jp

転載記事

論壇

かかりつけ薬剤師 重要

医療や健康の相談に利用を

川満　直紀

皆さんは「かかりつけ医」を知っていますか？　日常的な医療や健康管理などを行ってくれる身近なお医者さんのことを「かかりつけ医」と呼んでいます。それでは、「かかりつけ薬剤師」についてはどうでしょうか？　あまり聞き慣れない言葉です。「かかりつけ薬剤師」とは、患者それぞれの日常生活においての健康管理や、服用しているお薬を一括して管理してくれる薬剤師のことです。

現在、医療用医薬品（医師が処方できる薬）は薬1万9千種、OTC（一般で買える薬）は約1万1千種、合計3万種もあります。医薬分業が始まり、医師と薬剤師の役割を分けることで不適切薬を排除、過剰投与などを抑制、二重チェックなどの実施で、薬物治療が社会と個人にとってより有益になるような仕組みができました。ただ、万全を期すためにはもうひと工夫が必要です。

例えば、皮膚科で薬を処方された患者さんが、風邪・鼻炎症状が現れ、内科・耳鼻科を受診したとき、同成分の薬を処方されたり、同系統のアレルギー薬を処方されることがあります。医師も薬剤師も併用薬をチェックしますが、異なる病院・クリニックから処方された薬を別々の薬局でもらうことでチェックができず過剰投与になって好ましくない症状が現れることがあります。逆に、作用が減弱してしまう併用もあります。最近は、ジェネリック薬が普及し、これは同成分でも会社によって商品名が違うため、患者さん自身が違う薬と判断してしまうこともあるので注意が必要です。

現在はお薬手帳の普及が進み、手帳を持っている患者さんは、薬局でチェックすることによりこのような重複は少なくなってきています。このほかにお薬と飲食物との併用にも気を付ける必要があり、患者さんの生活習慣についての情報も必要となります。

かかりつけの薬剤師や薬局を持っていると、処方箋をもらった場合、飲み方（服薬指導）を教えることができ、このお薬とともに病気や健康相談もスムーズにできると思います。特に、薬の飲み方などは患者さんの生活習慣、体質、薬の服用歴を踏まえ、患者さんそれぞれに飲み方の注意点を話しますので、非常に安心です。医療や健康のアドバイザー、そして良き相談相手として薬剤師を上手に利用してください。皆さんが薬だけでなく、サプリメントや健康管理などを気軽に相談できる「かかりつけ薬剤師」を持つことをお勧めします。（那覇市、県薬剤師会常務理事　43歳）

2015・10・16　沖縄タイムス

転載記事

2015年10月18日

論壇

薬局の新たな取り組み
在宅医療推進を支援

荒井 千春

日本の医療制度では、これまで病気になったら入院することが当たり前でした。しかし、超少子高齢社会の到来を目前に、刻々と変わっていく社会や環境に対して、国は在宅医療を推進していく方針をはっきりと示しました。また、高齢者以外でも、がん患者さんのための緩和ケア、人工呼吸器や気管切開など重度の障がいを持つ子供たちなどに対しても在宅医療を重視した制度に変わってきています。在宅医療の推進に伴い、病気を抱える患者さんやご家族は、住み慣れた街や自宅で、生き生きと自分らしい生活を続けることが可能になってきています。

県内の薬局でも、新たな取り組みとして在宅医療にかかわる薬剤師が増えています。患者さんのご自宅において安心した医療サービスを提供するために、薬局で薬を調剤し、お渡しするだけでなく、ご自宅を訪問して患者さんの病状や生活スタイルに合わせた薬の飲み方、保管方法などを説明しています。

例えば、身体が不自由で薬局に薬を取りに行くことができない、薬の管理ができない、飲み間違えたり飲み忘れてしまうと訴える患者さんも多く存在します。このような相談に応じるほか、飲みづらく時間がかかる、何に効く薬かわからない、たくさんの種類を飲んでも大丈夫か、体調の変化が起きたのは薬のせいか、錠剤をつぶして飲んでも大丈夫か―など、薬に関するさまざまな不安や疑問・相談にお答えしています。

さらに、場合によっては医師、看護師、介護支援専門員らとも連携を図り、薬の専門家として、より安全かつ安心できる在宅医療のお手伝いをしています。

在宅医療においては、病状により食事を取ることができない患者さんに高カロリー輸液で栄養管理をする場合や、がんなどによる痛みを和らげるために痛み止めの注射薬を使う場合などがあります。国は、このような患者さんのために新たな取り組みとして、薬局に注射薬調製のための設備（クリーンベンチ）設置を推進しています。県内でも、すでに7カ所の薬局が設置し、患者さんの要望に応えられる体制を整えつつあります。

県薬剤師会のホームページでは、在宅医療をお手伝いできる薬局の一覧を地区別に掲載しています（在宅医療支援薬局）。最も身近な医療施設である薬局に気軽に立ち寄って、薬剤師に薬のことはもちろん、ご自宅の衛生管理や介護用品などについても相談していただきたいと思います。

（県薬剤師会理事、57歳）

転載記事

平成27年10月23日(金)

栄養摂取 筋力低下を予防

吉田院長が講演

サプリ・漢方 効果的

吉田貞夫医師

「薬と健康の週間」にちなみ、医薬品の正しい知識をテーマにした講演会が22日、パレット市民劇場であり、167人が日ごろの健康づくりや予防法など、専門家のアドバイスを熱心に聞き入った。県、那覇市、県薬剤師会の主催。

高齢者の低栄養ケアが専門の沖縄メディカル病院あがりはまクリニックの吉田貞夫院長が特別講演。

高齢者に多く見られる、筋肉が減る「サルコペニア」と、運動能力が低下する「フレイルティ」の状態に低栄養や生活習慣病が深く関わっていると指摘。「転倒しやすくなると、骨折や寝たきりにつながり、認知症発症リスクも高まる」と警鐘を鳴らした。

予防にはビタミンDやタンパク質、アミノ酸などの栄養素が有効とし、食品だけでなくサプリメントや漢方薬なども効果的とアドバイス。「『年だから弱って当たり前』と思わずに、栄養士や薬剤師を活用して日ごろから栄養を工夫してほしい」と強調した。

ロビーでは薬剤師による無料の健康相談会も開かれ、「お薬手帳」などを持参した来場者が足を運んだ。

平成27年10月21日(水)
琉球新報

講演会、無料相談会への来場を呼び掛ける県薬剤師会の宮城敦子・広報担当理事（右）と大城喜仁係長＝14日、琉球新報社

薬と健康考える あす無料講演会

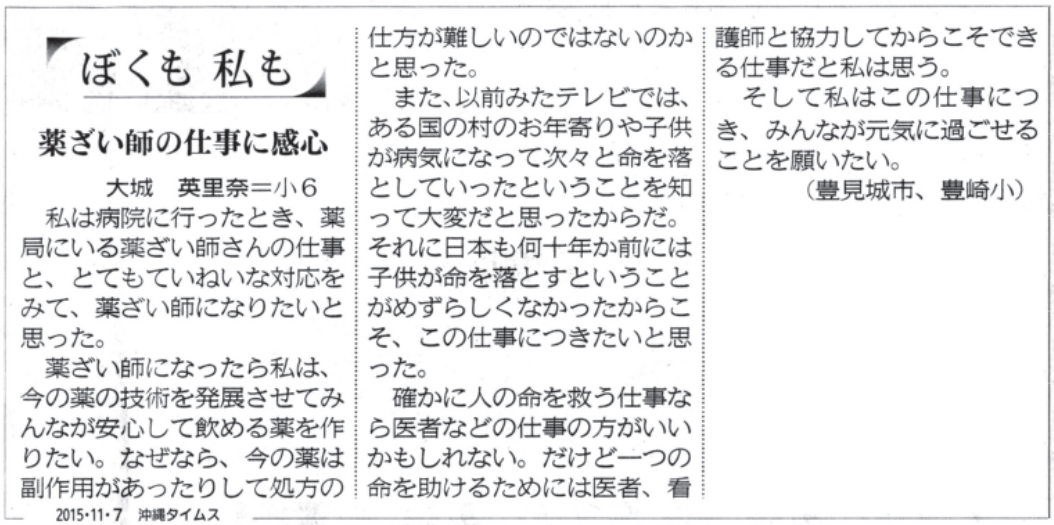
県薬剤師会など、相談会も

県と那覇市、県薬剤師会は22日、くすりと健康フェア「心身ともに健康」を那覇市のパレット市民劇場で開催する。沖縄メディカル病院あがりはまクリニック院長で、高齢者の在宅ケアなどに関わる吉田貞夫氏が午後7～8時半、演題「高齢者のための栄養の工夫」で講演する（手話通訳あり）。同4時半～6時半に劇場ロビーで「お薬と健康相談会」も開催し、薬剤師が薬に関する相談に応じる。講演会、相談会はともに無料。

県薬剤師会の宮城敦子広報担当理事と大城喜仁係長が14日、琉球新報社を訪れ「薬に関する疑問などを気軽に相談してほしい。かかりつけの薬局を紹介する場にもしたい」と呼び掛けた。問い合わせは事務局☎098(963)8930。

転載記事

平成27年11月7日(土)　沖縄タイムス



ぼくも 私も

薬ざい師の仕事に感心

大城　英里奈＝小6

私は病院に行ったとき、薬局にいる薬ざい師さんの仕事と、とてもていねいな対応をみて、薬ざい師になりたいと思った。

薬ざい師になったら私は、今の薬の技術を発展させてみんなが安心して飲める薬を作りたい。なぜなら、今の薬は副作用があったりして処方の仕方が難しいのではないのかと思った。

また、以前みたテレビでは、ある国の村のお年寄りや子供が病気になって次々と命を落としていったということを知って大変だと思ったからだ。それに日本も何十年か前には子供が命を落とすということがめずらしくなかったからこそ、この仕事につきたいと思った。

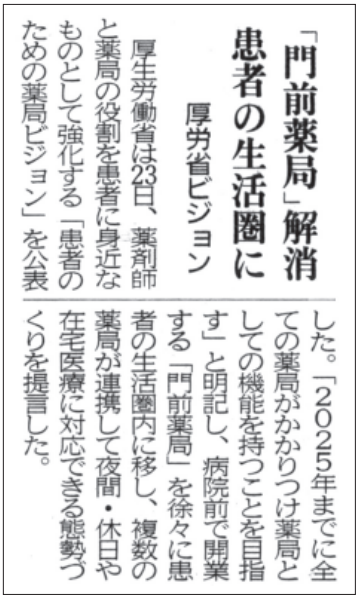
確かに人の命を救う仕事なら医者などの仕事の方がいいかもしれない。だけど一つの命を助けるためには医者、看護師と協力してからこそできる仕事だと私は思う。

そして私はこの仕事につき、みんなが元気に過ごせることを願いたい。

（豊見城市、豊崎小）

2015・11・7　沖縄タイムス

平成27年10月24日(土)
沖縄タイムス



「門前薬局」解消
患者の生活圏に
厚労省ビジョン

厚生労働省は23日、薬剤師と薬局の役割を患者に身近なものとして強化する「患者のための薬局ビジョン」を公表した。「2025年までに全ての薬局がかかりつけ薬局としての機能を持つことを目指す」と明記し、病院前で開業する「門前薬局」を徐々に患者の生活圏内に移し、複数の薬局が連携して夜間・休日や在宅医療に対応できる態勢づくりを提言した。

平成27年10月25日(日)
琉球新報

薬局、身近な場所に
厚労省「かかりつけ」強化

厚生労働省は23日、薬剤師と薬局の役割を患者に身近なものとして強化する「患者のための薬局ビジョン」を公表した。「2025年までに全ての薬局がかかりつけ薬局としての機能を持つことを目指す」と明記し、病院前で開業する「門前薬局」を徐々に患者の生活圏内に移し、複数の薬局が連携して夜間・休日や在宅医療に対応できる態勢づくりを提言した。

患者が薬を飲み残したり、薬を重複して受け取ったりする無駄を防ぐため、携帯電話やスマートフォンを活用した「電子版お薬手帳」の普及も掲げた。かかりつけ薬局が情報通信技術（ICT）を活用し、患者の過去の服薬履歴や全医療機関の薬の処方情報を把握できるようにする。紙の手帳よりも患者が持ち歩きやすい利点がある。

かかりつけ薬局は個人のライフスタイルにより職場の近くなどでも選べる。高齢者や生活習慣病の人、妊婦、乳幼児は服薬歴を管理する必要性が高いため、かかりつけ薬局が「特に重要」とした。

政府の経済財政諮問会議では5月、民間議員が「薬局が多すぎる」として数を減らすよう指摘したが、厚労省は今回のビジョンで薬局数の削減には触れなかった。

年間目次

おきなわ薬剤師会報 平成27年もくじ

通巻274号～ 279号

		No.(号)	発行月号	頁
表紙掲載会員作品				
写真「カナディアン・ロッキー」	成川玲子	274	1・2	表紙
写真「朝焼けのマッターホルン」	上原智佐子	275	3・4	表紙
写真「M31 アンドロメダ星雲」	西坂　順	276	5・6	表紙
写真「Central Apotheke」	アッセンハイマー慶子	277	7・8	表紙
写真「Farmacia All'insegna del Moro」	前濱朋子	278	9・10	表紙
写真「ドイツ・ケルンの薬局」	宮城敦子	279	11・12	表紙
年頭挨拶				
新年の挨拶	神村武之	274	1・2	2
新年ご挨拶	山本信夫	274	1・2	4
新年のあいさつ	仲本朝久	274	1・2	6
年頭にあたって	藤井基之	274	1・2	7
新年のご挨拶	松本　純	274	1・2	8
日本の医療のあり方を考える政策に取り組んで行きます！	とかしきなおみ	274	1・2	10
新年のご挨拶	國場幸之助	274	1・2	12
新年のご挨拶	宮﨑政久	274	1・2	13
新年を迎えて	比嘉奈津美	274	1・2	14
年頭にあたり	西銘恒三郎	274	1・2	15
新年のご挨拶	島尻安伊子	274	1・2	16
祝賀会				
平成26年度薬事功労受賞者合同祝賀会開催	大城喜仁	274	1・2	18
‥‥合同祝賀会スナップ写真		274	1・2	20
‥‥受賞者プロフィール		274	1・2	22
表 彰				
平成27年度那覇市制功労者表彰（被表彰者：西登貴世先生）		276	5・6	4
日本薬剤師会有功賞受賞		277	7・8	1
（嘉陽美津子先生、今井忠子先生、大城清吉先生、桜川浩太郎先生）				
秋の叙勲 瑞宝双光章（浜元朝孝先生）		279	11・12	1
学校保健および学校安全文部科学大臣表彰（佐久間長昭先生）		279	11・12	1
平成27年度沖縄県薬事功労者知事表彰（外間惟夫先生、川満正啓先生）		279	11・12	2
優良公衆衛生事業功労者：沖縄県公衆衛生大会長表彰（佐次田正先生）		279	11・12	3
沖縄県薬物乱用対策推進地方本部長表彰（玉寄睦子先生）		279	11・12	3

巻頭言

躍動する北部地区	浅沼健一	278	9・10	2
在宅医療支援薬局の普及	荒井千春	279	11・12	4

新旧会長挨拶

退任の挨拶	神村武之	277	7・8	2
会長就任挨拶	亀谷浩昌	277	7・8	3

新役員紹介

新理事・新監事		277	7・8	4

沖縄学術大会

第29回沖縄県薬剤師会学術大会報告	川平浩子	279	11・12	6
第29回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム		279	11・12	8
第29回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会報告	大城喜仁	279	11・12	14
第29回沖縄県薬剤師会学術大会会員発表審査報告	姫野耕一・吉冨弓江	279	11・12	15
第29回沖縄県薬剤師会学術大会奨励賞受賞講演要旨		279	11・12	16

薬と健康の週間

薬祖祭・街頭キャンペーン		279	11・12	18
くすりと健康フェア（県民公開講演会）	笠原大吾	279	11・12	20
平成27年度「薬と健康の週間」行事表		279	11・12	22

総 会

第71回臨時総会開催	大城喜仁	275	3・4	2
総会資料　平成27年度事業計画および平成27年度収支予算		275	3・4	5
第71回臨時総会における議案事項		275	3・4	17
第72回通常総会開催	大城喜仁	277	7・8	7
第72回通常総会会長挨拶	神村武之	277	7・8	8
第72回通常総会懇親会	大城喜仁	277	7・8	12
第72回通常総会資料　平成26年度会員・薬局等の業態現況報告		277	7・8	13
平成26年度事業経過報告および平成26年度決算		277	7・8	14
第72回通常総会議案審議および質疑応答の概要		277	7・8	31

意見交換会

平成26年度FAXコーナー担当者意見交換会報告	池間記世	275	3・4	31
FAXコーナー担当者へのアンケートの回答		275	3・4	32
FAXコーナー担当者意見交換会参加印象記＆各FAXコーナー連絡先	各FAXコーナー担当者	275	3・4	36

会務ハイライト

平成26年度第1回日薬九州ブロック会議開催される	田場英治	275	3・4	19
平成26年度第2回地区薬剤師会会長会議報告	田場英治	275	3・4	22
ハイリスク薬の薬学的管理講習会報告	名嘉紀勝	276	5・6	2
第1回「薬剤師のための症例検討入門」研修会開催報告	潮平英郎	277	7・8	40
アッセンハイマー慶子氏 講演会＆情報交換会報告	伊差川サヤカ	277	7・8	42
平成27年調剤報酬請求業務講習会報告	照屋林一郎	278	9・10	4
第8回熟年の集い報告	石川恵市	278	9・10	6
平成27年度第1回地区薬剤師会会長会議報告	山城英人	279	11・12	23

研修会

平成26年度医療安全講習会報告	吉冨弓江	274	1・2	27
医薬分業対策委員会主催研修会報告	西川　裕	274	1・2	30
医薬分業対策委員会主催研修会SGD参加印象記	安次富唯	274	1・2	32
高度管理医療機器継続研修会報告	村田成夫	274	1・2	33
管理薬剤師業務講習会開催される	宮城幸枝	275	3・4	24
第5回在宅医療に関する講習会報告	赤木宗範	275	3・4	26
平成26年度自殺予防対策事業ゲートキーパー養成研修会開催	村田美智子	275	3・4	28
自殺予防対策事業ゲートキーパー養成研修会に参加して	上山達矢	275	3・4	29
第176回全国禁煙アドバイザー育成講習会in沖縄	我喜屋美香	276	5・6	5
平成27年度新任・新人薬剤師研修会報告	村田美智子	277	7・8	50
第2回「薬剤師のための症例検討入門」研修会報告	中尾滋久	278	9・10	9
第3回薬剤師のための症例検討入門研修会参加報告	古謝さなえ	279	11・12	24
第1回薬剤師のための在宅医療教育セミナー報告	久手堅奈央	279	11・12	26

なごみ会

なごみ会主催第5回県民健康フェア2015報告	笠原大吾	278	9・10	12
なごみ会主催県民健康フェア ～薬剤師会ブースにおける児童向け調剤模擬体験コーナーの印象記～	神谷朝斗志	278	9・10	15

実務実習

平成27年度Ⅰ期薬学生実務実習報告	我喜屋美香	277	7・8	45
実務実習薬学生平成27年度Ⅰ期生からの体験記・感想 山里和代、出口仁、嘉数達紀、又吉辰磨、大宜見真希 仲宗根輝、盛根彩香、大橋あゆみ、山本要		277	7・8	46
公開「認定実務実習指導薬剤師」講習会		277	7・8	49
平成27年度Ⅱ期薬学生実務実習報告	我喜屋美香	279	11・12	27
実務実習薬学生 平成27年度Ⅱ期生からの体験記・感想 島袋滉也、仲俣桃華、宮平邦子、平良美沙登、粟國朝陽、運天雅 金城秀明、上地美穂、塚本真依、國吉佳央梨、新屋沙織		279	11・12	28

啓蒙・普及活動

Uターン・Iターン就職希望薬学部生との相談会報告	川満直紀	274	1・2	35
北海道医療大学における学内合同就職相談会への参加報告	牧野唯右	274	1・2	36
薬局等における「お薬手帳活用促進DVD」での県民向け広報について	宮城敦子	274	1・2	37
「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 6.26ヤング街頭キャンペーン		277	7・8	54
薬剤師職能の啓蒙活動について				
「しごとミュージアム」「グッジョブ・サマースクール」	大城喜仁	277	7・8	55
子どもたちに伝える薬剤師の魅力	高里彰吾	278	9・10	26
「グッジョブ☆にしはら わくわくワーク」における				
薬剤師職能の啓蒙活動について	伊差川サヤカ	279	11・12	42
この日が来るのを、楽しみに待っていました！	儀間千恵	279	11・12	44
くらしのサポート講座開催のご報告	原田直美	279	11・12	46

部会だより

時代とともに求められる役割～青年部会主催講演会報告～	玉城武範	274	1・2	40
平成26年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会	座波祥子	274	1・2	42
第12回日本女性薬剤師会移動セミナー参加報告	与儀和子	274	1・2	44
青年部会主催 在沖米国軍基地内新海軍病院見学ツアーに参加して	森下彰久	275	3・4	41
平成26年度薬剤師継続学習通信教育講座スクーリング報告				
	村田美智子、當真房子、廣川直子、高嶺絵里、仲村喜久子	275	3・4	46
第14回沖縄県健康教育研究大会参加報告	大城恭子	275	3・4	53
第14回沖縄県健康教育研究大会後のアンケート結果をうけて	上原卓朗	275	3・4	54
平成26年度日本医薬品卸勤務薬剤師会フォーラム参加報告	城村幹彦	275	3・4	58
平成26年度日本医薬品卸勤務薬剤師会沖縄県支部研修会報告	森下彰久	275	3・4	59
女性薬剤師部会主催 第15回漢方講座報告	與儀明美	276	5・6	6
平成27年度学校薬剤師新任研修会報告	佐次田頌	276	5・6	8
学校薬剤師新任研修会へ参加して	上里美也子	276	5・6	9
平成27年度日本医薬品卸勤務薬剤師会「研修会」参加報告	城村幹彦	276	5・6	10
平成27年度（第43回）沖縄県学校薬剤師部会総会・講演会報告	前濱朋子	277	7・8	58
沖縄県学校薬剤師部会総会講演会報告	新垣慶朗・川満裕次郎	277	7・8	59
第44回沖縄県病院薬剤師会通常総会報告	外間惟夫	277	7・8	61
平成27年度日本医薬品卸勤務薬剤師会沖縄県支部会報告	森下彰久	277	7・8	66
青年部会第10回通常総会報告	小湾喜彦	277	7・8	67
女性薬剤師部会総会講演会報告	与儀和子	278	9・10	16
2015年日本女性薬剤師会学術講演会参加報告	村田美智子	278	9・10	18
日本薬剤師会学校環境衛生検査技術講習会に参加して	知名博樹	278	9・10	19
平成27年度日本薬剤師会学校薬剤師部会くすり教育研修会報告	村田成夫	278	9・10	20
平成27年度学校薬剤師研修会に出席して	高尾勝子	278	9・10	24
平成27年度女性薬剤師部会通常総会報告	草壁瑞恵	279	11・12	32
日本女性薬剤師会 第13回移動セミナー in 京都	与儀和子・草壁瑞恵	279	11・12	34
第16回女性薬剤師部会主催漢方講座報告	喜納みゆき・小野加那恵	279	11・12	36

地区だより

平成27年度宮古地区薬剤師会総会報告	前里由紀子	276	5・6	12
平成27年度八重山地区薬剤師会総会報告	山城　専	276	5・6	13
一般社団法人那覇地区薬剤師会第2回通常総会	那覇地区薬剤師会事務局	277	7・8	68
第13回北部地区薬剤師会定時総会報告	北部地区薬剤師会事務局	277	7・8	69
平成26年度中部地区薬剤師会総会報告	佐藤雅美	277	7・8	70
在宅医療推進のための地域における他職種連携研修会	新垣秀幸	278	9・10	35

研修レポート

第52回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin九州・福岡報告				
	普久原隆・西坂順・親川智史・長谷川幸司・宮本直樹	278	9・10	27

会議レポート

平成27年度一般用医薬品等担当者全国会議参加報告	盛本直也	278	9・10	32

その他会務報告

沖縄県医師会・沖縄県薬剤師会				
おきなわ津梁ネットワークを活用した医療連携に関する協定調印式	吉田洋史	277	7・8	52
沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊	大城喜仁	277	7・8	53
戦後70年沖縄全戦没者追悼式に参列	亀谷浩昌	277	7・8	54

月例相談会

第120回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会）	盛本直也	275	3・4	61
第121回健康とおくすり相談会報告（中部地区薬剤師会	石井秀典	276	5・6	14
第122回健康とおくすり相談会報告（担当：那覇地区薬剤師会）	鈴木一徳	277	7・8	72
第123回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会）	照屋勇人	278	9・10	34
第124回健康とおくすり相談会報告（南部地区薬剤師会）	新垣秀幸	278	9・10	35
第125回健康とおくすり相談会報告（南部地区薬剤師会）	新垣秀幸	279	11・12	38
第126回健康とおくすり相談会報告（宮古地区薬剤師会）	下地睦夫	279	11・12	39
第127回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会）	吉田洋史	279	11・12	40

寄　稿

久米島での産業まつり健康プロジェクトに参加して	齊藤基道	274	1・2	46
医療通訳ボランティア養成講座の医療講義にご協力いただいて	葛　孝行	277	7・8	74

投　稿

第38回沖縄県小児糖尿病サマーキャンプ「ハッピーサマークラブ」				
にボランティア参加してみませんか？	砂川智子	276	5・6	33
広げよう「ブルーサークル」11月14日：世界糖尿病デー	田﨑　仁	277	7・8	75
沖縄県小児糖尿病サマーキャンプに参加して	古謝さなえ	278	9・10	36
「うちなぁ がん薬ー薬連携の会」をご存じですか？	神元繁守	279	11・12	57

新入会員

平成26年度沖縄県薬剤師会新入会員（平成26年10月～平成27年3月末日入会分）		275	3・4	62
平成27年度沖縄県薬剤師会新入会員（平成27年4月～平成27年9月末日入会分）		278	9・10	37

薬業連合会

平成27年第60回沖縄県薬業連合会理事会・総会及び懇親会報告	稲福文隆	277	7・8	73

DI

薬事情報おきなわ No231	薬事情報センター	274	1・2	47
薬事情報おきなわ No232	薬事情報センター	275	3・4	63
薬事情報おきなわ No233	薬事情報センター	276	5・6	17
薬事情報おきなわ No234	薬事情報センター	277	7・8	81
薬事情報おきなわ No235	薬事情報センター	278	9・10	39
薬事情報おきなわ No236	薬事情報センター	279	11・12	47

薬学の歴史

第37回 薬剤研究		274	1・2	58
第38回 成熟期を迎えた製薬産業		274	1・2	59
第39回 抗生物質の時代		275	3・4	76
第40回 薬学の今日と未来		275	3・4	77

薬草学

身近な薬草を知ろう 第18回タチアワユキセンダングサ	狩俣イソ	274	1・2	60
身近な薬草を知ろう 第19回ウイキョウ	狩俣イソ	275	3・4	78
身近な薬草を知ろう 第20回カンダバー：サツマイモ葉	狩俣イソ	276	5・6	30
身近な薬草を知ろう 第21回ハママーチ（リュウキュウヨモギ）	狩俣イソ	277	7・8	96
身近な薬草を知ろう 第22回オオタニワタリ	狩俣イソ	278	9・10	52
身近な薬草を知ろう 第23回ヒハツモドキ	狩俣イソ	279	11・12	58

Spot Light

佐久間長昭先生～八重山の医薬分業と地区の活性のために～	前濱朋子	275	3・4	80
大浜貴子先生～八重山美人が語る				
「流れにのる自然な生き方、頑張らない生き方」～	宮城敦子	275	3・4	82
上原繁猛先生～偶然の出会いをチャンスに変えていく信念の男！～	池間記世	277	7・8	98

アナザーフェイス

エクラな女性薬剤師‥‥武内尚子氏	宮城敦子	278	9・10	54

薬局訪問

はいさい！　ミドリ薬局 美里店	石川恵市	274	1・2	62

施設訪問

株式会社 琉薬	鈴木一徳	278	9・10	56

リレー随筆

Pharmacy in New York!	鈴木　毅	274	1・2	64
「妹」の話し	古波蔵直子	275	3・4	84
道産子ダイバー	吉冨弓江	276	5・6	32
趣味遍歴	玉城　純	277	7・8	100
子育て奮闘中	玉村澄恵	278	9・10	58
旅行って素敵!!（その1）	廣川直子	279	11・12	60

卒煙物語

その50 何歳でも卒煙は願う	え ん こ	274	1・2	66
その51 良い波及	え ん こ	275	3・4	75
その52 気心知れた仲間	え ん こ	276	5・6	34
その53 19.9%という数字	え ん こ	277	7・8	101
その54 家族	え ん こ	278	9・10	59

薬連だより

国会レポート～第三次安倍内閣スタート～	藤井もとゆき	274	1・2	67
平成26年度日薬連盟九州ブロック協議会	姫野耕一	275	3・4	86
国会レポート～医療保険制度改革と医療法人制度の見直しについて～	藤井基之	275	3・4	89
国会レポート～「医薬分業」公開ディスカッション～	藤井基之	275	3・4	90
国会レポート～薬剤師の育成と薬学教育～	藤井基之	276	5・6	35
平成27年度沖縄県薬剤師連盟評議員会報告	山城英人	277	7・8	107
沖縄県薬剤師連盟 若手薬剤師フォーラム開催	石川恵市	277	7・8	108
若手薬剤師フォーラムに参加して	盛本直也	277	7・8	109
国会レポート～スイッチOTCの促進とセルフメディケーション～	藤井基之	277	7・8	110
国会レポート～骨太方針2015 ～	藤井基之	277	7・8	111
沖縄県薬剤師連盟全体会議ならびに全国藤井もとゆき薬剤師後援会活動報告会	城村幹彦	278	9・10	60
全国薬剤師フォーラム2015参加報告	上原卓朗	278	9・10	62
国会レポート～平成28年度予算概算要求～＆～健康サポート薬局～	藤井もとゆき	278	9・10	64
藤井もとゆき薬剤師後援会活動報告		279	11・12	62
国会レポート「患者のための薬局ビジョン」について	藤井もとゆき	279	11・12	63
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成26年12月～平成27年1月）		274	1・2	97
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成27年2月～ 3月）		275	3・4	103
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成27年4月～ 5月）		276	5・6	65
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成27年6月～ 7月）		277	7・8	106
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成27年8月～ 9月）		278	9・10	77
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成27年10月～ 11月）		279	11・12	86

行事予定

開催日が決定した平成27年度の主な行事		275	3・4	103
開催日が決定した平成27年度の主な行事		276	5・6	4

日薬通達

平成27年2月薬剤師賠償責任保険募集のご案内		274	1・2	68
平成26年度調剤報酬改定等について 疑義解釈（その11）		274	1・2	70

国保・社保通達

平成27年度受付相談・協力日及び受付締切日		274	1・2	71

啓発ポスター

子どもによる医薬品の誤飲事故に注意！	医療安全対策委員会	277	7・8	76
くすりと健康フェア（県民公開講演会）ＰＲポスター・新聞広告		279	11・12	64

告知用チラシ

第5回県民健康フェア2015		278	9・10	72

理事会

平成26年度第6回定例理事会議事概要		274	1・2	74
平成26年度第7回定例理事会議事概要		274	1・2	80
平成26年度第8回定例理事会議事概要		274	1・2	86
平成26年度第9回定例理事会議事概要		275	3・4	91
平成26年度第10回定例理事会議事概要		276	5・6	36
平成26年度第11回定例理事会議事概要		276	5・6	43
平成26年度第12回定例理事会議事概要		276	5・6	53

会務報告

平成26年12月・平成27年1月末日分		274	1・2	93
平成27年2月～3月分		275	3・4	99
平成27年4月～5月分		276	5・6	63
平成27年6月～7月末日分		277	7・8	102
平成27年8月～9月末日分		278	9・10	74
平成27年10月～11月末日分		279	11・12	82

一包一話

“父の詫び状”を聞く。	橋の下	274	1・2	98
“もう一度、国際通り”	橋の下	275	3・4	106
入院学級	橋の下	277	7・8	112
シルバーウィークの小さな旅	橋の下	278	9・10	78
“新老人とは”	橋の下	279	11・12	88

転載記事

薬の正しい使い方学ぶ 津堅中で薬剤師講演		274	1・2	72
会員の亀谷浩昌先生が所属するモアイが紹介されていました		274	1・2	72
連載「戦と、続くヒストリー『0歳だった。』」に会員の島袋徳子氏が紹介されていました		274	1・2	73
薬学生・薬剤師向け情報誌「MIL」に本会神殿が掲載され話題に！		275	3・4	104
沖縄タイムス ワラビー「おしごと発見」に薬剤師職紹介される（モデル：会員の新垣慶朗ご家族）		275	3・4	105
国際医療拠点骨太方針へ「自民沖縄調査会 西普天間跡地で議論」		276	5・6	66
琉大学長、新設を検討（薬学部・獣医学部・醸造学科）		276	5・6	66
県薬剤師会 琉大に薬学部要請へ「創薬の研究者育成を」		276	5・6	67
全薬局「かかりつけ」移行　厚労省検討 医療費抑制狙う		276	5・6	68
おきなわ津梁ネットワーク「患者の負担解消へ」		276	5・6	68
グッジョブ事業として薬剤師職能PR 浦西中でキャリア教育		276	5・6	69
沖縄タイムス「茶のみ話」掲載「孫への読み聞かせ」	狩俣イソ	276	5・6	69
那覇市医師会報「生涯教育コーナー」に笠原大吾氏の「アンチドーピングと薬物治療」が掲載される		276	5・6	70
医師会と薬剤師会 津梁ネットで連携 県内調剤情報一元化図る		277	7・8	91
琉球新報「南風」コーナー執筆陣に吉田洋史理事		277	7・8	92
ウチナー薬草再認識へ「効用伝える薬剤師会の取り組み」	狩俣イソ	277	7・8	94
県小児救急相談「＃8000」に県薬剤師会が支援		277	7・8	95
県薬剤師会長に亀谷氏　技術向上へ研修強化		277	7・8	95
琉球新報こども新聞に薬剤師職が紹介される　取材同行記	池間記世	278	9・10	67
論壇　医薬分業の本質 理解を ダブルチェックで効果的療法	亀谷浩昌	278	9・10	68
琉球新報 連載コーナー「志を継いで」に株式会社琉薬が紹介される		278	9・10	69
琉球新報 連載コーナー「南風」に吉田洋史理事が執筆連載中！		278	9・10	70
その他、本会・本会会員関連記事		278	9・10	71
患者さんのための「薬局ビジョン」とは？　厚労省大臣・日薬会長対談		279	11・12	66
論壇「かかりつけ薬剤師 重要」	川満直紀	279	11・12	68
論壇「在宅医療推進を支援」	荒井千春	279	11・12	69
栄養摂取 筋力低下を予防「くすりと健康フェアで吉田医師が講演」		279	11・12	70
薬ざい師の仕事に感心（小学校6年生投稿）		279	11・12	71
厚労省ビジョン「かかりつけ強化、身近な場所に」		279	11・12	71

会員作品（誌上ギャラリー）

平成26年誌上ギャラリー大賞・優秀作品				
写真「海の中の甘えん坊」（大賞）	吉富弓江	271	7・8	裏表紙
写真「名護湾の夕日」（優秀作品）	神山えり子	273	11・12	裏表紙
写真「ボタン」	平安山春江	275	3・4	裏表紙
写真「食餌3熊」	松山朝雄	275	3・4	裏表紙
写真「八重桜」	吉田久子	275	3・4	裏表紙
写真「ポタラ宮」	屋嘉比康作	276	5・6	裏表紙
写真「フラミンゴの大群」	成川玲子	276	5・6	裏表紙
写真「海の宝石 ウミウシ（海牛）」	吉富弓江	276	5・6	裏表紙

写真「雲海を臨む」　成川玲子　277　7・8　裏表紙
写真「水深15mから振り返った水面」　西坂　順　277　7・8　裏表紙
写真「涼し気なヒカゲヘゴの群生」　亀谷浩昌　277　7・8　裏表紙
写真「九份の小路」　伊差川サヤカ　278　9・10 裏表紙
写真「風に揺られて」　鈴木一徳　278　9・10 裏表紙
写真「ナビィおばぁの家」　笠原大吾　279　11・12 裏表紙
写真「子供たちの声を聞きながら～小児糖尿病キャンプにて～」古謝さなえ　279　11・12 裏表紙

○以下のコーナーについては、ページ等の詳細は省略いたします。

編集後記

県民の皆様へ　あまくま薬立つ情報

お知らせ
平成27年度沖縄県薬事功労受賞者合同祝賀会案内
第4回薬剤師のための症例検討入門研修会開催日程
日本薬剤師会生涯学習支援システム（JPALS）について
地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！
県薬が会員に販売している印刷物等
研修認定薬剤師申請料が改定！
会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について
会報原稿募集のご案内
薬物乱用防止指導員について
研修認定薬剤師申請料について
第29回沖縄県薬剤師会学術大会の演題募集について　学術大会実行委員会
第29回沖縄県薬剤師会学術大会参加案内　学術大会実行委員会
学校薬剤師＆学校薬剤師を希望の会員の皆様へ
九州厚生局沖縄事務所移転について
資格関係誤りレセプト発生防止について(お願い)　社会保険診療報酬支払基金沖縄支部
表紙に掲載の写真「世界の薬局」を大募集！　広報委員会

平成27年10月

1木○ 表彰選考諮問委員会　県薬会議室
○ 糖尿病療養支援実践セミナー第9回コメディカル勉強会　ちばなクリニック　共催：日本イーライリリー(株)
○ 南風原町教育委員会主催「学校応援隊はえばる・キャリア学習会」事前打ち合わせ会議　南風原町立南風原小学校　野崎真敏（南風原小学校学校薬剤師）
○ 平成27年度第2回学術研修委員会　県薬研修室
2金○ 未来の産業人材育成事業における講話　那覇市立首里中学校　講師：吉田典子（DI)、大城係長
○ くすりと健康県民健康フェアPR活動（那覇市自治会）　那覇市首里支所　笠原理事、稲福係長
○ くすりと健康県民健康フェアPR活動（那覇市自治会）　那覇市小禄支所　大城係長
○ パーキンソン病講演会　ホテル日航グランドキャッスル　共催：大塚製薬(株)
○ 日本薬剤師会災害対策委員会　日薬　吉田理事
5月○ 平成27年度第3回広報委員会　県薬研修室　亀谷会長
6火○「薬剤の知識を学ぶ(介護ヘルパー向け講習会)」(講師派遣)　沖縄県男女共同参画センター「てぃるる」　講師：兼城崇氏
○ 平成27年度第8回定例幹事会　県薬会議室
○ 平成27年度第3回地域保健開局委員会　県薬研修室
7水○ 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会　社会保険診療報酬支払基金沖縄支部　亀谷会長
○ くすりと健康県民健康フェアPR活動（那覇市自治会）　那覇市真和志支所　笠原理事、稲福係長
○ くすりと健康県民健康フェアPR活動（那覇市自治会・市営住宅管内）　なは市民協働プラザ　大城係長
8木○ 個別指導　那覇第一地方合同庁舎　吉田理事
○ 管理者会議　県薬研修室
○ 平成27年度くらしのサポート講座（講師派遣）　沖縄県三重城合同庁舎　講師：神谷朝斗志氏
○「薬剤の知識を学ぶ(介護ヘルパー向け講習会)」(講師派遣)　沖縄県男女共同参画センター「てぃるる」　講師：兼城崇氏
○ おきなわ津梁ネットワークに関する説明会　県薬ホール
9金○ くすりと健康県民健康フェアPR活動（那覇市自治会・本庁管内）　なは市民協働プラザ　大城係長
○ 沖縄県・ハワイ姉妹提携30周年記念式典・祝賀会　日本医療薬学会年会　亀谷会長
○ 中部地区脳卒中学術講演会　ラグナガーデンホテル　共催：日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
10土○ 平成27年度第8回定例理事会　県薬研修室
13火○ 中北部循環器懇話会　中部地区医師会館　共催：MSD(株)
14水○ くすりと健康県民健康フェアPR活動　琉球新報社・沖縄タイムス社　宮城常務理事、大城係長
○ 平成27年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会推奨講演会　中部地区医師会館

15木○ 個別指導　県庁　吉田理事
○ 第72回那覇地区薬剤師会臨床講座　県薬研修室
○ 第33回薬タッチャーの会　ちばなクリニック
16金○ 日本薬剤師会「研究倫理に関する担当者全国会議」　日薬　外間副会長、大城係長
○ 心不全学術講演会　豊見城中央病院　共催：大塚製薬(株)
○ 脳卒中医療連携カンファレンス（中部地区）　中部地区医師会館
19月○ **薬祖祭**　波之上本殿
○ 平成27年度第1回沖縄県医療保健連合（なごみ会）幹事会　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　亀谷会長、江夏副会長
○ 沖縄県医療保健連合（なごみ会）懇親会　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　亀谷会長、江夏・前濱各副会長
20火○ 会計監査　県薬会議室　（事務局）金城・前原
○ 薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業に関する会議　県薬会議室　亀谷会長、江夏副会長、笠原理事、中尾滋久氏、比嘉浩一氏、稲福係長
○ 災害対策に関する打合せ会議　県庁　吉田理事、山城課長
21水○ 南風原町教育委員会主催「学校応援隊はえばる・キャリア学習会」　南風原町立南風原小学校　講師：野崎真敏（南風原小学校学校薬剤師）
22木○ 個別指導　県庁　吉田理事
○ **くすりと健康フェア「第125回健康とおくすり相談会」**　パレット市民劇場ロビー　担当：地区薬剤師会南部
○ **くすりと健康フェア「県民公開講演会」**　パレット市民劇場
23金○ 薬学生実務実習（学校薬剤師について）　県薬研修室　講師：笠原理事、知名博樹氏
○ **沖縄県薬事功労者知事表彰式**　県庁　被表彰者2氏：外間惟夫氏、川満正啓氏（代理：川満直紀氏)、亀谷会長、大城係長
○ 関節リウマチ診療地域連携講演会　豊見城中央病院　共催：小野薬品工業(株)
○ 第7回沖縄前立腺癌研究会　ロワジールホテル&スパタワー那覇　共催:アストラゼネカ(株)
25日○ 薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会（第4回）　北里大学薬学部　笠原理事、松本圭五氏（地域保健開局委員会）
○ **第1回薬剤師のための在宅医療教育セミナー**　県薬ホール
26月○ 九州厚生局局長来訪　県薬会長室　亀谷会長
27火○ 九州地方社会保険医療協議会　沖縄県合同庁舎　江夏副会長
28水○ 南風原町立南星中学校主催職場体験学習　会営薬局とよみ　学習指導：松尾はつよ氏、上野邦子氏
○ 未来の産業人材育成事業平成27年度合同会議　沖縄県立博物館講座室　大城恭子氏
○ 第9回那覇・浦添コ・メディカル糖尿病セミナー　大浜第一病院　共催：MSD(株)
○ 臨床薬剤師育成研修会　(株)ダイコー沖縄
29木○ 第3回沖縄県地域医療構想検討会議　県庁　亀谷会長
○ 第七回沖縄CKD-MBD研究会　ザ・ナハテラス　共催：バイエル薬品(株)
○ 北部地区薬剤師会学術研修会（抗菌薬について～基礎から最近の話題まで～）　北部地区薬剤師会館
30金○ 第47回沖縄県公衆衛生大会（表彰式典）　沖縄産業支援センター　被表彰者：佐次田正氏

30金○ 医薬品卸業者誘致のための石垣市長へ陳情　石垣市役所　亀谷会長・山城専氏（八重山地区会長）
○ 第7回沖縄B型肝炎セミナー　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　共催：ブリストル・マイヤーズ(株)
○ 糖尿病学術講演会　沖縄県医師会館　共催：ノボノルディスクファーマ(株)
31土○ 南部地区薬剤師会研修会　(株)アトル

平成27年11月

1日○ **第29回沖縄県薬剤師会学術大会**　県薬
2月○ 沖縄県保健医療部薬務疾病対策課訪問　県庁　亀谷会長、大城係長
4水○ 第7回沖縄県Airway Conference　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　共催：杏林製薬(株)
○ 薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業に関する会議　県薬会議室　江夏副会長、笠原理事、中尾滋久氏、比嘉浩一氏、稲福係長
5木○ 個別指導　沖縄県宮古合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏、川満正啓氏（宮古地区薬剤師会会長）
○ 未来の産業人材育成事業・職業人講話「薬剤師の仕事」 久米島町立美崎小学校　講師：山城晶氏
○ 在宅医療委員会　県薬ホール
6金○ 集団的個別指導　沖縄県宮古合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏、古謝真己氏（宮古地区薬剤師会副会長）
○ 個別指導　沖縄県宮古合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏、川満正啓氏（宮古地区薬剤師会会長）
○ 超高齢化社会2025年問題を見据えて「不整脈のTotal Careを考える」 沖縄県立宮古病院
○ 第6回糖尿病週間学術講演会　ロワジールホテル＆スパタワー那覇　共催：ノボ　ノルディスクファーマ(株)
○ 薬学生実務実習（夜間救急） 会営薬局医療センター前
7土○ 第7回沖縄HIV臨床カンファレンス　沖縄県立中部病院　共催：ヴィーブヘルスケア(株)
○ **第3回薬剤師のための症例検討入門研修会**　県薬ホール　講師：大澤友二先生
8日○ **第126回健康とおくすり相談会**　沖縄県宮古合同庁舎　担当：宮古地区薬剤師会
○ 平成27年度女性薬剤師部会漢方講座　県薬ホール
10火○ 新型インフルエンザ対応に関する訓練　県薬
○ **平成27年秋の叙勲伝達式**　国立劇場大劇場（東京都） 受章者：浜元朝孝氏
○ 平成27年度第9回定例幹事会　県薬会議室
○ 最新の糖尿病治療を考える会 in Okinawa　ザ・ナハテラス　共催：日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
11水○ 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会　社会保険診療報酬支払基金沖縄支部　亀谷会長
○ タバコと肺研究会　沖縄県医師会館　共催：ノバルティスファーマ(株)
○ 沖縄「がん疼痛緩和治療・医療用麻薬」関連研修会(南部地区)　沖縄県立南部医療センター・こども医療センター　共催：大日本住友製薬(株)
12木○ 個別指導　沖縄県八重山合同庁舎　幸地理事

12木○ 第1回精神科薬タッチャーの会　県薬ホール　共催：ファイザー(株)
○ 北部地区薬剤師会学術研修会（オピオイド鎮痛薬の便秘、悪心・嘔吐対策～症状アセスメントと副作用のコントロール～）　北部地区薬剤師会館
13金○ 個別指導　沖縄県八重山合同庁舎　山城専氏（八重山地区薬剤師会会長）
○ 平成27年度第3沖縄県がん診療連携協議会　琉球大学医学部附属病院　亀谷会長
○ 沖縄「がん疼痛治療・医療用麻薬」関連研修会（中部地区）　翔南病院　共催：大日本住友製薬(株)
○ 第17回沖縄COPD研究会　ザ・ナハテラス　共催：日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
○ 第六回：沖縄：代謝病と血管病診療フォーラム　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　共催：バイエル薬品(株)
○ 第6回琉球精神薬理研究会　ホテル日航グランドキャッスル　共催：大塚製薬(株)
○ 平成27年度年金委員・健康保険委員合同研修会（講師派遣）　北部生涯学習推進センター　講師：我喜屋理事
14土○ 平成27年度第9回定例理事会　県薬研修室
15日○ **第127回健康とおくすり相談会**　沖縄セルラーパーク　担当：那覇地区薬剤師会
17火○ 平成27年度年金委員・健康保険委員合同研修会（講師派遣）　北部生涯学習推進センター　講師：我喜屋理事
18水○ 第三回沖縄抗凝固療法フォーラム　沖縄県医師会館　共催：バイエル薬品(株)
19木○ 年末調整等説明会　沖縄コンベンションセンター劇場棟　（事務局）金城・前原・上原
○ 個別指導　那覇第一地方合同庁舎　吉田理事
○ 第4回沖縄県地域医療構想検討会議　県庁　亀谷会長
○ 平成27年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会推奨講演会　中部地区医師会館
○ 平成27年度沖縄県薬剤師会在宅医療支援薬局限定無菌調製の実践講座－TPN・麻薬・抗がん剤－　県薬ホール
○ 第24回沖縄化学療法懇話会　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　共催：大日本住友製薬(株)
20金○ 平成27年度健康おきなわ21推進協議会　ホテルチュラ琉球　前濱副会長
○ 息切れの原因について考える会～呼吸器疾患・循環器疾患を見逃さない為に～　ロワジールホテル&スパタワー那覇　共催：ノバルティスファーマ(株)
21土○ 平成27年度第3回都道府県会長協議会　城山観光ホテル（鹿児島県）　亀谷会長
○ 鹿児島県薬主催歓迎レセプション　城山観光ホテル（鹿児島県）　亀谷会長
○ **第128回健康とおくすり相談会**　うるま市健康福祉センターうるみん　担当：中部地区薬剤師会
22日○ **日本薬剤師会学術大会（23日迄）**　鹿児島市民文化ホール他
24火○ 九州地方社会保険医療協議会　沖縄県合同庁舎　江夏副会長
○ 管理者会議　県薬研修室
○ 会営薬局とよみに関する打ち合わせ　会営薬局とよみ　我喜屋常務理事、田場英治、山城課長、（会営薬局とよみ）島袋陽子・上野邦子
○ 平成27年度年金委員・健康保険委員合同研修会（講師派遣）　北部生涯学習推進センター　講師：我喜屋理事
25水○ 沖縄県社会保険診療報酬支払基金専門薬担当者来訪　県薬会長室　亀谷会長
○ 平成27年度第3回学術研修委員会　県薬研修室　亀谷会長

25水○ 薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業講演会　県薬ホール
26木○ 個別指導　那覇第一地方合同庁舎　吉田理事
○ **平成27年度沖縄県薬剤師会在宅医療支援薬局限定無菌調製の実践講座－TPN・麻薬・抗がん剤－**　県薬ホール
○ 平成27年度第4回広報委員会　県薬会議室
○ 臨床薬剤師育成研修会　(株)琉薬
○ 八重山地区学術講演会　介護老人保険施設「聖紫花の杜」
27金○ 監事監査　県薬会議室　亀谷会長、大城･友利両監事、山里常務理事、(事務局) 山城課長･金城・前原
○ 平成27年度第3回医療安全対策委員会　県薬研修室
○ 日本薬剤師会災害対策委員会　日薬　吉田理事
28土○ 沖縄認知症ネットワーク研究会「第26回学術集会」 県薬
30月○ 組織強化委員会　県薬会議室

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成27年10月

1木○ 衆議院議員比嘉なつみを囲む集い　NBC総合結婚式場　吉田幹事長、神村顧問、山城(事務局)
8木○ 宜野湾市長佐喜真氏訪問　宜野湾市庁舎　亀谷会長、神村顧問、山城(事務局)
12月○ 佐喜真アツシ市長を支援する会・宜野湾市の未来を創る市民の会事務所開き　宜野湾市の未来を創る市民の会本部事務所　山城(事務局)
13火○ 平成27年度第2回全国会長・幹事長拡大会議　ANAインターコンチネンタルホテル東京　亀谷会長、吉田幹事長
○ 全国藤井もとゆき薬剤師後援会第2回役員会　ANAインターコンチネンタルホテル東京　亀谷会長、吉田幹事長
○ 藤井もとゆき君と語る会　ANAインターコンチネンタルホテル東京　亀谷会長、吉田幹事長
29木○ 組織強化に関する担当者全国会議　主婦会館プラザエフ（東京都）　石川副幹事長

平成27年11月

2月○ 医薬品卸業社訪問(琉薬･ダイコー沖縄･スズケン沖縄薬品)　各社　藤井基之氏､亀谷会長、神村顧問、山城（事務局）
3火○ 自由民主党「平和安全法制セミナー」 自治会館　亀谷会長
11水○ 沖縄県薬剤師連盟総務会　県薬研修室
17火○ 中部地区薬剤師会理事会訪問　中部地区薬剤師会事務局　亀谷会長、(事務局) 山城
18水○ 医薬品卸業社訪問（アトル）(株)アトル　亀谷会長、吉田幹事長、山城（事務局）
19木○ 宜野湾市長選挙への推薦状交付　佐喜真アツシを支える市民の会事務所　亀谷会長、山城(事務局)
20金○ 茂木選対委員長・山口組織運動本部長を囲む宜野湾市長選の対策会議　佐喜真アツシを支える市民の会事務所　山城（事務局）
○ 那覇地区薬剤師会理事会訪問　県薬研修室　亀谷会長、山城（事務局）
25水○ 医薬品卸業社訪問（沖縄東邦）　沖縄東邦　亀谷会長・吉田幹事長
27金○ 沖縄県病院薬剤師会役員会訪問　琉球大学医学部附属病院　亀谷会長、山城（事務局）
29日○ 沖縄県登録販売者協会生涯学習研修会訪問　県薬ホール　亀谷会長、山城（事務局）

お知らせ

九州厚生局沖縄事務所移転について

日頃より、厚生行政については、皆様の格別の御理解並びに御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、九州厚生局沖縄事務所は、**平成27年11月24日（火）**に、下記のとおり事務所を**移転**しましたのでお知らせいたします。

なお、移転に伴い、電話番号、ＦＡＸ番号が変更となりましたので、おかけ間違いや送り間違いにご注意ください。

九州厚生局沖縄事務所長

記

1．移転先

住　　所　〒900-0022
　　那覇市樋川1-15-15　那覇第一地方合同庁舎西棟2階
電　　話　098-833-6006
ＦＡＸ　098-833-6250
交通アクセス　モノレール：壺川駅より徒歩約15分　　県庁前駅より徒歩約20分
　　バ　　ス：那覇高校前バス停より徒歩約5分

2．業務開始日　平成27年11月24日（火）

3．注意事項

◎移転先の那覇第一地方合同庁舎へ入館の際には、受付カウンター（1階）で入館手続きを行ってください。

◎駐車台数に制限がありますので、公共交通機関のご利用をお願いします。

【移転先】

“新老人とは”

かつて沖縄は日本一の長寿県で、他県から羨ましがられていたものであった。温暖な気候と、ゆったりと流れる時間、そして何よりも食事である。太陽の恵みをいっぱいに受けた野菜類、豚肉と独特の調理法で自然の理にかなった生活が長寿社会を創ったのであろう。

ところが、昭和50年代には男女ともに長寿日本一であったのが、平成12年に26ショックというのがあった。これは男の長寿番付が1位から26位に急落したのである。その筋の関係者は勿論であるが、多くの県民が唖然としたものである。何でこうなったの？どうして・・・・・と言っている内に、平成17年には男性が30位、女性が3位と順位を落としたのである。

その理由は色々考えられるのである。そのひとつは、先人達が伝えて来た伝統食生活が崩れたのだろうか？家で地元の食材を使ってティアンダー※をかけて食卓を囲むことが減って来たのかなぁー。外に出てファーストフードを楽しむ。友人、知人でランチバイキングで歓談する。これがナウいライフスタイルなのだろうか。ついつい油っぽいものが多いようである。ハンバーグ類、パスタなどを子供のうちから大量に摂取していると、大人になってからメタボになるのは必至であろう。メタボは高血圧、動脈硬化、糖尿病などを引き起こす生活習慣病である。沖縄は数十年前から、このスパイラルに陥ったのであろうか。

さらに、健康維持と増進に一番良い「歩く」という事が少ないようである。鉄軌道の無い沖縄では、生活が落ち着いて少し豊かになり、モーターリゼーションの普及もあって、各家庭に2 ～ 3台の車があるのはあたり前で、町に車が溢れている。便利さに負けて人間の本能である「歩く」が軽んじられるのである。かなり前のことだが、東京から従兄弟が来沖した。母方の親戚の家を訪ねた時、ヘビースモーカーの彼がタバコを切らした。「ちょっとタバコを買って来ます」と言うと、家人が「私が買って来ます。100m位の所に店がありますから・・・」と出て行く。すぐに車のエンジンの音がする。戻って来た家人に「車の音がしたが・・・・」と聞くと、「ハイ、車で行きました」という返事。“100mまで車を出す”、これは彼には驚きのことであった。ちなみに彼は、長い距離を歩いて駅まで行きホームを上ったり、下りたりして、又、駅から長い距離を歩いて会社へ出勤が日常である。「沖縄では車は下駄のようなものですネ」と言った。「沖縄って歩かない県なんだネ」とテレビコマーシャルのフレーズが流れるのである。こんな訳でこの頃、心ある学者や県民が食生活を見直し、生活の中にノーカーデーを取り入れ、歩きを見直すことで、かつての長寿ナンバーワンを取り戻そうという事が盛り上がってきた。

この頃、平均寿命は男80.5歳、女86.83歳と言う数字が出てきた。これは小生も平均寿命に、あと数年となって複雑な思いが胸をよぎるものである。同級生、友人達の中にも、既に終活を始めている人達が少なくない。少子高齢化社会の到来で、老人達の生活は不安定要素が多くなり過ぎている。今、老人1人を6名の若者が支える構図になっている。これから増々分子にあたる老人が増え、分母の若者が減ることは必至であろう。人間は生老病死のライフサイクルから逃れる事はできない。老いの次にくる病は、加齢による細胞の老化、機能の低下から様々な病気が発生する。ガンや認知症に代表される病気になると、治療や介護に、生活の上に、想定外の事が起こる。家族にのしかかる負担、多大な費用、特にお金の面ではとても年金では間に合わない。入所施設も足りず、行き場が無く路頭に迷うことになる。下流老人という言葉もあるらしい。若い時、子供を育て、仕事に頑張り、社会に貢献したのだから老後は心安らかにゆったりした日々を送り、小さな満足で

終末を迎えさせて欲しいものである。政治家達はこんな社会づくりに専念してくれよ。三本の矢と言わずに､4本でも5本でもよい。只、見せるだけでなく放って欲しいものだ。

さて、知る人ぞ知るスーパー老人がいらっしゃる。104歳にして未だに現役の医師である。日野原重明先生である。先生は1970年に起きた“よど号ハイジャック事件”で、よど号に乗り合わせて異常な体験をした。極限状態の機内はパニックとなり、唯々恐怖の時間が過ぎる中にあってのパイロットの冷静な態度、乗客の身代わりになって平城へ飛ぶことになった山村運輸政務次官の決断などに触れた。金浦空港で解放された時、タラップを降り、土を踏みしめた時、全身に霊感を感じたという。生命とは時間である。この生命・時間は人と社会のために使おうと決心したという。これが人生のターニングポイントになったのだろう。この日野原先生が11月1日に来沖し、講演会が開催されたのである。先生は10数年前に新老人運動を提唱し実践されてきた。つまり、定年になっても尚、社会を支える分母に踏み止まって持てる時間（生命）と知識を活用しようという。75歳まで、いやそれ以上でも構わないというのである。13年前に立ち上げた新老人の会は、今や46都道府県に支部を置くまでになった。新老人運動には5つの目標があるという。①自立、②世界平和、③自分を研究に、④会員の交流、⑤自然に感謝、である。日野原先生は杖をついて、いや、杖を持って舞台に上がられた。チャップリンが好きとのことであるから、杖ではなくステッキなのだ。チャップリンよろしくステッキをクルクルと回す。素敵である。いきなりの大元気のアピールに拍手が湧く。104歳の人生の大家の発する言葉に、聴衆は引き付けられるのである。こんな話もあった。「沖縄は、70年前の大戦で20万人以上の尊い命を失った。だから沖縄から世界に平和を発信すべきである。沖縄をパラダイスにしよう」こんな言葉もあった。「動物は走り方を、鳥は飛び方を変えられないが、人間は生き方を変えられることができる」と強調した。先生の手帖には数年先までの講演の予定がビッシリ記されているという。先生は、生きることに大いに情熱を燃やすスーパーマンであろう。多くの感動を与えてくれた。

人は生き方を変えることができるということを念頭に、冬の夜長、物思いにふけるのも良しかな。

橋の下

※ティアンダー:沖縄の方言で直訳すると「手の油」。
心を込める、愛情を込めることを意味する。

お知らせ

＊＊＊ 表紙に掲載の写真『世界の薬局』を大募集！＊＊＊

本会報誌おきなわ薬剤師会報の表紙は、『世界の薬局』シリーズとなっています。
会員の皆様、海外へ行かれた際は是非その地の薬局を撮影して、本誌へご投稿下さい。

誌上ギャラリー（裏表紙）について

上：「ナビィおばぁの家」photo by 笠原 大吾（福寿薬局）　　撮影地：粟国島

地元沖縄では史上最高の動員を記録した1999年劇場公開の映画“ナビィの恋”で、ナビィおばぁの家としてロケに使用された粟国島の旧家。撮影後15年以上もたって、特に説明もなくひっそりと島の中の景色として溶け込んでいました。

下：「子供たちの声を聞きながら～小児糖尿病キャンプにて～」

photo by 古謝 さなえ（琉球大学医学部附属病院）　　撮影地：あざまサンサンビーチ（南城市知念）

海水浴日和。太陽に負けないくらい、子供たちの笑顔が眩しい1日になりました。

編　集　後　記

鹿児島で開催された日本薬剤師会学術大会に参加した。知人がイタリアの薬局事情について講演するので応援を兼ねてその雄姿を拝みに行ったのだが、鹿児島市とイタリアのナポリが姉妹都市だということを知り、驚いた。(9月にイタリアを訪れてすっかり親伊家になっていたので) そういえば那覇市の姉妹都市はどこなんだろう。調べたところ、ハワイ州ホノルル市、中国福建省福州市、ブラジルサンパウロ州、国内では日南市、川崎市と姉妹友好都市関係だとわかった。ならば、そこの薬剤師と繋がらない手はない。広報委員ならではの「ハナ」をきかせて何かできることがあるのでは、と鼻息を荒くしているところだ。まずは今年、姉妹都市30年を迎えたホノルルからアプローチしてみる？（笑）　　（クララ）

11月末に北部地区の先生方との交流を深める目的で、中部地区から10名の団体で名護へと乗り込んだ。北部地区の『顔』といっても過言ではない若手3名の先生方に出迎えていただき、誠に感謝感激であった。普段はなかなか交流が難しいなかでの実現で、話に花が咲いてあっという間に時間が過ぎていった。そしてこの日一番の収穫は、北部地区若手3名の『裏の顔』だ。ただ単純に面白い！ぜひ一度は絡んでほしい～　決して不真面目とは言わないが‥笑　ここで名前を挙げて紹介することも考えたけど‥クレームが出そうなので今回は止めておこう（笑）どうしても誰なのか知りたい方は、広報委員までご一報を‥‥　（ごり）

あっという間に一年が過ぎた。今年は国際色豊かな会報となった。今年度最後のリレー随筆はそのしめを飾るような内容となっている。来年は本当に県薬海外視察ツアーが開催されるのでは？とわくわくする。なんて書いた横から「コラッ！」とお叱りの声が聞こえてくる。ドイツのかかりつけ薬局って素晴らしいなんて言っている場合ではない。自分達の足元がぐらついているのだ。11月末に開催された健康サポート事業説明会に参加した同僚に、講師の話の内容を聞いて欲しい。お先真っ暗...ではなく、今が踏ん張りどきなのだ！　　(TOMO)

今年は様々な地域関係者が集まる会議に参加させてもらった年であった。その中で薬剤師＝薬を渡す人というイメージであるのが改めて分かった。なので、○○なこともできますのでぜひ薬局を活用して下さいと発言すると、驚かれることもしばしば。まだまだ薬剤師には伸びしろがあるぞ、地域に貢献できるぞと感じました。来年の診療報酬は我々にとって厳しいと思われますが、顔の見える薬剤師を目指していけば活路はあると信じています。(みつなり)

先日、「症例検討入門」講師の大澤友二先生が授業を行っている九州大学の講義の様子を見学させてもらった。母校なはずなのに、このカリキュラムの違いは何だ!??とひたすら驚いた。SGDでは学生たちが活発な意見を交わしており、ガイドラインや臨床試験に基づいたハイレベルな意見ばかりである。彼らがいずれは後輩になるのかと思うと、恐ろしくもあり、非常に心強い。2月に行われる症例検討会で学生と薬剤師の視点を比較してみたい。(いさ吉)

鹿児島県で開催された日薬学術大会に行ってきた。会場が数カ所に分かれており各々の会場がかなり離れているので、会場間をシャトルバスで移動するというやや不便な大会であった。ランチョンセミナーのお弁当は大変美味しくて大満足であった。県薬から無作為に割り当てられたセミナーのテーマは「薬の専門家としての薬剤師とジェネリック医薬品」で非常に興味深く拝聴し今更ながらの気づきがあった。たとえば「添加物」先発品と後発品の違いとして患者さんに「添加物が違うので･･･」という説明をすることがあるが、先発品でもたとえばガスター錠とガスターD錠、タケプロンカプセルとタケプロンOD錠の添加物は非常に大きく異なっているのに特に気にすることもなく長所だけを説明しているのに、なぜか後発品だと「添加物が違うので･･･」と言ってしまう。そして適応症の違いについて。先発品の「一部」の効能効果や用法用量にまだ特許が存在する場合、後発品はその効能効果・用法用量に関わる適応症などを記載することが出来ない、つまり適応症の違いは医薬品の問題ではなく特許の問題だったとは･･･　（ピアナ）

はや12月となり徐々に寒さを感じ･･･ません。昨年は11月も末に入ればもう少し寒さを感じたような気もするのですが。今年は例年以上に暖冬だろう、とのことです。暖かい冬も過ごしやすいですが、冬には冬の楽しみ方もあると感じる今日この頃。可能なら北海道で極寒を感じながら食べ歩きをしたい、と考えていましたがこれは本当の寒さを知らないものの発言、と家族にお叱りを受けてしましました。旅行好きな諸先輩方に助言をもらい、いずれは海外とも思いましたが言葉の壁が立ちはだかります。真面目に英語を勉強する方が早いか、電子機器のさらなる進歩に期待するか、悩ましいところです。　（松）

今年も残すところあとわずかです。この1年を振り返ると･･･率直な実感として成長したし、楽しかったし、充実したし、愛に満ちた最高の1年を過ごせました♪まだ子供が小さいため、最近はほとんど飲み会に参加できていない私の今年最後の予定は、広報委員会の忘年会です。委員会のメンバーは「箸が転んでもおかしい年頃」のため、なぜか大笑いの連続です。忘年会で活力を得て、来年もまた会員の先生方に寄り添った紙面作りに全力で取り組みたいと存じます。　（三郎）

沖縄県薬剤師会

〒901-1105　沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10　http://www.okiyaku.or.jp　e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

■事　　務　　局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932　■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937
■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946　■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932
■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1　TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567
■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1　TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報 第279号　平成27年12月21日発行

◇次号は、平成28年2月中旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会　会長　亀谷浩昌
編　集：広報委員会　委員長／宮城敦子　委員／亀谷浩昌・池間記世・前濱朋子・砂川智子・鈴木一徳
石川恵市・伊敷松太郎・伊差川サヤカ　久米島通信員／山城晶　宮古地区通信員／前里由紀子
八重山地区通信員／宮良善朗　事務局／大城喜仁
印　刷：有限会社 Skill

誌上ギャラリー（会員作品）お気軽にご投稿下さい。

定価四〇〇円（会員の購読料は含会費）